



神奈川県企業庁
水道部経営課

令和元年度

神奈川県営水道についての
事業所調査報告書

目 次

第1章 調査の概要	1
1. 調査実施の目的	3
2. 調査の概要	3
3. 調査結果を見る上での注意事項	3
4. 標本誤差	4
5. 調査結果の概要	5
(1) 水の使用状況について	5
① 水の種別使用状況及び今後の動向	5
② 水を使用するにあたり一番考慮すること	7
③ 水道施設や水道管の固定費を負担する制度の認知度	8
(2) 今後の水道水使用の見込みについて	9
① 今後の水道水の使用量	9
(3) 県営水道の事業について	11
① 今後の災害対策の進め方の認識	11
② 水道管の更新の取組の認識	12
③ 今後の水道施設の更新及び維持管理	13
(4) 上水道料金の仕組みについて	14
① 上水道料金の仕組み	14
② 水道料金についての知識	15
③ 基本料金・基本水量・従量料金・用途別料金	16
④ 水道利用加入金制度	19
(5) 県営水道の広報活動等について	20
① 水道について知りたい情報	20
② 知りたい情報を入手する手段	21
③ 事業への意見	22
6. 前回調査との比較	23
7. 前回調査の結果（抜粋）	24
第2章 事業所意識調査の結果	25
1. 基本属性	27
(1) 事業所の所在地	27
(2) 事業所の業種	28
(3) 事業所の従業員数	29

2. 水の使用状況	30
(1) 水道水等の使用状況及び今後の動向.....	30
(2) 水道水使用見込み	40
3. 県営水道の事業について	43
(1) 災害対策について	43
(2) 水道管の更新の取組	48
(3) 水道施設の更新及び維持管理に必要な水道料金.....	54
4. 県営水道の上水道料金について.....	62
(1) 上水道料金の意識	62
(2) 基本料金についての意識	65
(3) 基本水量の意識	67
(4) 従量料金についての意識	69
(5) 用途別料金についての意識.....	71
(6) 「水道利用加入金制度」について.....	73
(7) 県営水道の広報活動等について.....	75
5. 自由意見	78
資料1 単純集計結果	81
資料2 調査票	99

第1章 調査の概要

1. 調査実施の目的

県営水道では、お客さまの水使用の動向や意識、ご意見やご要望を把握して、今後の事業運営の基礎資料として活用するために、個人と事業所等のお客さまを対象に標記調査を実施しました。

2. 調査の概要

項目	事業所調査
調査対象	県営水道給水区域内に所在し、業務用料金を適用している、年間使用水量又は下水道排水量が 10,000 m ³ 以上の全事業所（921 事業所）
調査方法	郵送による配布及び回収
調査期間	令和元年11月18日（月）～12月2日（月）
回収結果	有効回収数 630 件（有効回収率 68.4%）
調査内容	水道水等の使用状況、節水状況、県営水道が取り組むべき事業、水道料金の仕組みへの意見、水道事業に関する知りたい情報等

3. 調査結果を見る上での注意事項

- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- ・百分率（%）の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示した。したがって、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合がある。
- ・複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、%の合計が100%を超える場合がある。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・クロス集計の項目に無回答がある場合、これを表示していない。よって全体の数値と各項目の和が一致しない場合がある。
- ・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。

4. 標本誤差

標本誤差は次式で得られ、①比率算出の基数 (n)、②回答の比率 (p) によって誤差幅が異なる。

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{2 \times \frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

N = 母集団数 (20 歳以上人口)
 n = 比率算出の基数 (回答者数)
 p = 回答の比率 (%)

今回の調査結果の標本誤差は下記のようになる。

(p) n	回答の比率	90%または 10%程度	80%または 20%程度	70%または 30%程度	60%または 40%程度	50%程度
	650		±1.81%	±2.41%	±2.76%	±2.95%
630		±1.90%	±2.54%	±2.90%	±3.10%	±3.17%
600		±2.05%	±2.73%	±3.13%	±3.34%	±3.41%
400		±3.19%	±4.26%	±4.88%	±5.21%	±5.32%
200		±5.31%	±7.08%	±8.11%	±8.67%	±8.85%
100		±8.02%	±10.69%	±12.24%	±13.09%	±13.36%

※上表は $\frac{N-n}{N-1} \approx 1$ として算出している。なお、この表の計算式の信頼度は 95% である。

注/この表の見方

標本誤差とは、今回のように全体（母集団）の中から一部を抽出して行う標本調査では、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあり、その誤差のことをいう。この誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、その誤差を数学的に計算することが可能である。その計算式を今回の調査に当てはめて算出したのが、上記の表である。見方としては、例えば、「ある設問の回答者数が 650 人であり、その設問中の選択肢の回答比率が 60% であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも「±2.95%以内 (57.05~62.95%) である」とみることができる。

5. 調査結果の概要

(1) 水の使用状況について

① 水の種類別使用状況及び今後の動向

「水道水以外の水」を使用する事業所は約5割であり、理由は、高い水質を要しない、水道料金が高いというものだった。

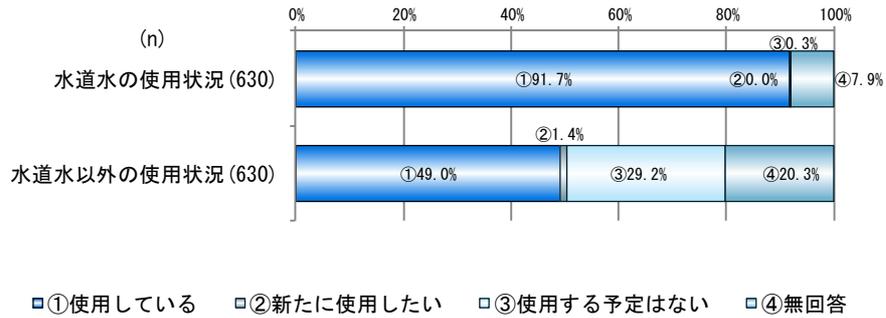


図 1 水の使用状況

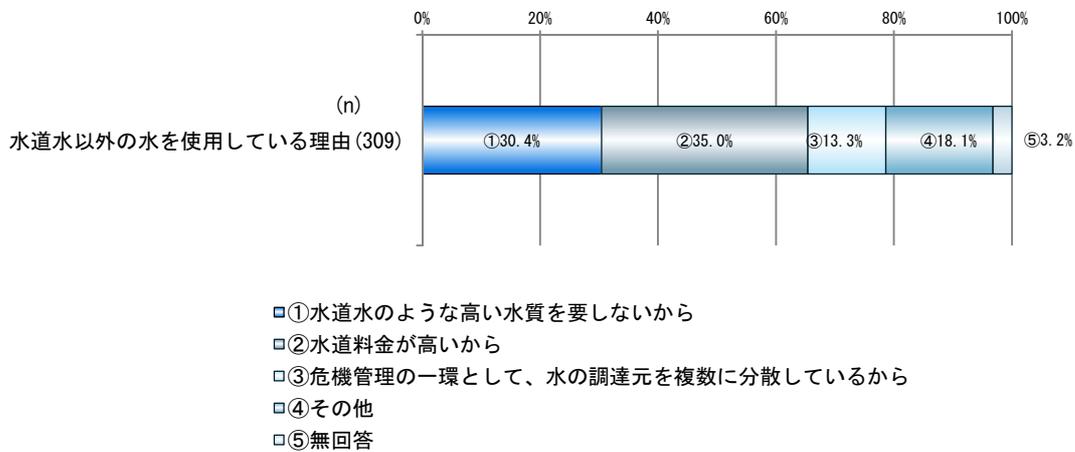
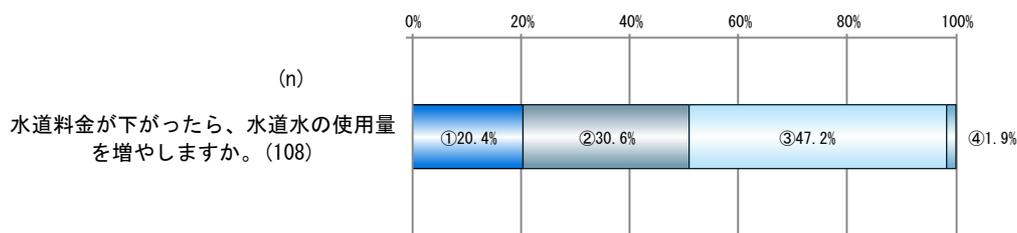


図 2 水道水以外の使用の理由



□①使用量を増やす □②使用量を増やさない □③わからない □④無回答

図 3 水道料金が下がった際の水道水の使用量増意向

◇水道水以外を利用する理由は水道料金や水質の点が大きい

「水道水以外の水」の使用状況の理由は、「水道料金が高いから」（35.0%）と「水道水のような高い水質を要しないから」（30.4%）が3割台で高い。地下水等使用割合別にみると「『水道水以外の水』を9割以上」使用している事業所は「水道料金が高いから」（53.1%）と回答している割合が高くなっている。水道料金が下がった際の水道水の使用量増意向は、「わからない」（47.2%）が最も多く、「使用量を増やさない」（30.6%）、「使用量を増やす」（20.4%）が次いでいる。地下水等使用割合別でみると、「水道水以外を1割」使用している事業所は「使用量を増やさない」（50.0%）と回答している割合が高い。

◇水質の安定性を重視する事業所ほど、水道料金が下がっても「使用量を増やさない」と回答

「導入コスト」を重視している事業所は、水道料金が下がった際、「使用量を増やさない」と回答した事業所はなく、「使用量を増やす」（10.0%）のほうが上回る。

これに対し、「水質の安定性」を重視している事業所は「使用量を増やさない」（39.5%）と回答している割合が「使用量を増やす」（10.5%）に比べて高い。また、「運用コスト」を重視している事業所でも同様に「使用量を増やさない」（34.1%）と回答している割合が「使用量を増やす」（29.5%）を上回っている。

② 水を使用するにあたり一番考慮すること

水を使用するにあたり、約5割の事業所が水質の安定性を一番考慮している。

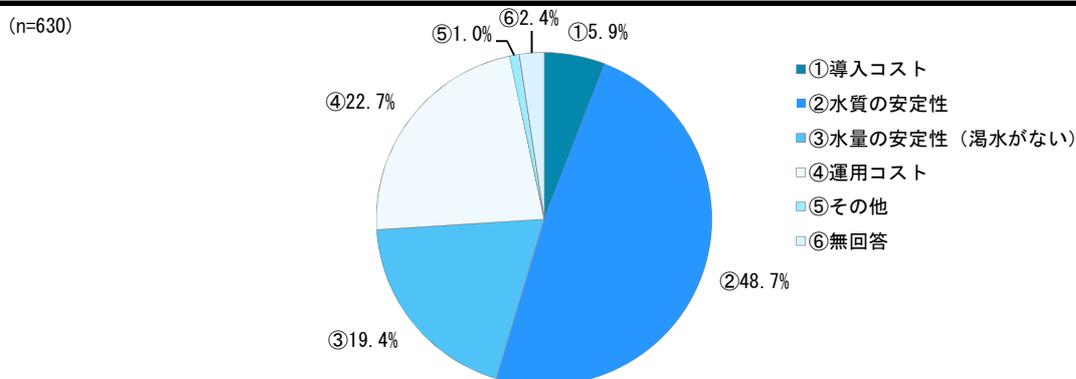


図 4 水を使用するにあたり考慮すること

◇約5割の事業所が「水質の安定性」を一番考慮している

水使用で一番考慮することは、「水質の安定性」（48.7%）が約5割を占める。「運用コスト」（22.7%）、「水量の安定性（湯水がない）」（19.4%）が次いでいる。

◇水道水以外を多く使用する事業所は「運用コスト」重視

地下水等使用割合別にみると、「水道水以外を使用していない」と回答した事業所は「水質の安定性」（59.1%）を重視している傾向にある割合が高い。一方、「水道水以外を9割以上」使用していると回答した事業所は「運用コスト」（35.4%）を重視している傾向にある。

③ 水道施設や水道管の固定費を負担する制度の認知度

7割以上の事業所が、水道施設や水道管の固定費を負担する制度を知らない。

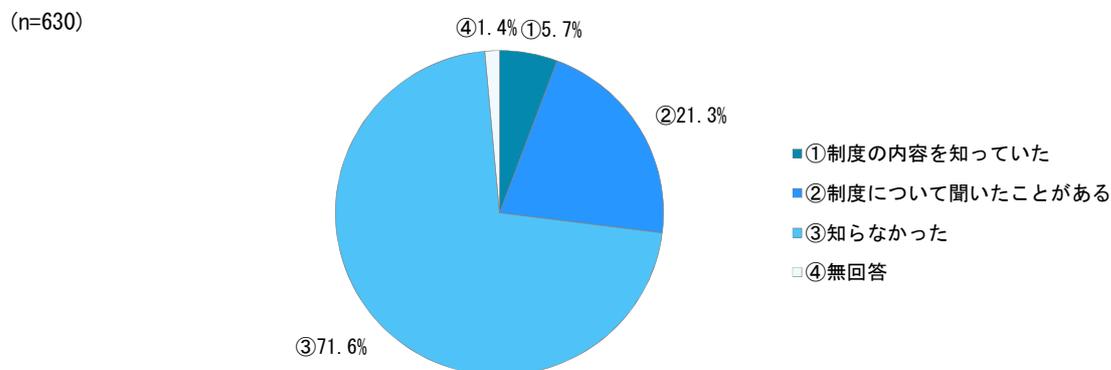


図 5 水道施設や水道管の維持費などの固定費の負担について

◇ 7割以上の事業所が水道施設等の固定費負担に係る制度を知らない

水道施設や水道管の固定費を負担する制度については、「知らなかった」と回答した事業所が7割以上（71.6%）を占めるが、約2割（21.3%）の事業所は「制度の内容を知っていた」と回答した。地下水等使用割合別でも、あまり大きな差はみられない。

(2) 今後の水道水使用の見込みについて

① 今後の水道水の使用量

約8割の事業所が、今後の水道水の使用量は「変わらない」としている。

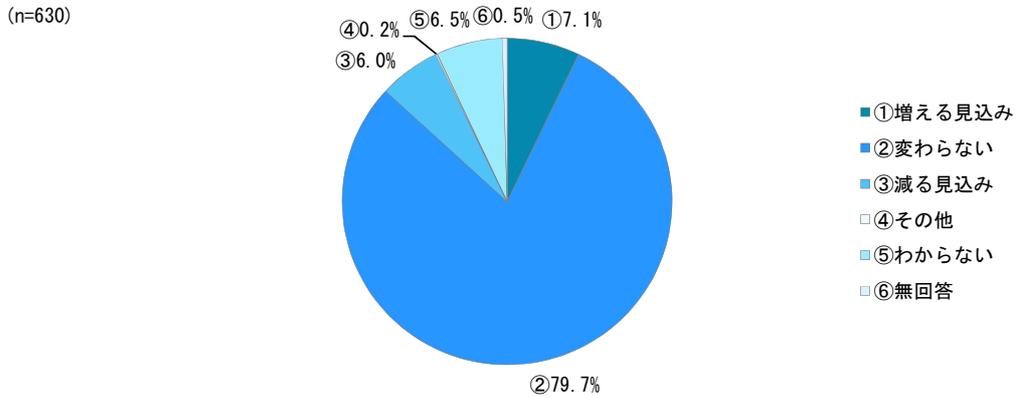


図 6 水道水使用量の見込み

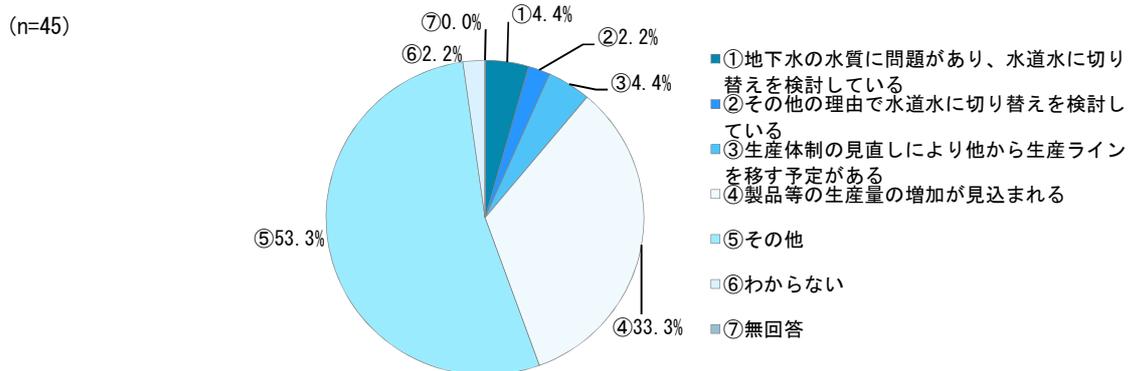


図 7 水道水使用増加見込みの理由

(n=38)

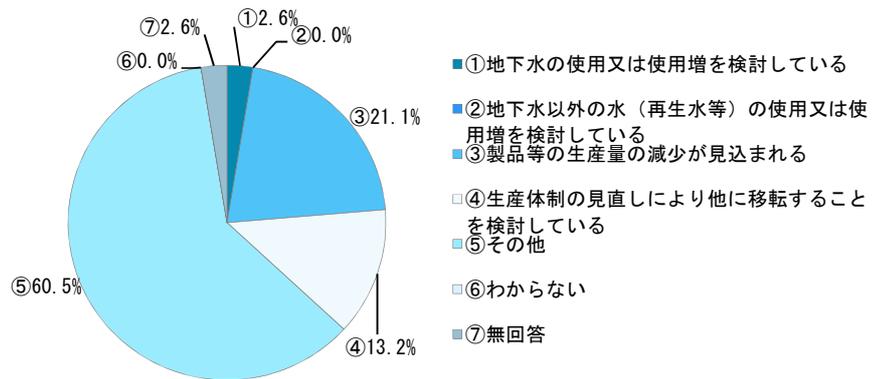


図 8 水道水使用減少見込みの理由

◇約 8 割の事業所で今後の水道水使用量は「変わらない」

今後の水道水の使用量について、地下水等使用割合別にみると、いずれも「変わらない」と回答した事業所が最も多くなっている。一方、「水道水以外を 2～4 割」使用していると回答した事業所の一部は「減る見込み」と 2 割弱（15.9%）が回答している。

◇製品等の生産量の増減が水道水の使用量に影響

今後の水道水の使用量が「増える」見込みの理由は、「その他」（53.3%）が最も多く、「製品等の生産量の増加が見込まれる」（33.3%）が次いでいる。「減る」見込みの理由は、「その他」（60.5%）が最も多く、「製品等の生産量の減少が見込まれる」（21.1%）、「生産体制の見直しにより他に移転することを検討している」（13.2%）が次いでいる。

(3) 県営水道の事業について

① 今後の災害対策の進め方の認識

約8割の事業所が、「災害対策は今を超える水準で進める」と回答している。

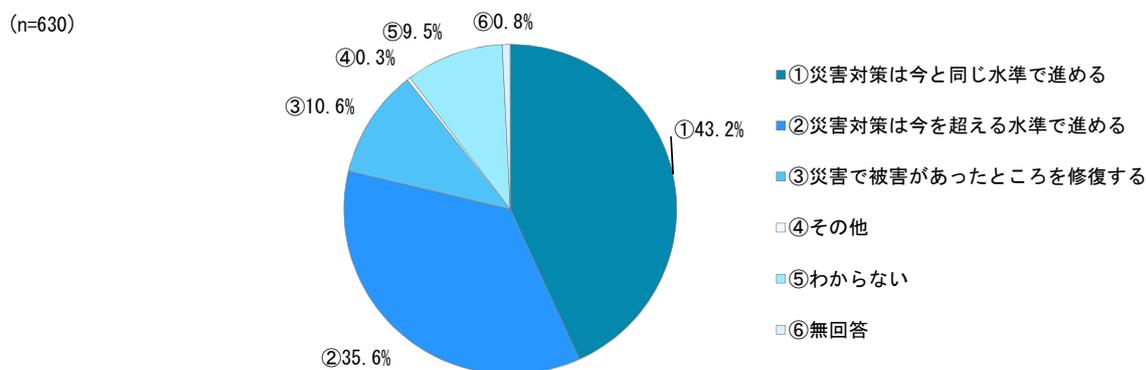


図 9 今後の災害対策

◇8割近くの事業所が今以上の災害対策を望んでいる

今後の災害対策の進め方は、「災害対策は今と同じ水準で進める」(43.2%)が最も多く、「災害対策は今を超える水準で進める」(35.6%)と合わせると8割近くの事業所が今以上の水準の災害対策を望んでいる。

◇水道水の使用割合が比較的高い事業所は「今を超える水準」と回答した割合が高い

地下水等使用割合別にみると、「水道水以外を使用していない」「水道水以外を1割」と回答した事業所は「災害対策は今を超える水準で進める」と回答している割合が高い。

◇水量の安定性を重視する事業所は「今を超える水準」と回答した割合が高い

導入コストを重視している事業所は、今後の災害対策の進め方について「災害対策は今と同じ水準で進める」(56.8%)と回答している割合が高い一方で、水量の安定性(湯水がない)を重視している事業所は「災害対策は今を超える水準で進める」(41.8%)と回答している割合が比較的高い。

② 水道管の更新の取組の認識

100年に1回のペースにスピードアップを望んでいる事業所が約5割になる。

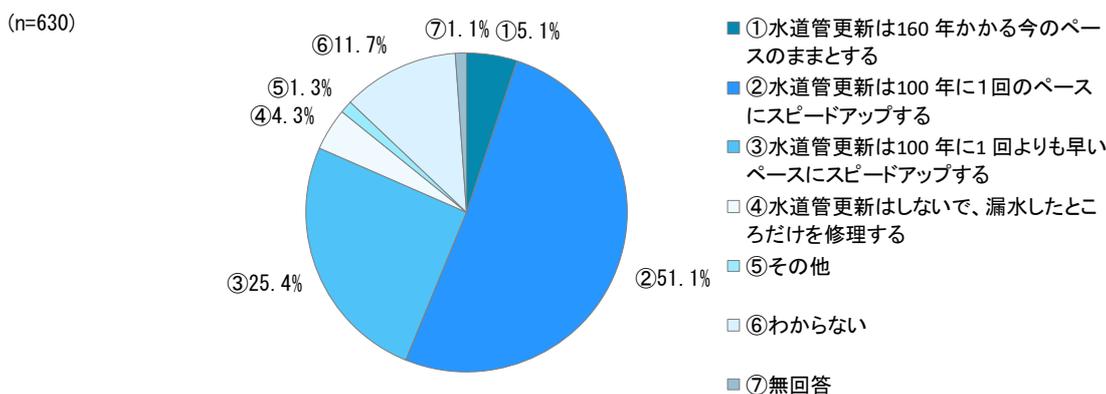


図 10 水道管の更新の取組

◇約8割の事業所が水道管の更新のペースアップを望んでいる

水道管の更新の取組については、「100年に1回のペースにスピードアップする」(51.1%)が最も多く、「水道管更新は100年に1回よりも早いペースにスピードアップする」(25.4%)と合わせると、年間更新率1%以上のペースへのスピードアップを回答した事業所が約8割を占める。

◇水道料金を安いと思っている事業所は水道管更新のより早いペースアップを望む割合が高い

地下水等使用割合別にみると、いずれに関しても「水道管更新は100年に1回のペースにスピードアップする」が5割以上と最も高くなっているが、「水道水以外を使用していない」と回答した事業所に関しては「水道管更新は100年に1回よりも早いペースにスピードアップする」(29.0%)と回答している割合が比較的高い。また、現在の水道料金について「安いと思う」と回答した事業所に関して「水道管更新は100年に1回よりも早いペースにスピードアップする」(40.0%)と回答している割合が比較的高い。

③ 今後の水道施設の更新及び維持管理

今の水道料金の範囲で、更新・維持管理を行うとした事業所が約 50%である。
水道料金が上がっても必要な更新・維持管理を行うとした事業所も約 40%である。

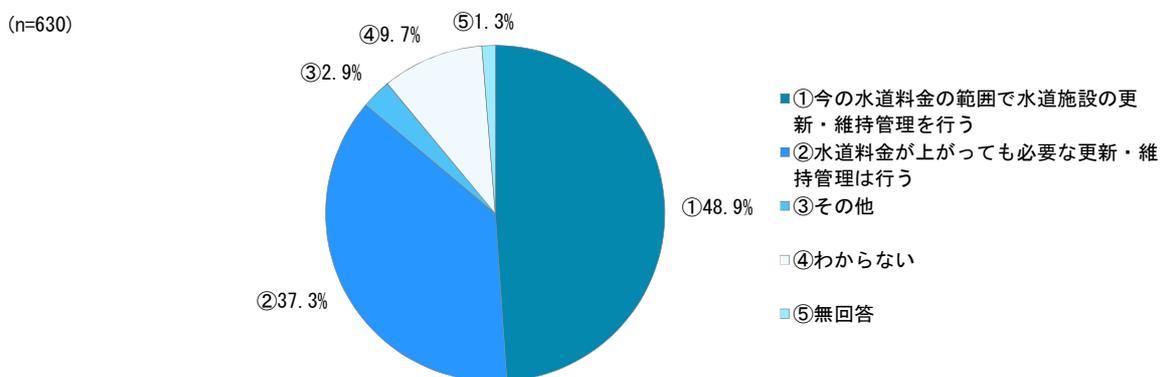


図 11 今後の県営水道の水道施設の更新及び維持管理

◇約 4 割の事業所で水道料金が上がっても必要な更新や維持管理を望んでいる

今後の水道施設の更新及び維持管理については、「今の水道料金の範囲で水道施設の更新・維持管理を行う」が約 5 割（48.9%）を占めるが、「水道料金が上がっても必要な更新・維持管理は行う」を回答した事業所が約 4 割（37.3%）ある。

◇特に従業員が多い事業所では更新や維持管理に積極的

従業者数別にみると、従業者が 301 人以上の事業所は「水道料金が上がっても必要な更新・維持管理は行う」（47.9%）と回答した割合が高い。

◇水道料金を安いと思っている事業所は更新維持管理に積極的

運用コストを重視している事業所は、水道施設の更新及び維持管理について「今の水道料金の範囲で水道施設の更新・維持管理を行う」（54.5%）と回答している割合が高い。現在の水道料金について「高いと思う」と回答した事業所もまた、水道施設の更新及び維持管理について「今の水道料金の範囲で水道施設の更新・維持管理を行う」（61.2%）と回答している割合が高い。一方、「安いと思う」と回答した事業所は、「水道料金が上がっても必要な更新・維持管理は行う」（93.3%）と回答している割合が高い。

(4) 上水道料金の仕組みについて

① 上水道料金の仕組み

5割以上の事業所が、現在の水道料金を適正だと考えている。

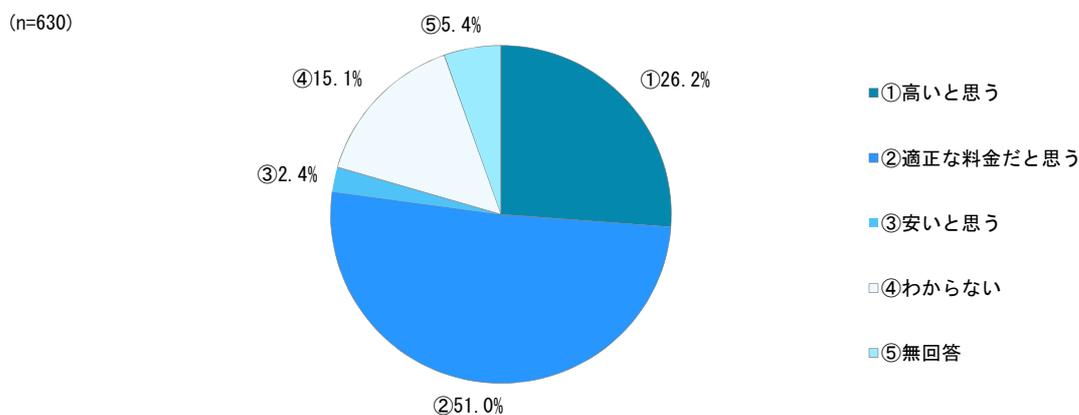


図 12 上水道料金の意識

◇水道料金は5割以上の事業所で「適正だと思う」

上水道料金については、「適正な料金だと思う」(51.0%)が最も多く、5割以上の事業所で適正な料金だという認識だった。

◇運用コスト重視の事業所の約4割で「高い」という認識

従業者数別にみると、従業者が「9人以下」の事業所は「適正な料金だと思う」(63.2%)と回答した割合が高く、一方、運用コストを重視している事業所は、上水道料金について「高いと思う」(38.5%)と回答している割合が高い。

② 水道料金についての知識

水道料金についてのすべての項目について、約5割以上の事業所が知っている。

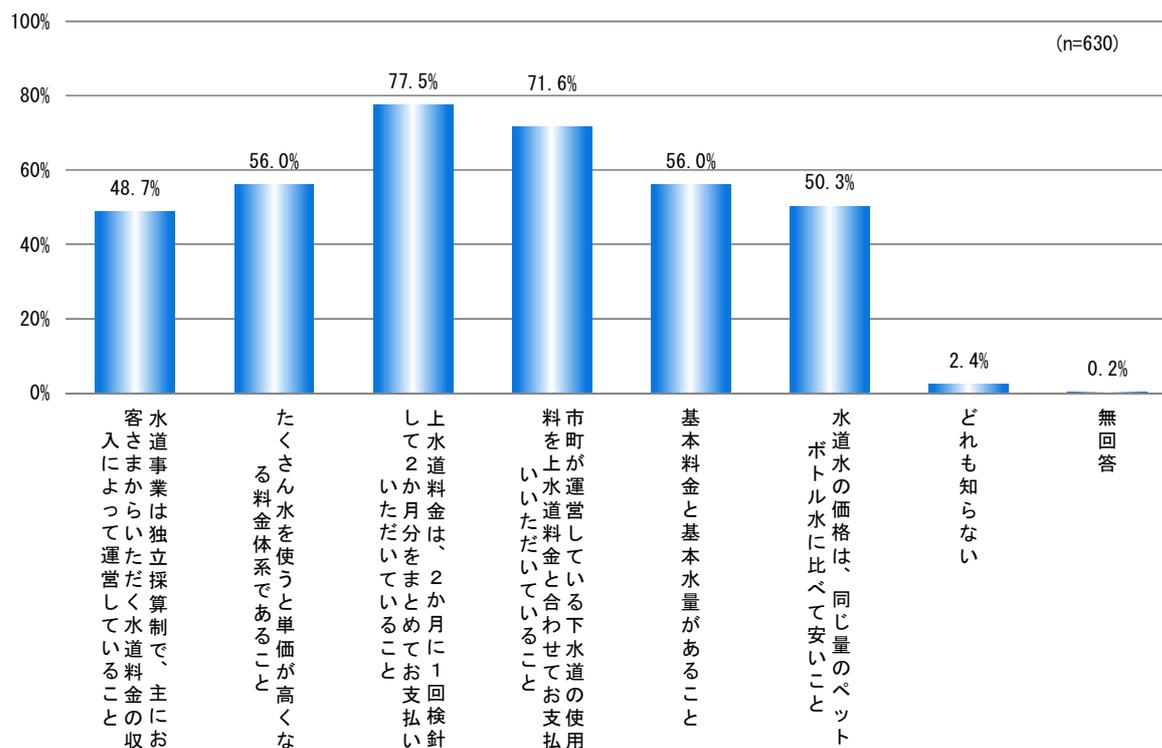


図 13 上水道料金の知識【複数回答】

◇水道料金についてのすべての項目について約5割以上の事業所が知っている

水道料金については、6項目すべて、5～8割程度の事業所が知っていると回答した。特に、支払いに関する項目については、約8割の認知度と非常に高かった。

③ 基本料金・基本水量・従量料金・用途別料金

現行の「基本料金」・「基本水量制」のままでよいという回答が多い。

「従量料金」については今の単価でよいという回答が約4割を占めるが、「逡減制」あるいは「単価一律」への見直しを望む声もある。

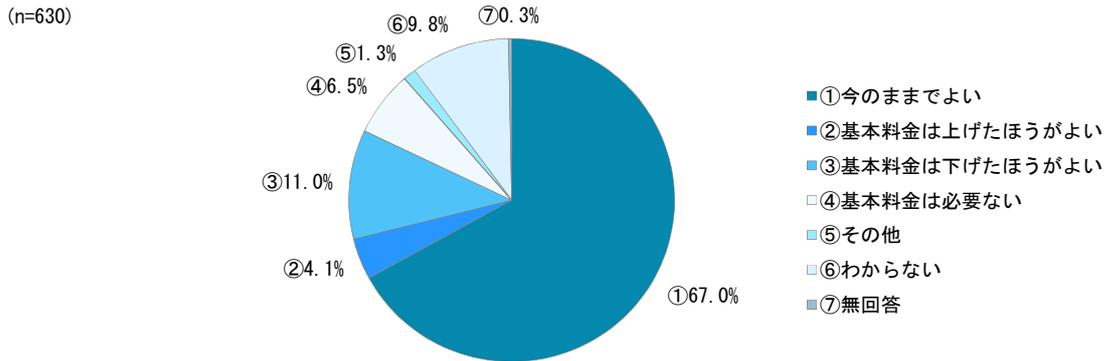


図 14 基本料金についての意識

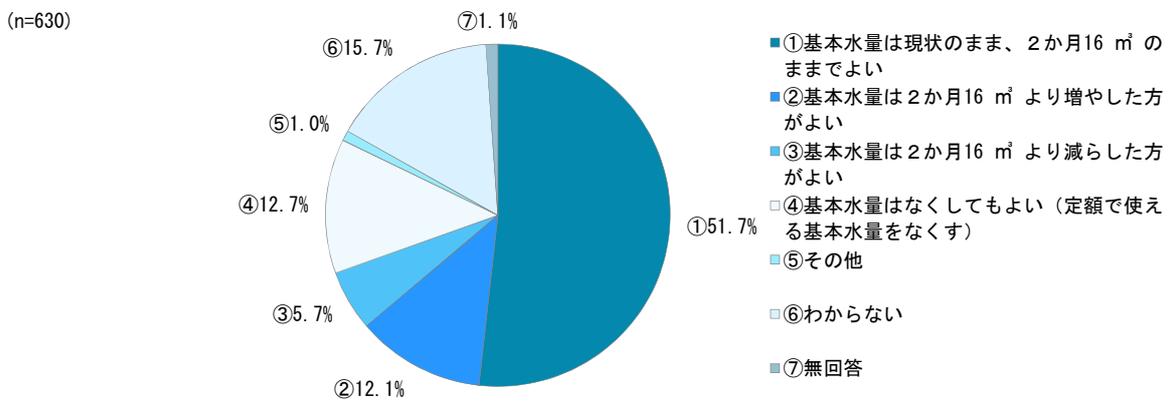


図 15 基本水量についての意識

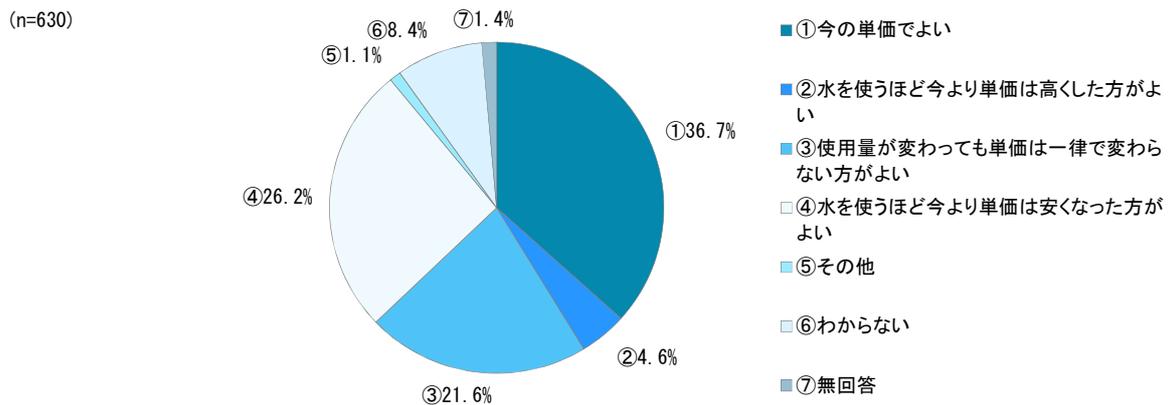


図 16 従量料金についての意識

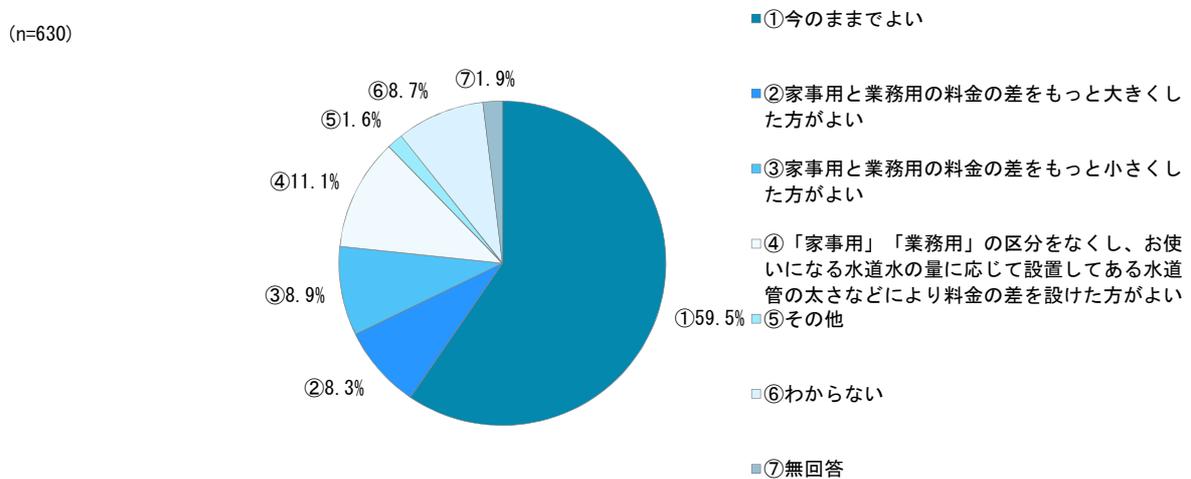


図 17 用途別料金についての意識（料金体系の考え方）

◇基本料金は「今のままでよい」という事業所が約7割

基本料金については、「今のままでよい」と回答した事業所が約7割（67.0%）を占めており、次に約1割（11.0%）の事業所が「基本料金は下げたほうがよい」を回答している。水道料金の意識別でみると、「適正な料金である」と回答した事業所は、基本料金について「今のままでよい」（74.8%）と回答している割合が高い。

◇基本水量は「現状のままでよい」という事業所が約5割

基本水量については、「基本水量は現状のまま、2か月16 m³のままでよい」と回答した事業所が約5割（51.7%）で、「わからない」（15.7%）、「基本水量はなくしてもよい（定額で使える基本水量をなくす）」（12.7%）、「基本水量は2か月16 m³より増やした方がよい」（12.1%）が次いでいる。水道料金の意識別でみると、「適正な料金である」と回答した事業所は、基本水量について「基本水量は現状のまま、2か月16 m³のままでよい」（58.6%）と回答している割合が高い。

◇従量料金について「今の単価でよい」という事業所が約4割

従量料金については、「今の単価でよい」(36.7%)、「水を使うほど今より単価は安くなった方がよい」(26.2%)がそれぞれ約3割で高い。水道料金の意識別でみると、「適正な料金である」と回答した事業所は、従量料金について「今の単価でよい」(51.1%)と回答している割合が高い。一方、安いと思うと回答した事業所は、「水を使うほど今より単価は高くした方がよい」(33.3%)、「使用量が変わっても単価は一律で変わらない方がよい」(33.3%)と回答している割合がそれぞれ高い。

◇料金体系について現在の用途別料金のままでよいと考えている事業所は約6割

用途別料金について、「今のままでよい」が最も多く、約6割(59.5%)を占めている。水道料金の意識別でみると、「適正な料金である」と回答した事業所は用途別料金について「今のままでよい」(71.7%)と回答している割合が高い。一方、「安いと思う」と回答した事業所は、「家事用と業務用の料金の差をもっと大きくした方がよい」(33.3%)と回答している割合が高い。

④ 水道利用加入金制度

約4割の事業所が、水道利用加入金制度を知っている。

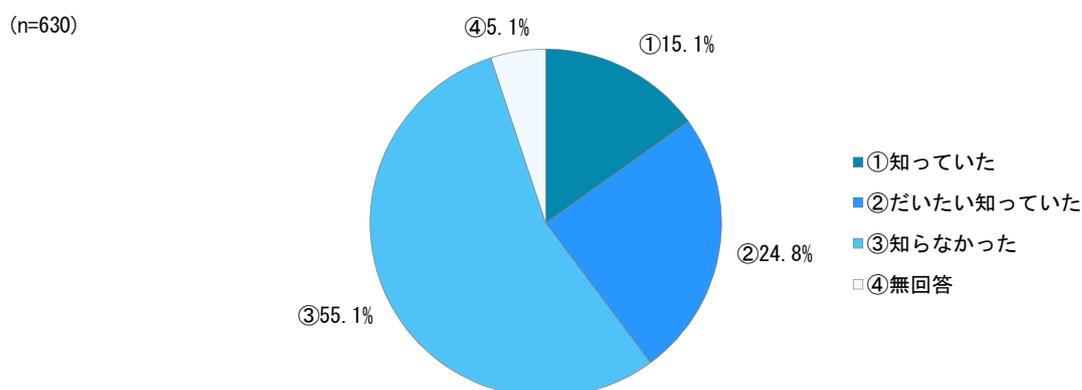


図 18 「水道利用加入金制度」についての認知度

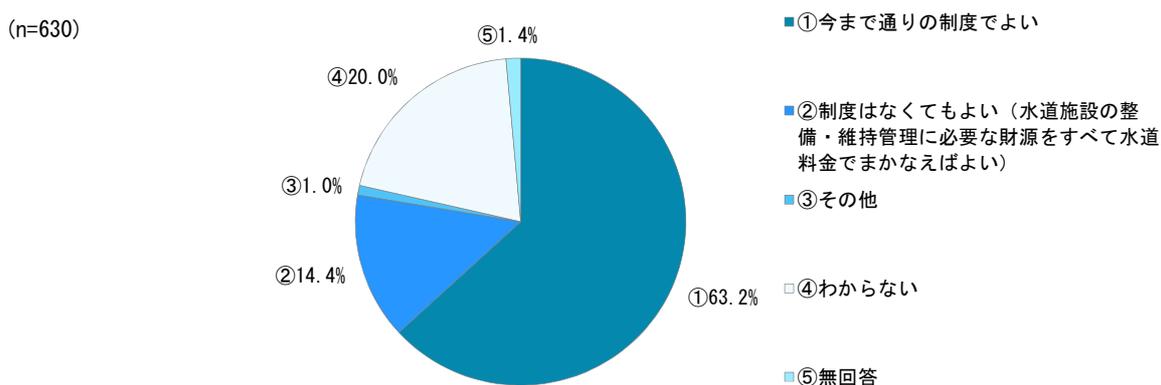


図 19 「水道利用加入金制度」についての意識

◇水道利用加入金制度の認知度は約4割

水道利用加入金制度の認知度は、「大体知っていた」（24.8%）「知っていた」（15.1%）と回答した事業所が約4割を占める。水道利用加入金制度については、「今まで通りの制度でよい」（63.2%）が最も多い。水道料金の意識別でみると、「適正な料金である」と回答した事業所は、水道利用加入金制度について「今まで通りの制度でよい」（74.1%）と回答している割合が高い。

(5) 県営水道の広報活動等について

① 水道について知りたい情報

「災害対策・危機管理」と「災害時の給水拠点情報」が約6割と高く、『災害』に関する情報が、知りたい情報である。

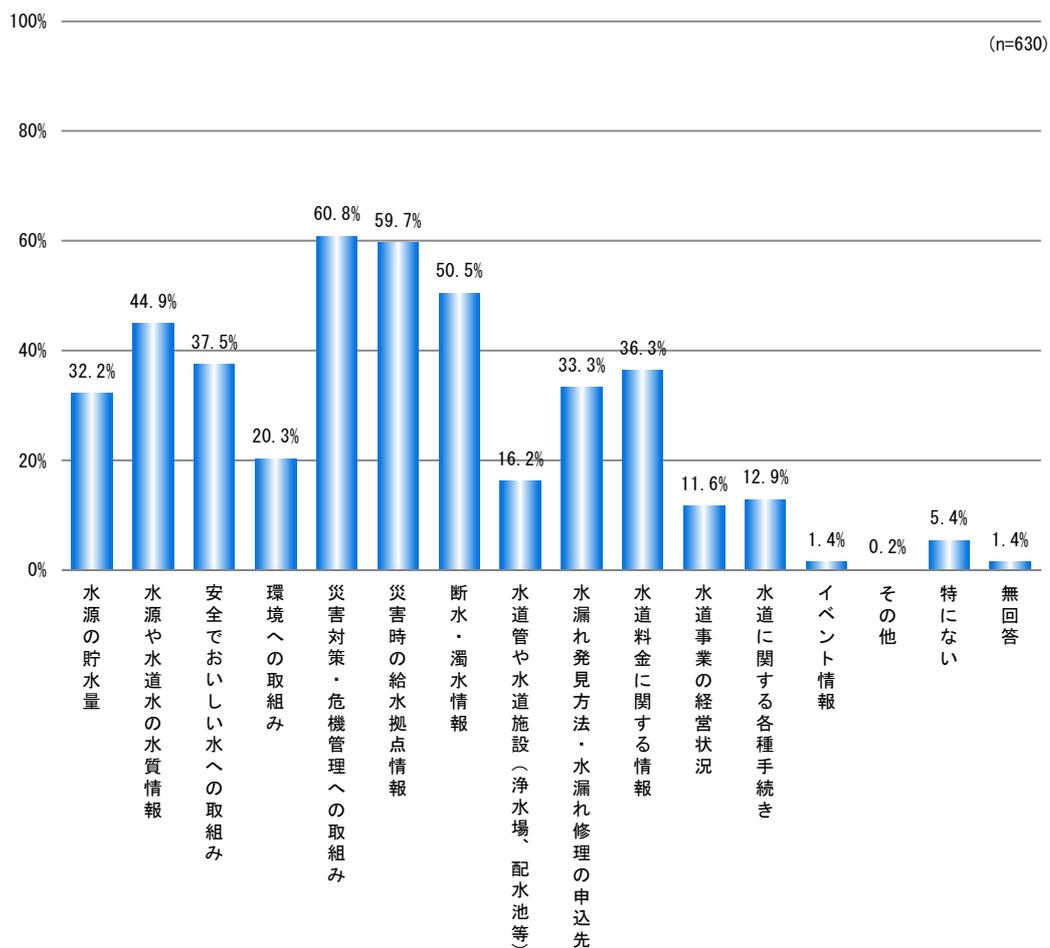


図 20 県営水道の取得したい情報

◇災害関連の情報が最も求められている

水道について知りたい情報は、「災害対策・危機管理への取組み」（60.8%）と「災害時の給水拠点情報」（59.7%）の回答が多く、災害関連の情報が最も求められている。

② 知りたい情報を入手する手段

知りたい情報を入手する手段としては、県営水道のホームページが多い。

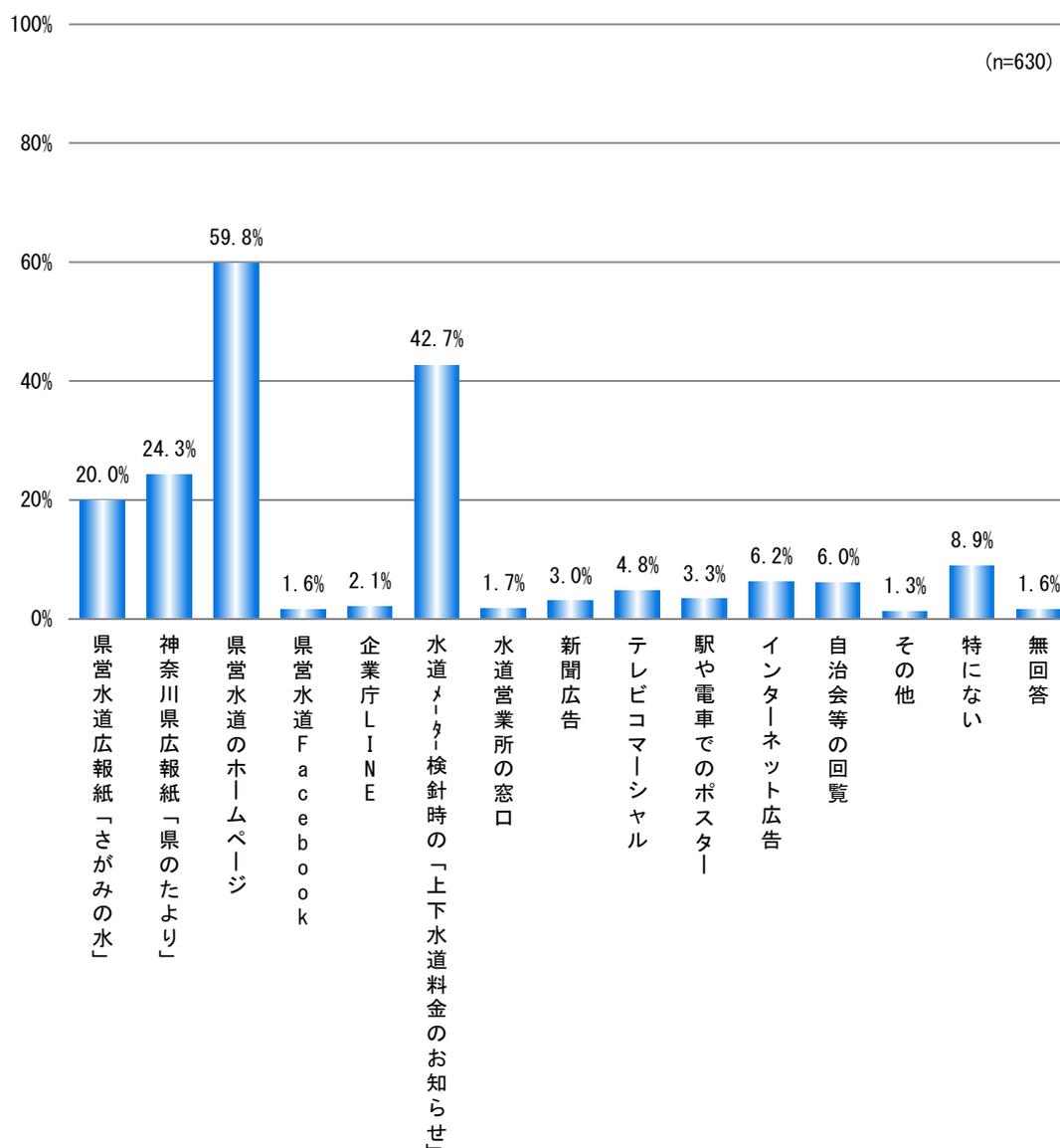


図 21 県営水道の情報を知る手段

◇情報を知る手段はホームページが6割

県営水道に関する情報を知る手段は、「県営水道のホームページ」(59.8%)が最も多く、「水道メーター検針時の『上下水道料金のお知らせ』」(42.7%)が次いでいる。

③ 事業への意見

「災害に強い水道づくり」「老朽化した水道管の更新」「安全でおいしい水づくり」「水道料金の低価格維持」については、約9割以上の事業所が重要であると考えている。

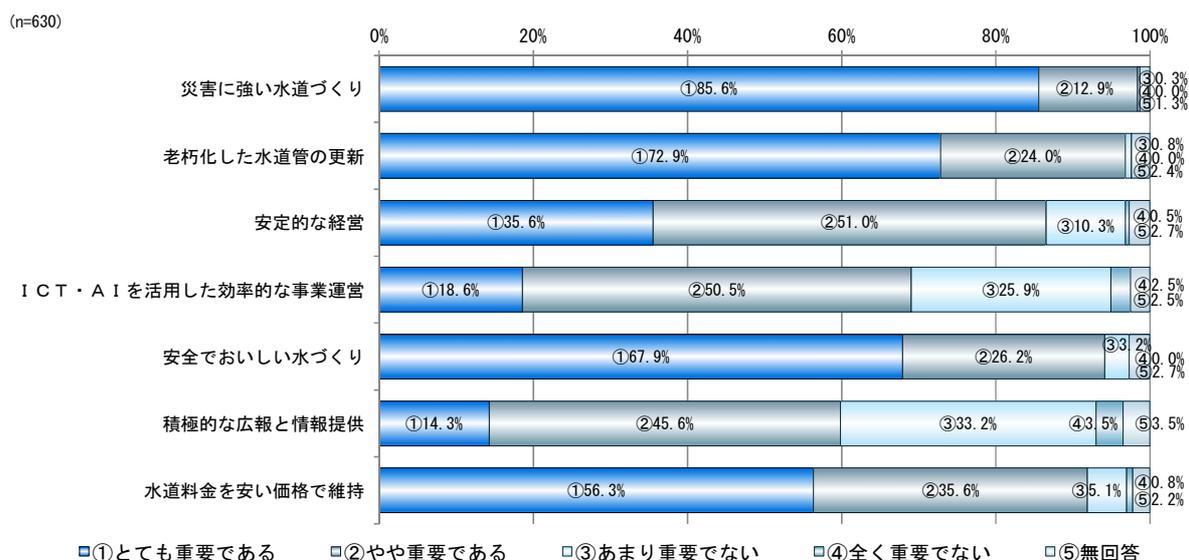


図 22 県営水道が行っている事業

◇約7割の事業所で県営水道の事業について重要だと認識

県営水道が行っている事業については、「とても重要である」と「やや重要である」を合わせると、「県営水道の取組についての積極的な広報及び情報提供」以外の全項目について約7割以上の事業所が重要であると認識している。

◇特に災害対策や水質の維持が重要視されている

「地震や豪雨などの災害に強い水道づくり」「老朽化した水道管の更新」と「安全でおいしい水づくり」「水道料金を安い価格で維持している」については、「とても重要である」と「やや重要である」を合わせると、約9割以上の事業所が重要であると考えている。

6. 前回調査との比較

本調査の結果を、前回調査（平成 28 年度神奈川県営水道についての事業所調査）の結果と比較した。なお、前回調査とは使用した調査票の設問および選択肢が異なるため、一部の設問の比較にとどめた。

(1) 県営水道に関して知りたい情報【問 16】＜前回調査 問 17＞

県営水道に関して知りたい情報は、「断水・濁水情報」（前回調査時 36.4%→今回調査時 50.5%）が約 14%と最も割合が増えた。

また、「安全でおいしい水への取組み」（前回調査時 25.9%→今回調査時 37.5%）が 11.6%、「水源や水道水の水質情報」（前回調査時 35.2%→今回調査時 44.9%）が 9.7%それぞれ増加しており、災害とともに水質への関心も高まっている。

また、水道についての関心が高まったためか、「水道料金に関する情報」（前回調査時 26.7%→今回調査時 36.3%）も 9.6%増加している。

(2) 県営水道に関する情報を知る手段【問 17】＜前回調査 問 18＞

県営水道の情報を知る手段について、「水道メーター検針時の『上下水道料金のお知らせ』（前回調査時 35.3%→今回調査時 42.7%）」は約 7%割合が増えた。

一方、「神奈川県広報紙『県のたより』（前回調査時 32.8%→今回調査時 24.3%）」が 8.5%、「県営水道広報紙『さがみの水』（前回調査時 27.2%→今回調査時 20.0%）」が 7.2%、いずれも割合が減少しており、事業所の情報を得る手段としての紙媒体離れを示している。

その他、「企業庁LINE」が新しく加わっている。

7. 前回調査の結果（抜粋）

水道事業について知りたい情報

【問 11】 水道に関して知りたい情報は次のどれですか。

（いくつでも選び、○をつけてください。）（N=640）

(%)

1. 水源の貯水量	24.4	9. 水漏れ発見方法・水漏れ修理の申込先	30.9
2. 水源や水道水の水質情報	35.2	10. 水道料金に関する情報	26.7
3. 安全でおいしい水への取組み	25.9	11. 水道事業の経営状況	9.7
4. 環境への取組み	21.9	12. 水道に関する各種手続き	9.1
5. 災害対策・危機管理への取組み	60.6	13. イベント情報	1.9
6. 災害時の給水拠点情報	60.3	14. 特になし	4.1
7. 水道管や水道施設(浄水場、配水池、 ポンプ所など)の更新への取組み	25.5	15. その他（具体的に： 無回答	0.6 1.6
8. 断水・濁水情報	36.4		

【問 12】 【問 11】 で○をつけた情報をどのようにして知りたいですか。

（いくつでも選び、○をつけてください。）（N=640）

(%)

1. 県営水道広報紙「さがみの水」	27.2	7. 新聞広告	8.9
2. 神奈川県広報紙「県のたより」	32.8	8. テレビコマーシャル	9.4
3. 県営水道のホームページ	63.7	9. 駅でのポスター掲示	3.8
4. 県営水道 Facebook	4.8	10. インターネット広告	11.3
5. 「上下水道料金のお知らせ」の裏面	35.3	11. 自治会等の回覧	10.1
6. 水道営業所の窓口	2.2	12. その他（具体的に： 無回答	1.7 1.2

第2章 事業所意識調査の結果

1. 基本属性

(1) 事業所の所在地

表 1 事業所の所在地【単数回答】

居住地	回答数	構成比
1. 愛川町	10	1.6%
2. 厚木市	66	10.5%
3. 綾瀬市	21	3.3%
4. 伊勢原市	28	4.4%
5. 海老名市	33	5.2%
6. 大磯町	4	0.6%
7. 小田原市	4	0.6%
8. 鎌倉市	33	5.2%
9. 相模原市中央区	43	6.8%
10. 相模原市南区	45	7.1%
11. 相模原市緑区	30	4.8%
12. 寒川町	14	2.2%
13. 逗子市	8	1.3%
14. 茅ヶ崎市	36	5.7%
15. 二宮町	1	0.2%
16. 箱根町	30	4.8%
17. 葉山町	5	0.8%
18. 平塚市	69	11.0%
19. 藤沢市	91	14.4%
20. 大和市	45	7.1%
21. 無回答	14	2.2%
合計	630	100%

回答のあった事業所の所在地は、「藤沢市」(14.4%)が最も多く、次いで「平塚市」(11.0%)、「厚木市」(10.5%)となっている。

(2) 事業所の業種

(n=630)

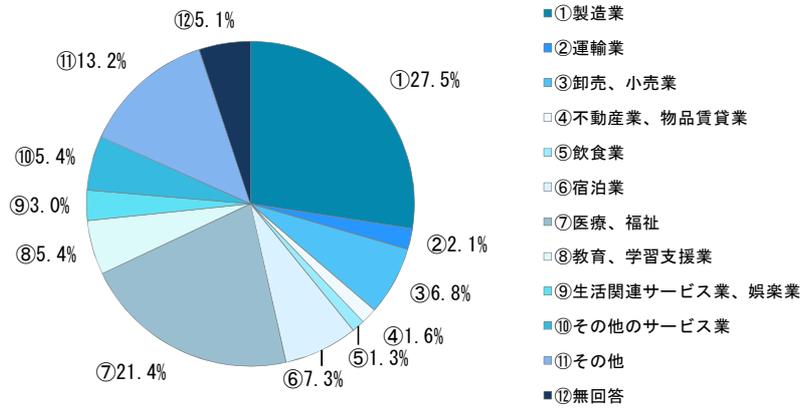


図 23 事業所の業種 【単数回答】

回答のあった事業所の業種は、「製造業」(27.5%)、「医療、福祉」(21.4%)となっている。

表 2 事業所の業種 (その他の回答)

項目	回答 (抜粋)
官公庁関係 (11 件)	・郵便局 ・市役所
公共施設 (19 件)	・公園 ・プール ・廃棄物処理業
清掃関係 (11 件)	・クリーニング業 ・リネンサプライ業
飲食関係 (4 件)	・学校給食センター ・炊飯工場
学術研究関係 (14 件)	・学術研究所 ・研究施設
福祉医療関係 (3 件)	・介護付有料老人ホーム
商業・レジャー施設 (11 件)	・スポーツクラブ ・商業施設運営
その他 (16 件)	・ビル管理会社 ・建設業

(3) 事業所の従業者数

(n=630)

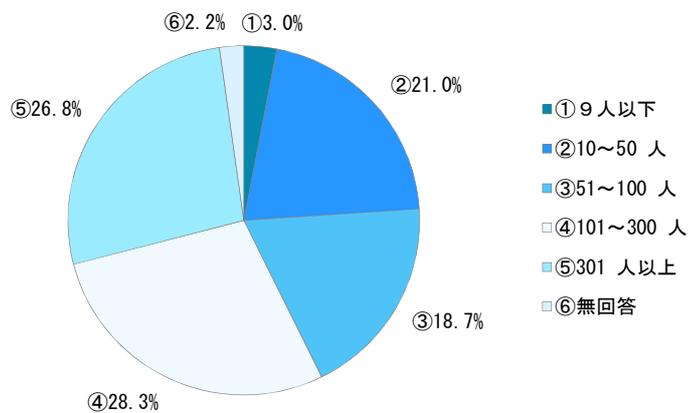


図 24 事業所の従業者数 【単数回答】

回答のあった事業所の従業者数は、「101~300人」(28.3%)、「301人以上」(26.8%)、「10~50人」(21.0%)で、100人以上の事業所が5割強となっている。

2. 水の使用状況

(1) 水道水等の使用状況及び今後の動向

【問1】 あなたの事業所では、水道水や「水道水以外の水」（地下水、再生水等）を使用していますか。

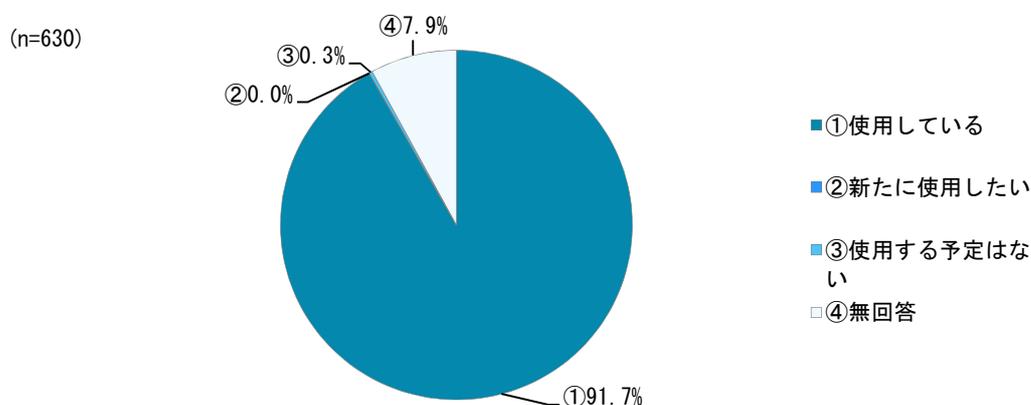


図 25 水道水使用状況【単数回答】

回答のあった事業所では、「水道水」の使用状況等は、「使用している」（91.7%）と9割以上を占めている。

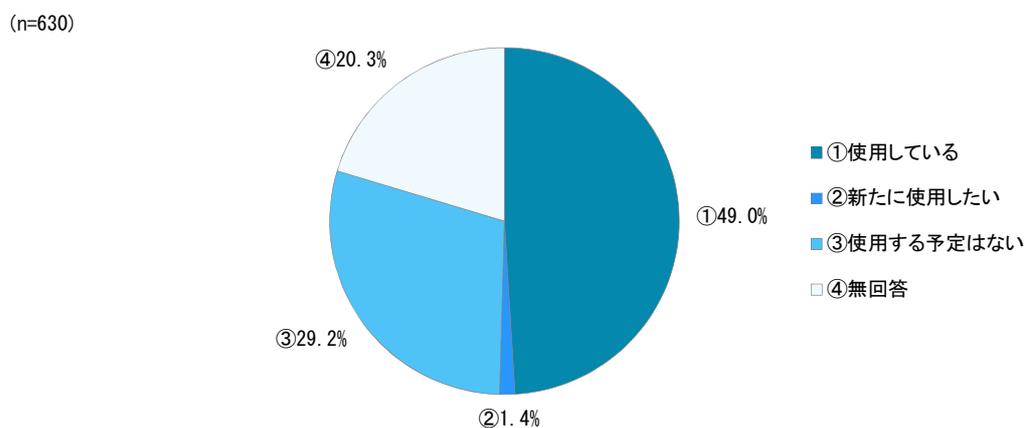


図 26 水道水以外使用状況【単数回答】

「水道水以外の水」の使用状況等は、「使用している」（49.0%）と約半数を占めており、「使用する予定はない」（29.2%）が次いでいる。

【問1-1】この1年間の全使用水量のうち、水道水以外の使用水量は全体の何割くらいですか。

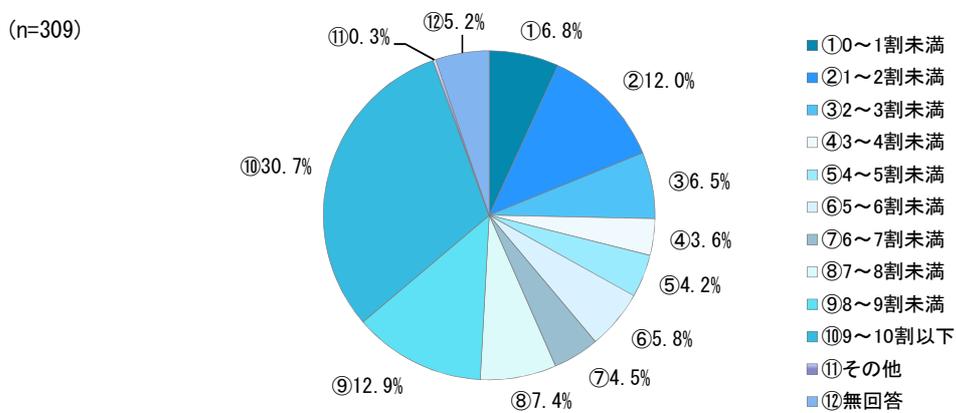


図 27 水道水以外の使用状況の割合【数値記入回答】

「水道水以外の水」の使用について、「9割～10割」(30.7%)と回答している割合が最も多い。

【問 1-2】「水道水以外の水」を使用しているのはどうしてですか。

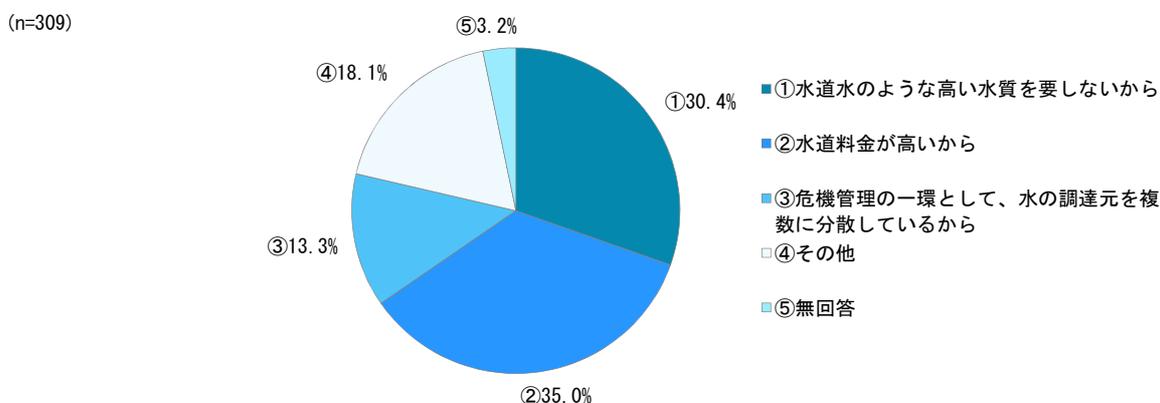


図 28 水道水以外を使用する理由【単数回答】

水道水以外の使用状況の理由として、「水道料金が高いから」、「水道水のような高い水質を要しないから」の割合がそれぞれ3割程度になっている。

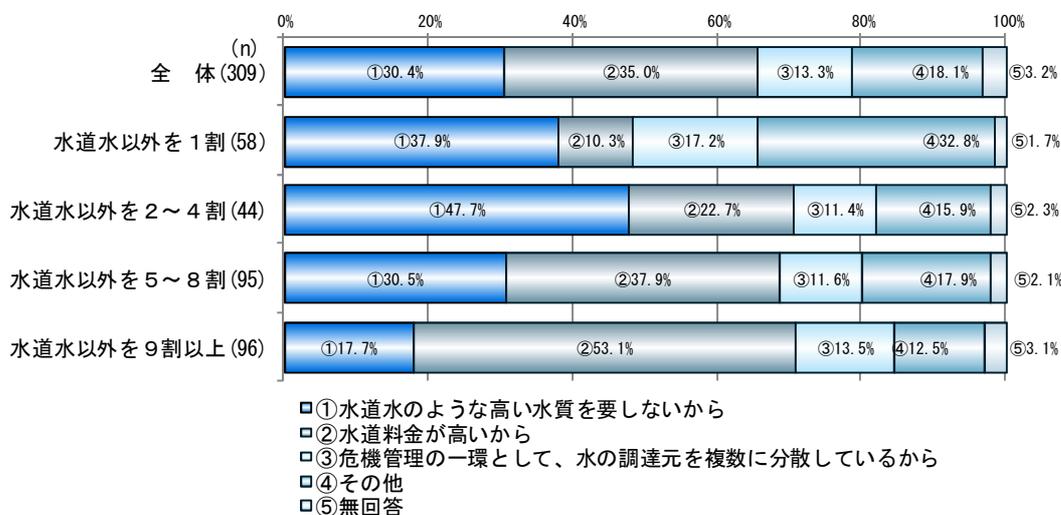


図 29 水道水以外を使用する理由【水道水以外の使用割合、単数回答】

水道水以外を9割以上使用している事業所では、5割以上が「水道料金が高いから」としている。水道水以外の使用割合が減少すると「水道水のような高い水質を要しないから」が増え、「水道水以外を2~4割使用している」事業所の約半数が回答している。

表 3 水道水以外を使用する理由（その他の回答）

項目	回答（抜粋）
業務上のため（21件）	<ul style="list-style-type: none"> ・設備の冷却用として使用するため。 ・工業用水として使用するため。 ・ごみ焼却にともなう排水利用。
生活排水のため（7件）	<ul style="list-style-type: none"> ・飲食、手洗い、浴用に上水、空調冷媒用に地下水利用。 ・空調機の冷暖房及びトイレ用の雑用水としての利用。
経費削減・環境対策（9件）	<ul style="list-style-type: none"> ・費用を抑える必要があるため。 ・工場内で使用した水の再利用。
災害対策のため（2件）	<ul style="list-style-type: none"> ・消防訓練
井戸水・地下水の利用（10件）	<ul style="list-style-type: none"> ・場所的に地下水が多く、おいしい。 ・敷地内で井戸からの取水が可能のため。
その他（5件）	<ul style="list-style-type: none"> ・飲料以外に使用。 ・導入の経緯は不明です。

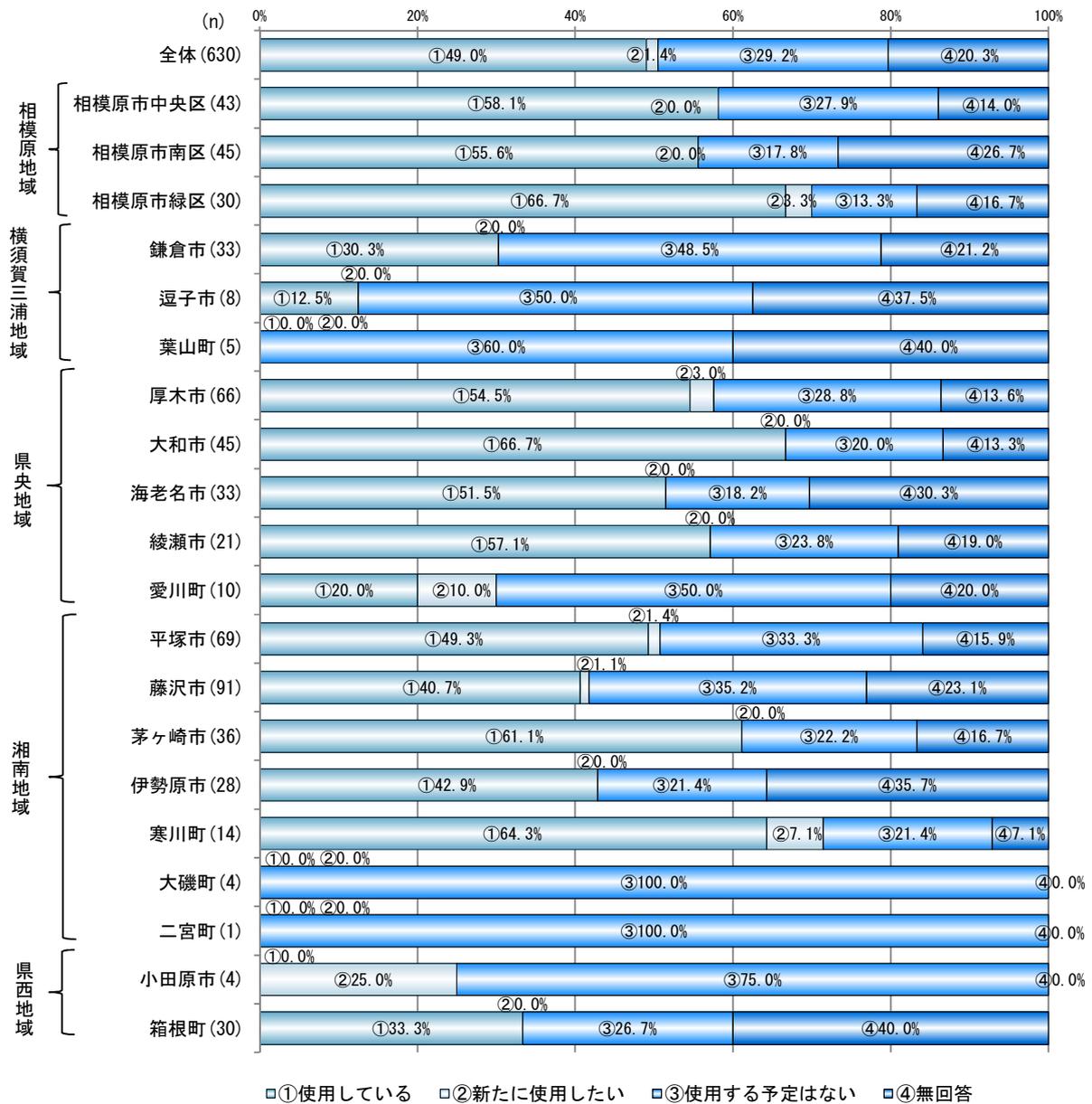


図 30 水道水以外の使用状況【地域別、単数回答】

「水道水以外の水」の使用について地域別にみると、「使用している」は相模原地域で約6割、県央地域ではほぼ5割以上と高い。海岸沿いの地域の中には、ほとんど「水道水以外の水」を使用していない市町がある。

【問 1-3】 水道料金が下がったら、水道水の使用量を増やしますか。

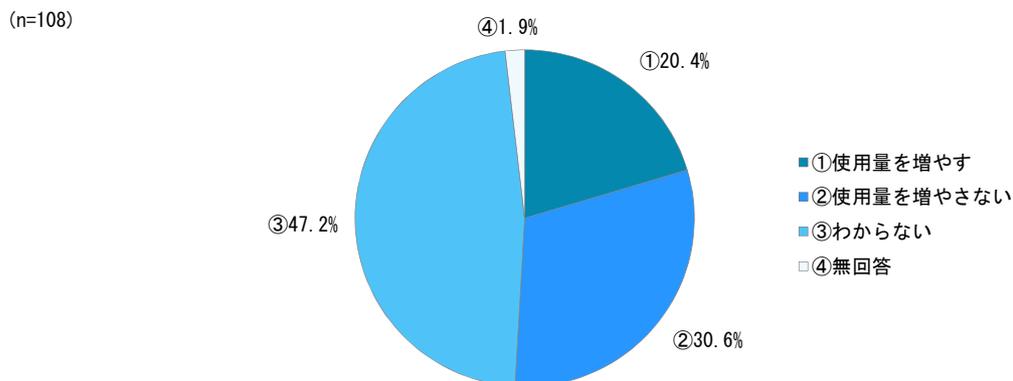


図 31 水道料金が下がった際の水道水の使用量増意向【単数回答】

水道料金が下がった際の水道水の使用量増の意向は、「わからない」(47.2%) が最も多く、「使用量を増やさない」(30.6%)、「使用量を増やす」(20.4%) が次いでいる。

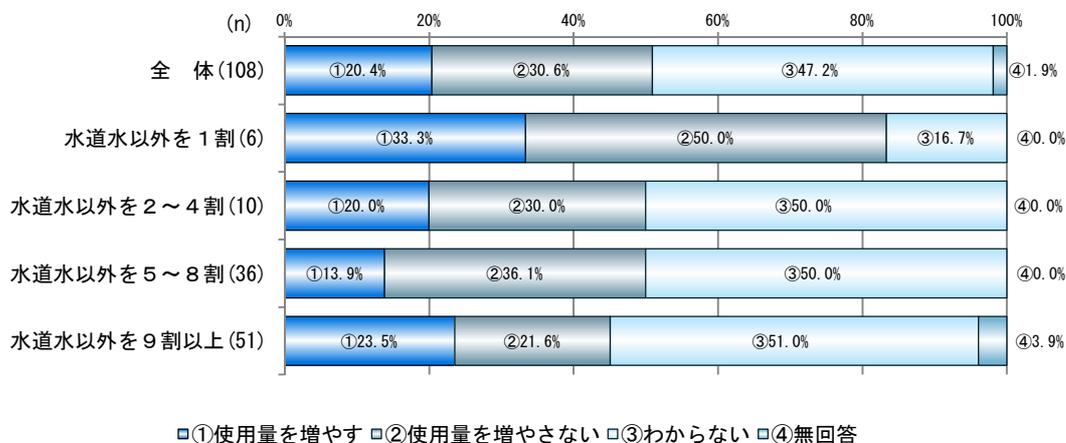


図 32 水道料金が下がった際の水道水の使用量増意向
【「水道水以外の水」の使用割合、単数回答】

水道水の使用量の変化について、「水道水以外の水」の使用割合別でみると、「水道水以外を 1 割」使用している事業所は「使用量を増やさない」(50.0%) と回答している。

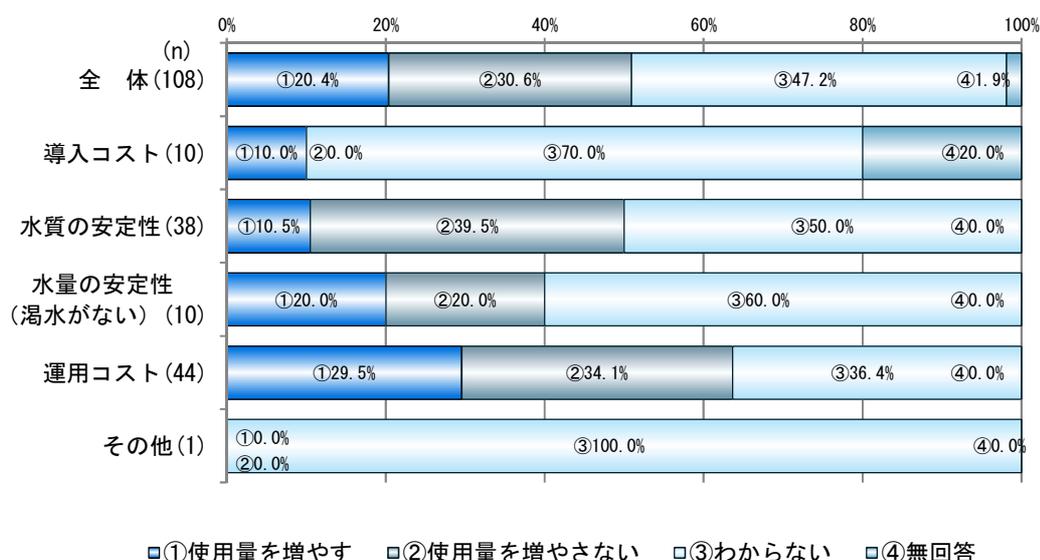


図 33 水道料金が下がった際の水道水の使用量増意向【一番考慮すること別、単数回答】

「水質の安定性」を重視している事業所は「使用量を増やさない」(39.5%)と回答している割合が比較的高い。また、「運用コスト」を重視している事業所でも同様に「使用量を増やさない」(34.1%)と回答している割合が「使用量を増やす」(29.5%)を上回っている。

【問2】 水を使用するにあたり、一番考慮することは何ですか。

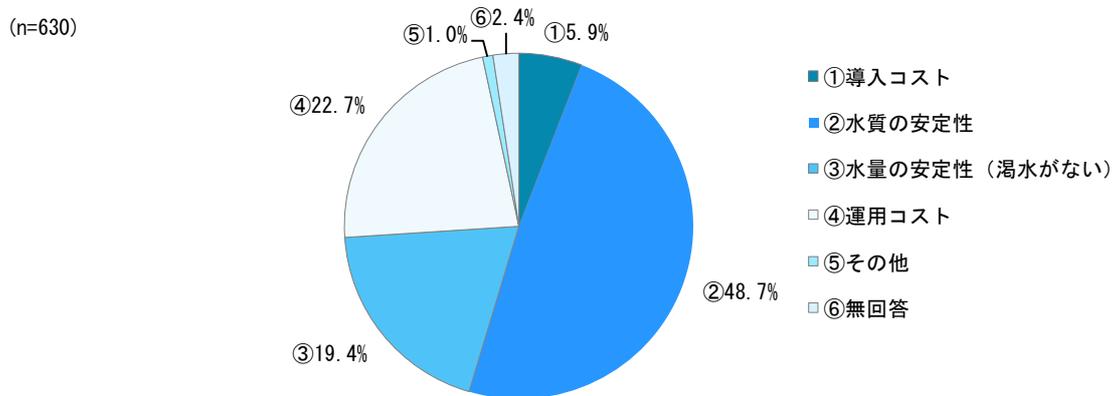


図 34 水を使用するにあたり考慮すること【単数回答】

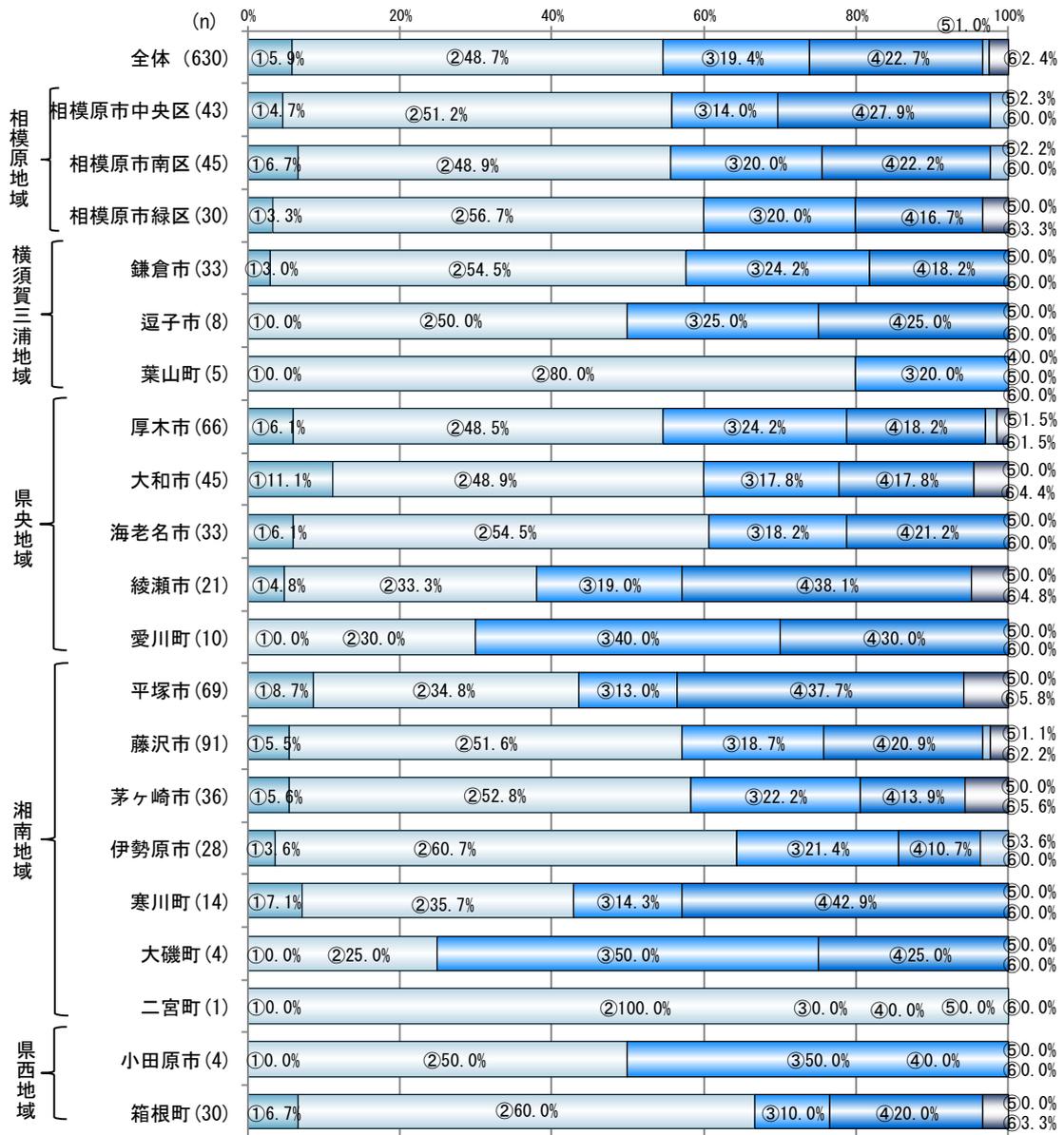
水を使用するにあたり、「水質の安定性」(48.7%)が最も考慮する事業所が約5割を占めている。「運用コスト」(22.7%)、「水量の安定性(濁水がない)」(19.4%)が次いでいる。



□①導入コスト □②水質の安定性 □③水量の安定性 (濁水がない) □④運用コスト □⑤その他 □⑥無回答

図 35 水を使用するにあたり考慮すること【「水道水以外の水」の使用割合別、単数回答】

一番考慮することについて地下水等使用割合別にみると、「水道水以外を使用していない」と回答した事業所は「水質の安定性」(59.1%)を重視している割合が高い。一方、「水道水以外を9割以上」使用していると回答した事業所は「運用コスト」(35.4%)を重視している傾向にある。



□①導入コスト □②水質の安定性 □③水量の安定性（渇水がない） □④運用コスト □⑤その他 □⑥無回答

図 36 水を使用するにあたり考慮すること【地域別、単数回答】

多くの地域で「水質の安定性」が水を使用するにあたり考慮する割合が高くなっている。「大磯町」、「小田原市」にある事業所では、「水量の安定性」を考慮する割合も高くなっている。

【問3】他の水道事業所の中には、地下水など「水道水以外の水」を使用している方に、水道施設や水道管の維持に必要な費用を負担していただく制度を設けているところがあります。
上記の制度があることを知っていますか。

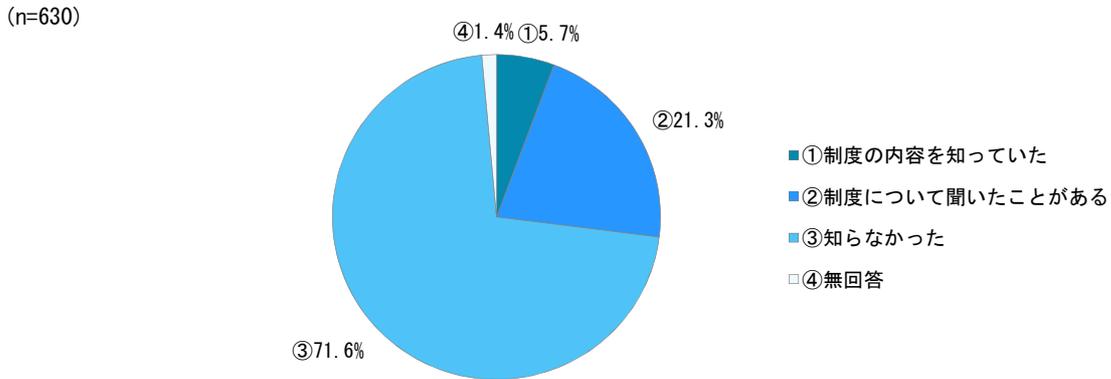


図 37 水道施設や水道管の維持費などの固定費の負担について【単数回答】

水道施設の維持管理を負担する制度について、知らなかったという事業所が約7割（71.6%）を占めているが、約2割（21.3%）の事業所は聞いたことがある、となっている。

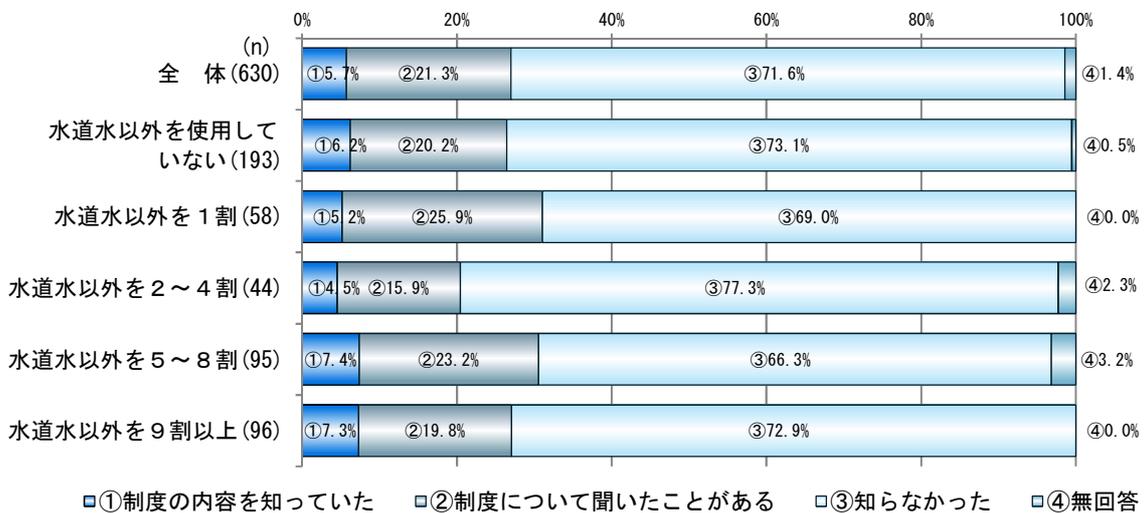


図 38 水道施設や水道管の維持費などの固定費の負担について
【「水道水以外の水」の使用割合別、単数回答】

水道施設や水道管の維持費などの固定費の負担について、地下水等使用割合別にみると、いずれも「知らなかった」と回答した事業所が最も多くなっている。

(2) 水道水使用見込み

【問4】 今後、水道水の使用量の変化について、どのように見込んでいますか。

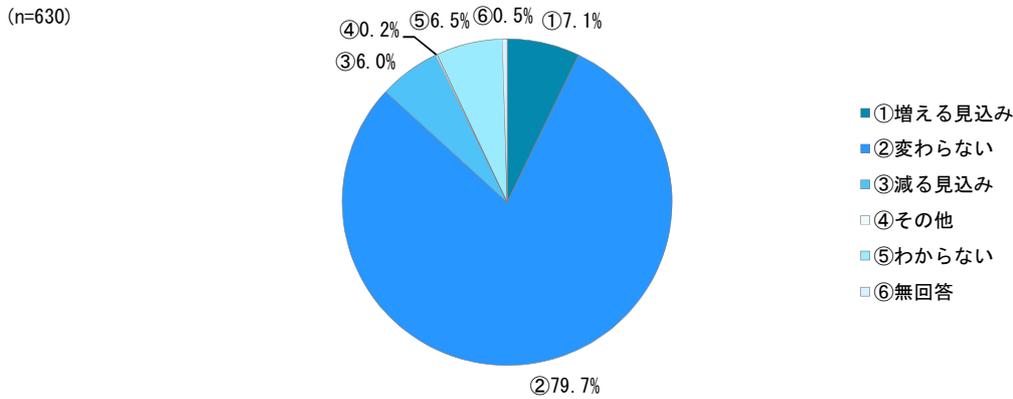


図 39 水道水使用見込み【単数回答】

今後の水道水の使用量については、約8割の事業所が「変わらない」(79.7%)と回答している。

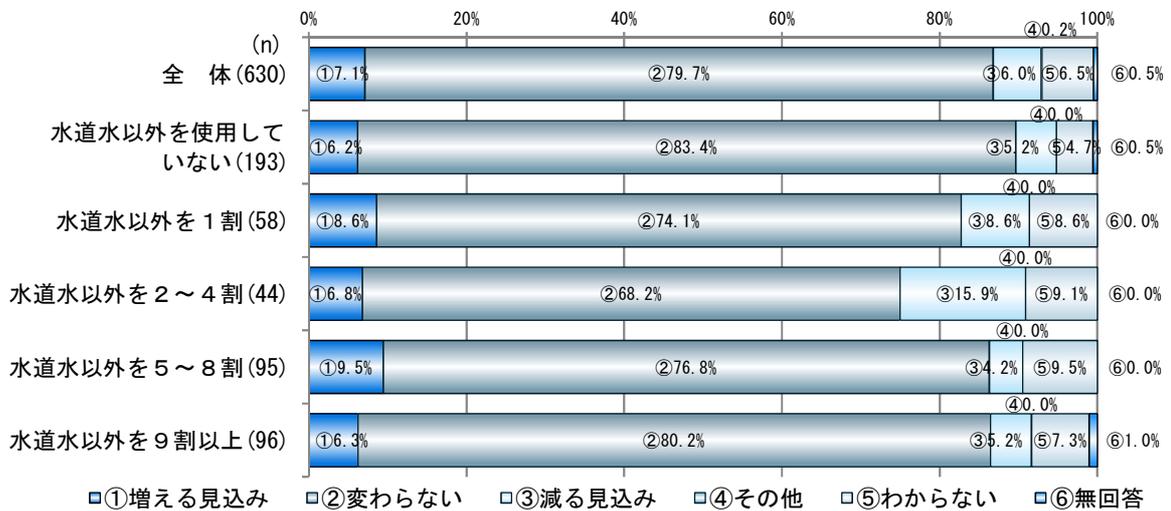


図 40 水道水使用見込み【「水道水以外の水」の使用割合別、単数回答】

水道水の使用量の見込みについて、地下水等使用割合別にみると、いずれも「変わらない」と回答した事業所が最も多くなっている。一方、「水道水以外を2～4割」使用していると回答した事業所は「減る見込み」が2割弱(15.9%)と回答している。

【問4 - 1】問4で「1. 増える見込み」に○をつけた場合に、お答えください。
その理由についてあてはまるものはどれですか。

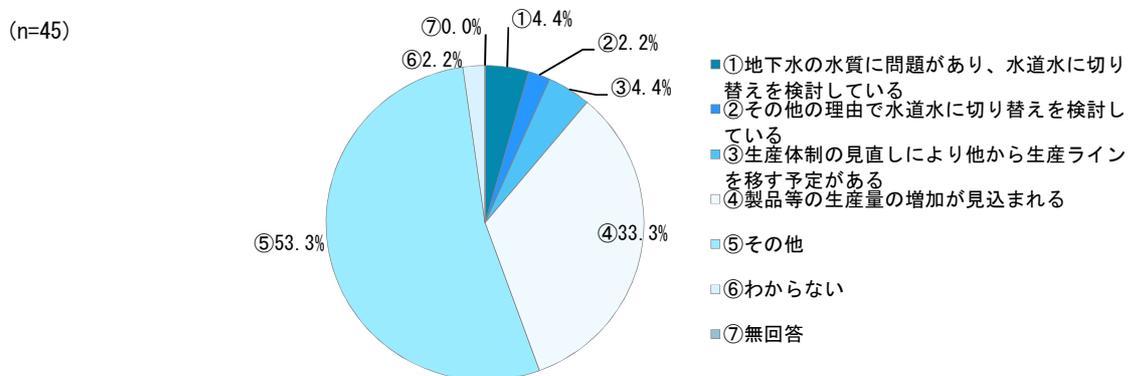


図 41 水道水使用増加見込みの理由【単数回答】

今後の水道水の使用量が「増える」見込みの理由は、「その他」(53.3%)が最も多く、「製品等の生産量の増加が見込まれる」(33.3%)、「地下水の水質に問題があり、水道水に切り替えを検討している」「生産体制の見直しにより他から生産ラインを移す予定がある」(4.4%)が次いでいる。

表 4 水道水使用増加見込みの理由（その他の回答）

項目	回答（抜粋）
人員の増加（5件）	<ul style="list-style-type: none"> ・人員増加が見込まれる。 ・社員及び入居者の増加。
施設利用者の増加（9件）	<ul style="list-style-type: none"> ・学生数の増加により増える見込み。 ・入院患者数が増えるため。
施設増改築等（8件）	<ul style="list-style-type: none"> ・生産設備の増強。 ・新棟竣工により増加見込み。
その他（2件）	<ul style="list-style-type: none"> ・生物の飼育に必要なため。

【問4-2】問4で「3. 減る見込み」に○をつけた場合に、お答えください。

その理由について当てはまるものはどれですか。

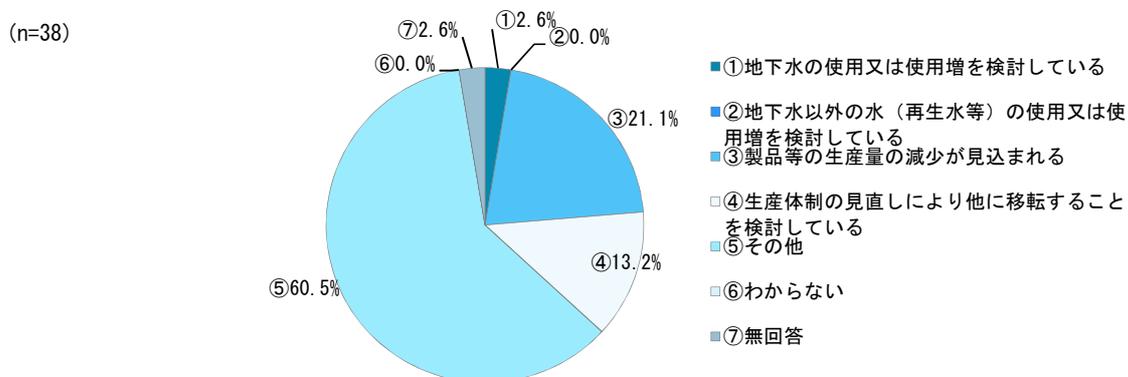


図 42 水道水使用減少見込みの理由【単数回答】

今後の水道水の使用量が「減る」見込みの理由は、「その他」(60.5%)が最も多く、「製品等の生産量の減少が見込まれる」(21.1%)、「生産体制の見直しにより他に移転することを検討している」(13.2%)が次いでいる。

表 5 水道水使用減少見込みの理由（その他の回答）

項目	回答（抜粋）
事業縮小・利用者減少(10件)	・売上低迷が何年も続き縮小の検討。 ・児童数の減少が見込まれる。
節水・環境対策(8件)	・環境活動で水自体の使用量削減の目標実現に向けて活動しているから。 ・経費削減・環境対策として、節水への取組みをすすめたい。
その他(5件)	・熱源機器の運転効率が向上する見込みのため。 ・建物の老朽化から長期に渡り漏水している為、修繕する。温泉の施設なので温泉が出れば水道水が少なくなる。

3. 県営水道の事業について

(1) 災害対策について

【問5】 災害対策についてお聞きします

今後の災害対策の進め方についてどう思いますか。

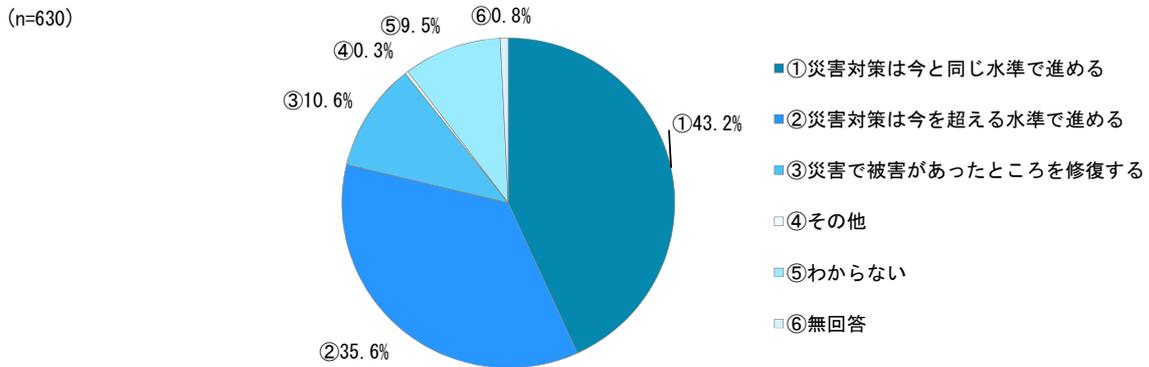


図 43 今後の災害対策 【単数回答】

今後の災害対策の進め方は、「災害対策は今と同じ水準で進める」(43.2%) が最も多く、「災害対策は今を超える水準で進める」(35.6%) と合わせると8割近くの事業所が今以上の水準の災害対策を望んでいる。

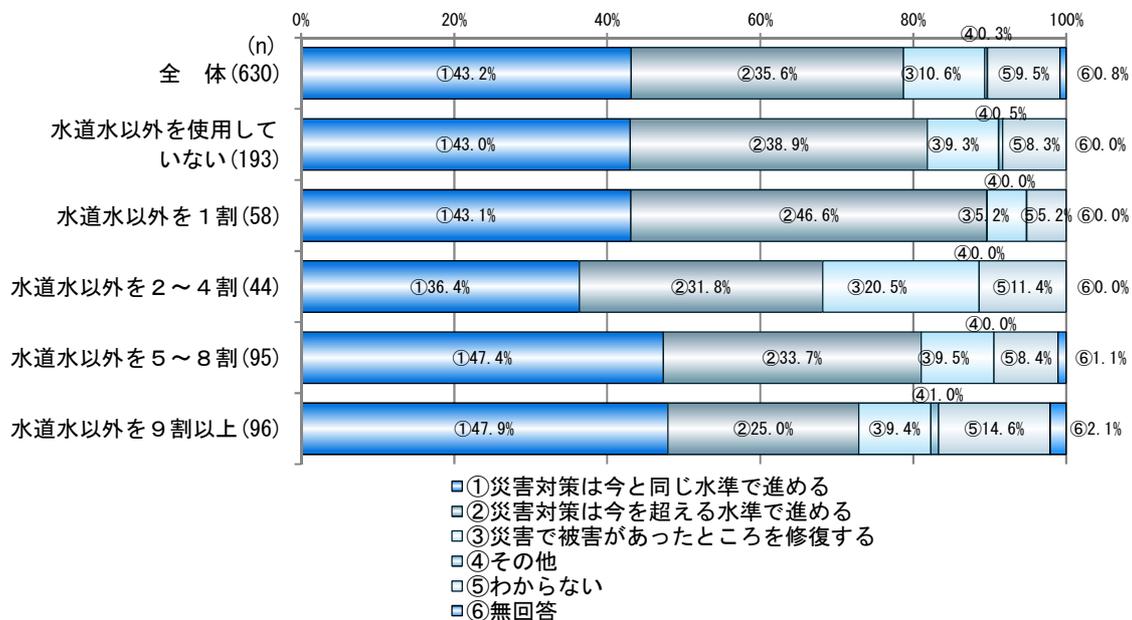


図 44 今後の災害対策【「水道水以外の水」の使用割合別、単数回答】

「水道水以外の水」の使用割合別にみると、「水道水以外を使用していない」「水道水以外を1割」と回答した事業所は「災害対策は今を超える水準で進める」と回答している割合が高い。

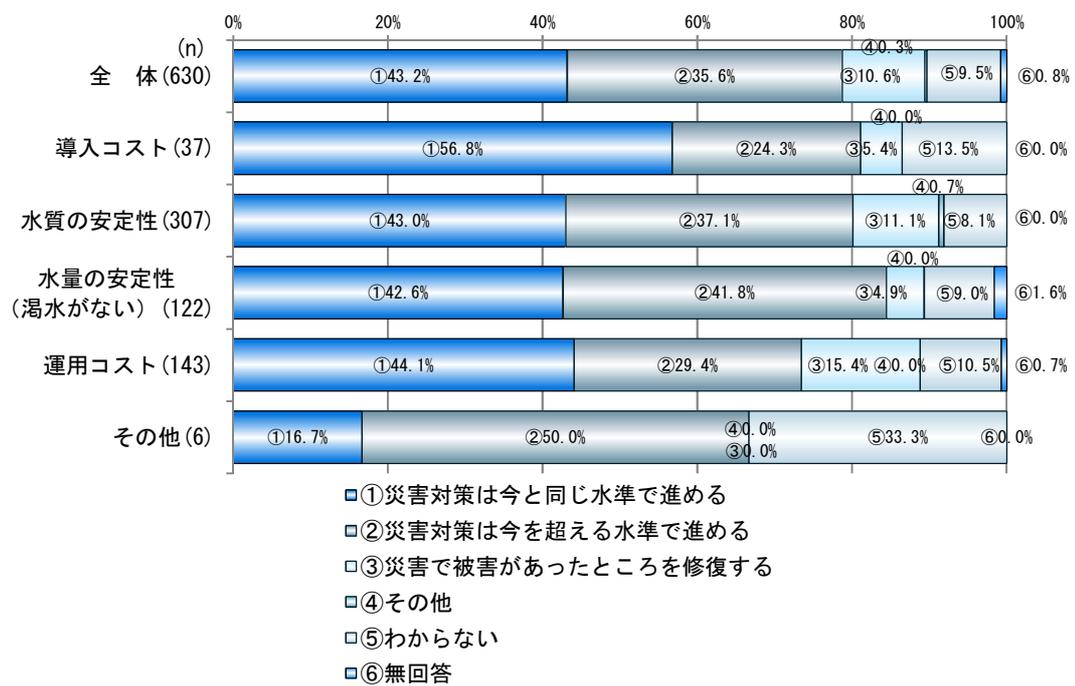


図 45 今後の災害対策【一番考慮すること別、単数回答】

一番考慮すること別にみると、導入コストを重視している事業所は、今後の災害対策の進め方について「災害対策は今と同じ水準で進める」(56.8%)と回答している割合が高い。また、水量の安定性(湧水がない)を重視している事業所は「災害対策は今を超える水準で進める」(41.8%)と回答している割合が他のことを考慮している事業所より高い。

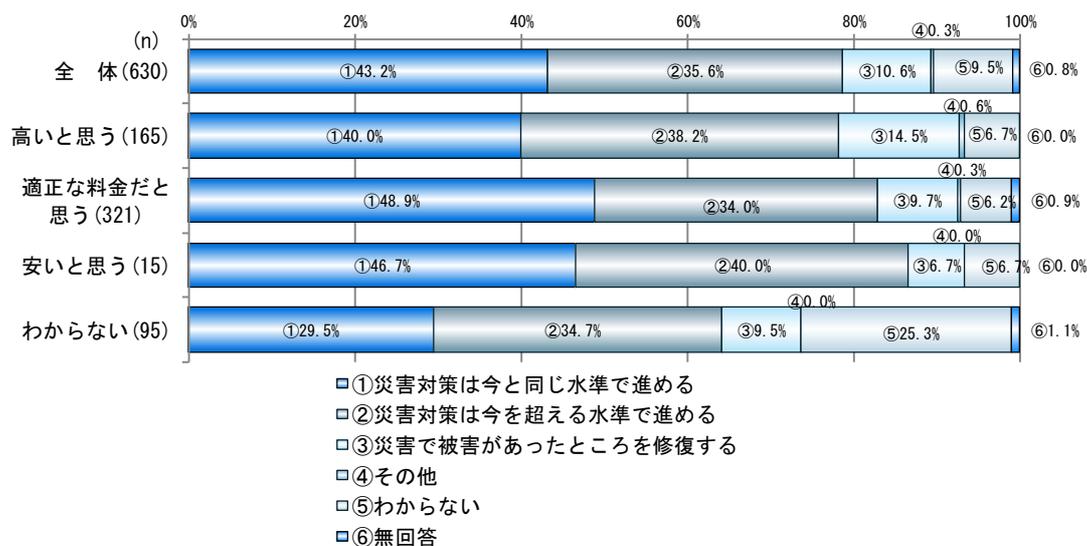


図 46 今後の災害対策【水道料金の意識別、単数回答】

水道料金の意識別にみると、「災害対策は今を超える水準で進める」は「安いと思う」と回答した事業所では4割で最も高くなっている。また、「災害対策は今と同じ水準で進める」はほとんどの項目について4割以上で全体的に高くなっている。

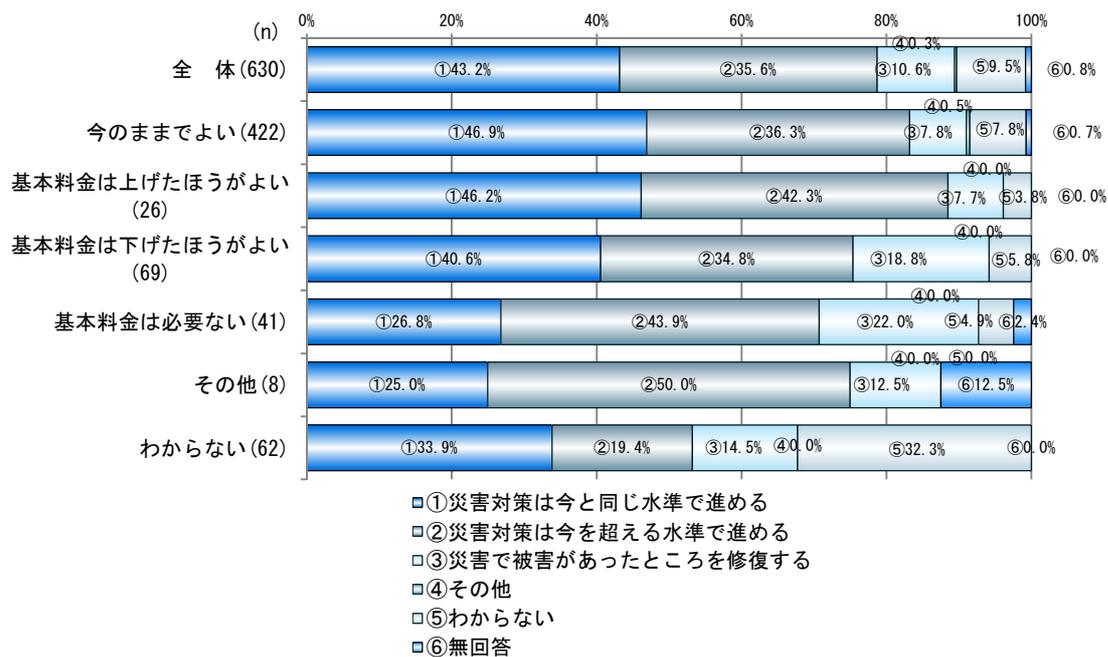


図 47 今後の災害対策 【基本料金の意識別、単数回答】

「災害対策は今を超える水準で進める」は基本料金の意識に関わらず、3割以上と全体的に高い割合を占めている。また、「災害対策は今と同じ水準で進める」は「今のままでよい」で最も割合が高くなっている。

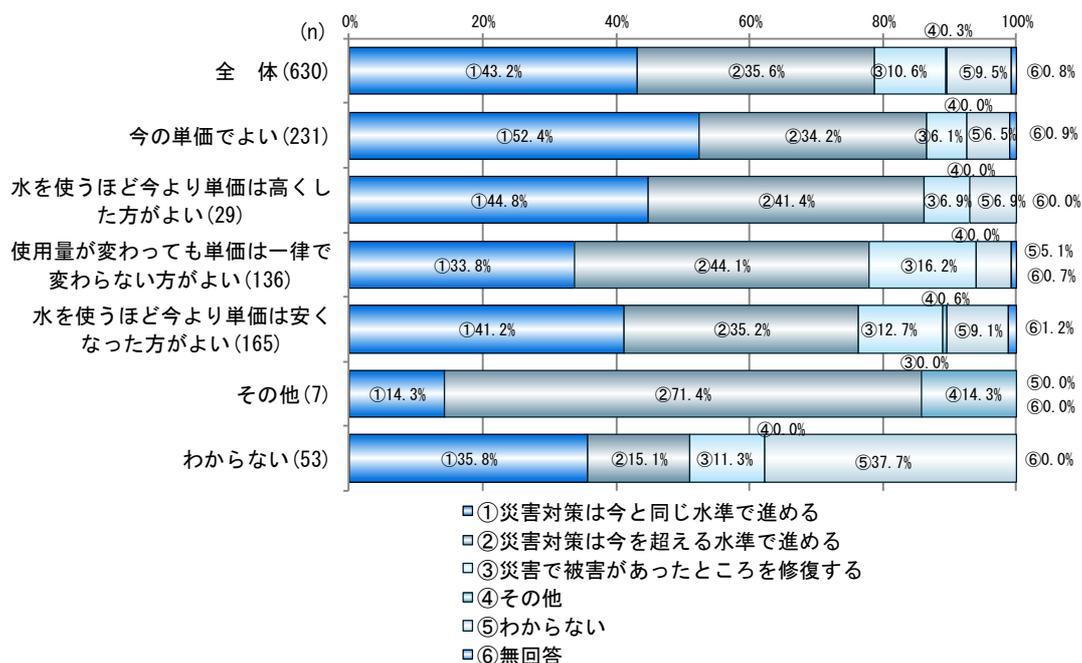


図 48 今後の災害対策 【従量料金の意識別、単数回答】

従量料金の単価の推移に係る意識別にみると、「災害対策は今と同じ水準で進める」は「今の単価でよい」で5割以上と最も高くなっている。

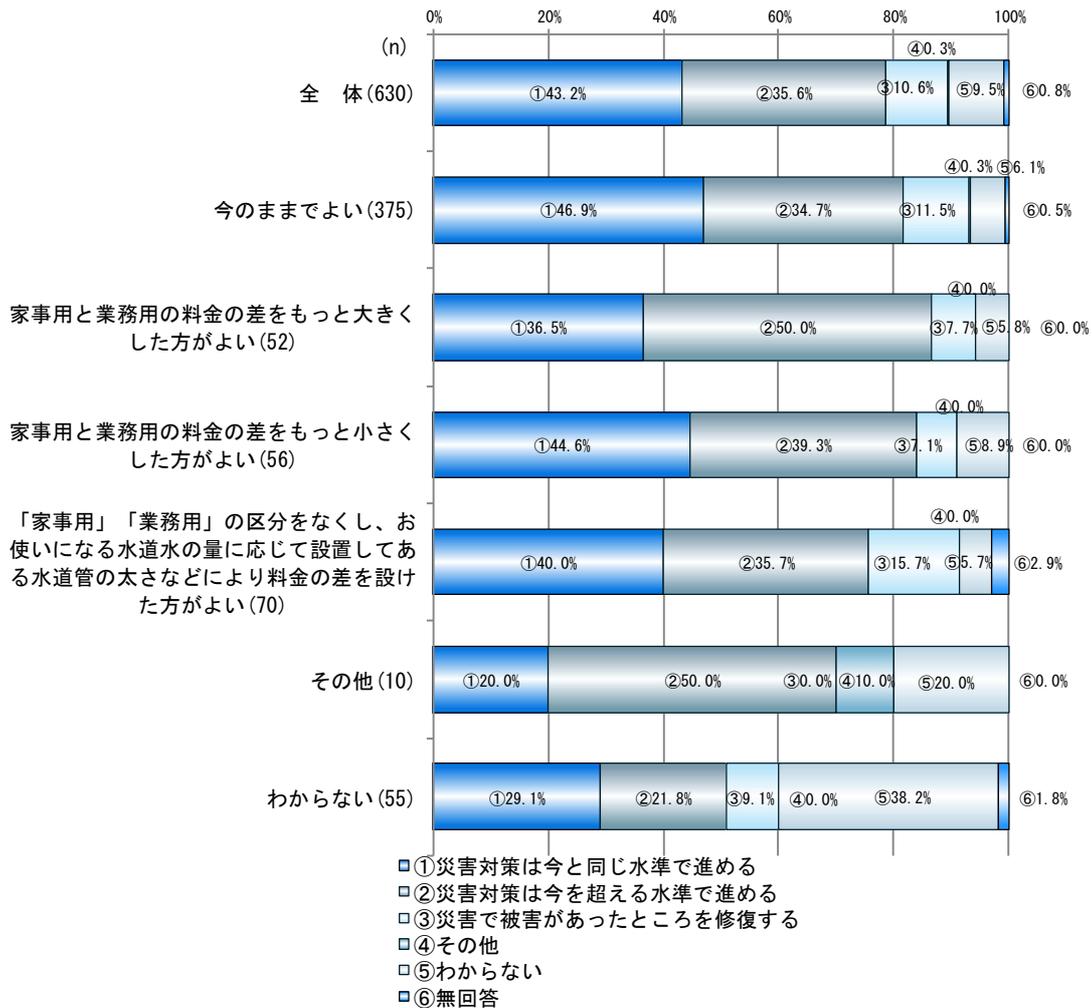


図 49 今後の災害対策 【用途別料金についての意識（料金体系の考え方）別、単数回答】

用途別料金についての意識（料金体系の考え方）別にみると、「災害対策は今を超える水準で進める」は「家事用と業務用の料金の差をもっと大きくした方がよい」の回答が5割と高くなっている。

(2) 水道管の更新の取組

【問6】水道管の更新の取組についてお聞きします。
水道管の更新の取組についてどう思いますか。

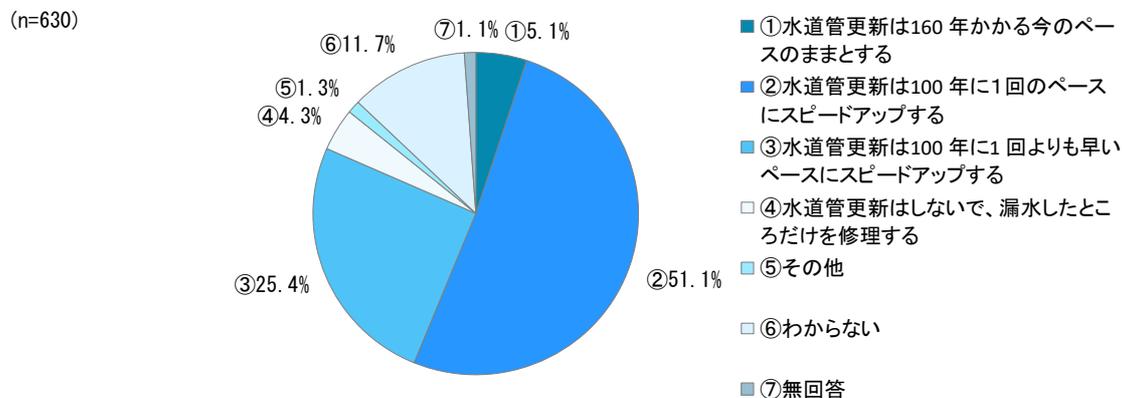


図 50 水道管の更新の取組【単数回答】

水道管の更新の取組は、「水道管更新は100年に1回のペースにスピードアップする」(51.1%)が最も多く、「水道管更新は100年に1回よりも早いペースにスピードアップする」(25.4%)と合わせると、8割近くの事業所が水道管更新を今のペースより早くすることを望んでいる。

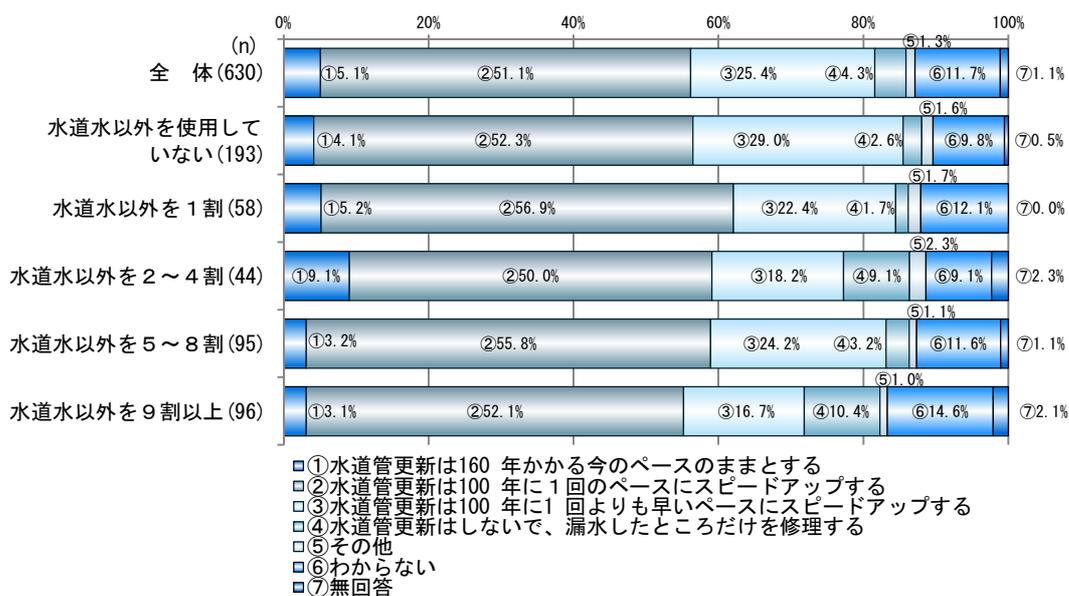


図 51 水道管の更新の取組【「水道水以外の水」の使用割合別、単数回答】

更新の取り組みについて、地下水等使用割合別にみると、いずれに関しても「水道管更新は100年に1回のペースにスピードアップする」が5割以上と最も高い。一方「水道水以外を使用していない」と回答した事業所に関しては「水道管更新は100年に1回よりも早いペースにスピードアップする」(29.0%)と回答している割合が比較的高い。

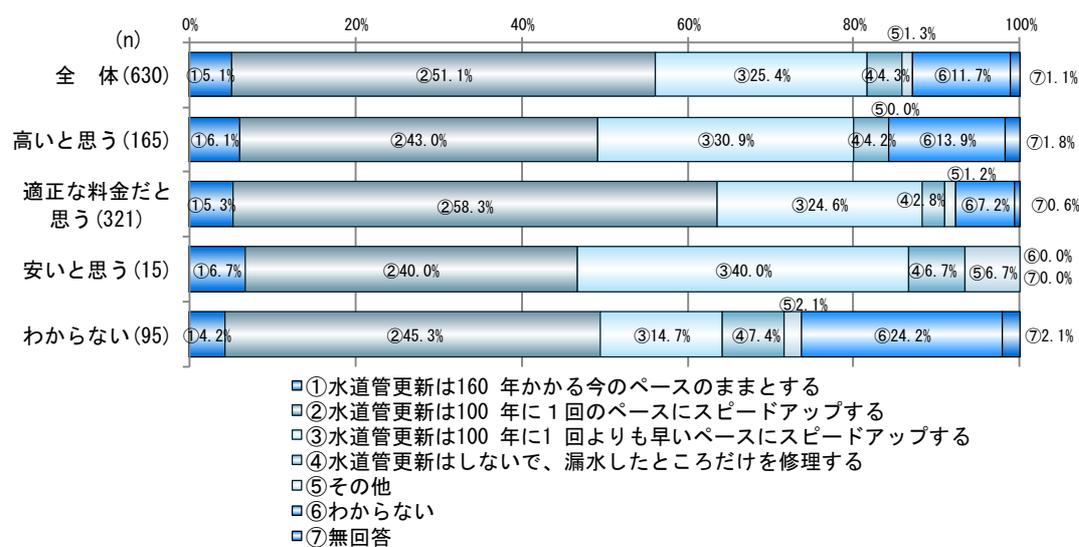


図 52 水道管の更新の取組【水道料金の意識別、単数回答】

水道料金の意識別でみると、「適正な料金だと思う」と回答した事業所は、水道管の更新について「水道管更新は100年に1回のペースにスピードアップする」(58.3%)と回答している割合が高い。また、「安いと思う」と回答している事業所は「水道管更新は100年に1回よりも早いペースにスピードアップする」(40.0%)と回答している割合が比較的高い。

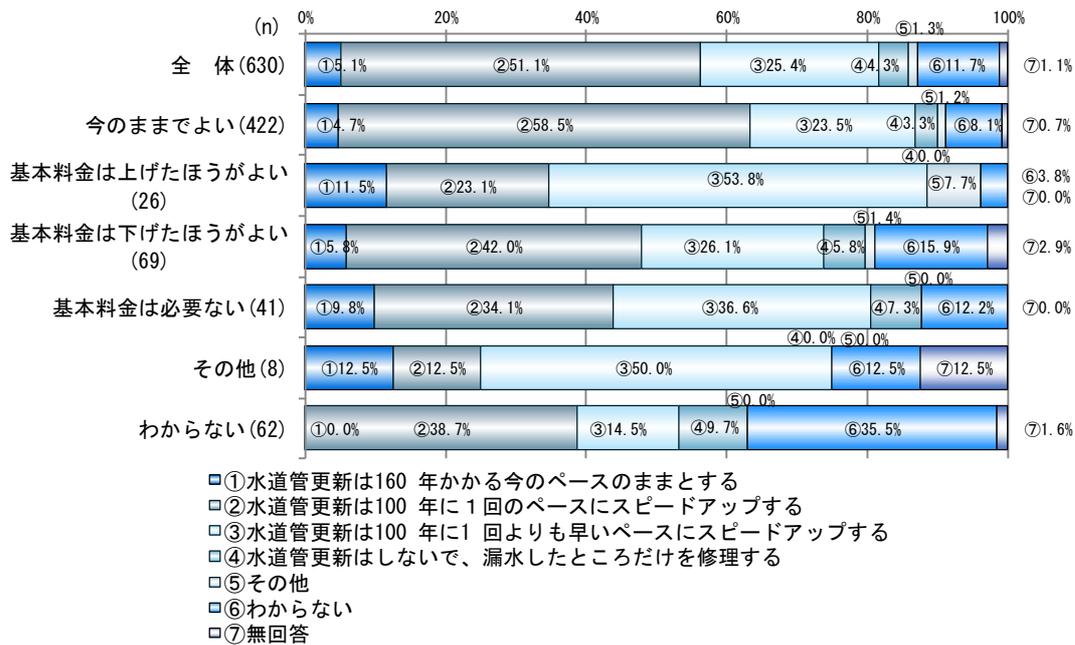


図 53 水道管の更新の取組み【基本料金、単数回答】

基本料金別に見ると、「今のままでよい」と回答した事業所では「水道管更新は100年に1回のペースにスピードアップする」(58.5%)が最も多い。また、「基本料金は上げたほうがよい」と回答した事業所では「水道管更新は100年に1回よりも早いペースにスピードアップする」(53.8%)が最も多く、水道管更新に関してスピードアップを望んでいる回答が多い。

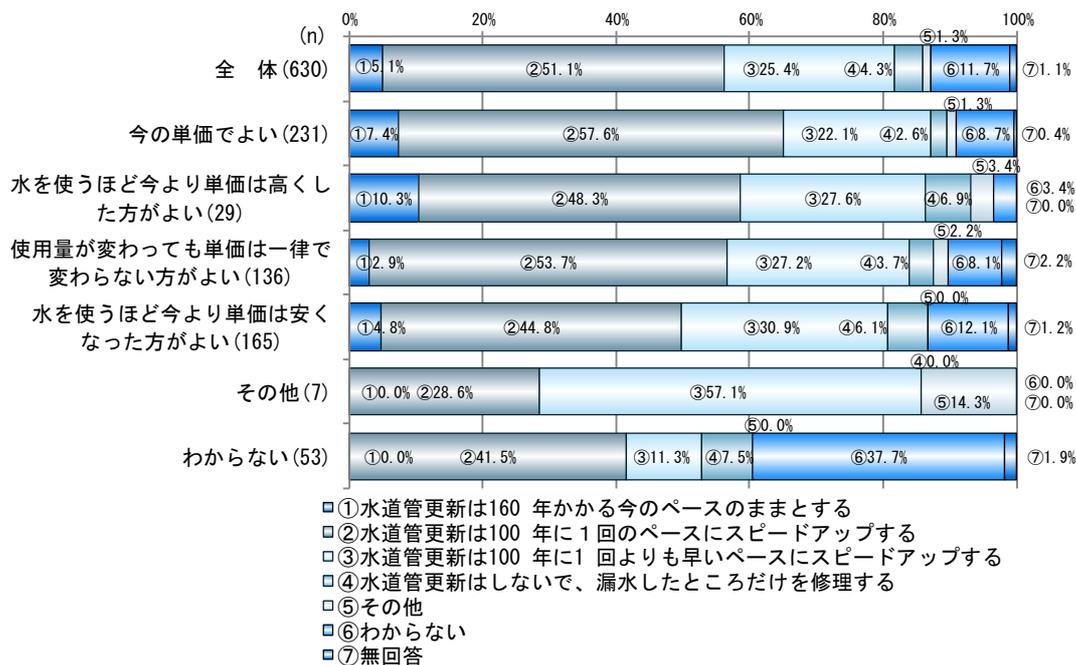


図 54 水道管の更新の取組【従量料金の意識別、単数回答】

従量料金の単価の推移に係る意識別でみると、いずれに関しても「水道管更新は100年に1回のペースにスピードアップする」が4割以上と最も高い。また「水を使うほど今より単価は安くなった方がよい」と回答した事業所に関して「水道管更新は100年に1回よりも早いペースにスピードアップする」(30.9%)と回答している割合が比較的高い。

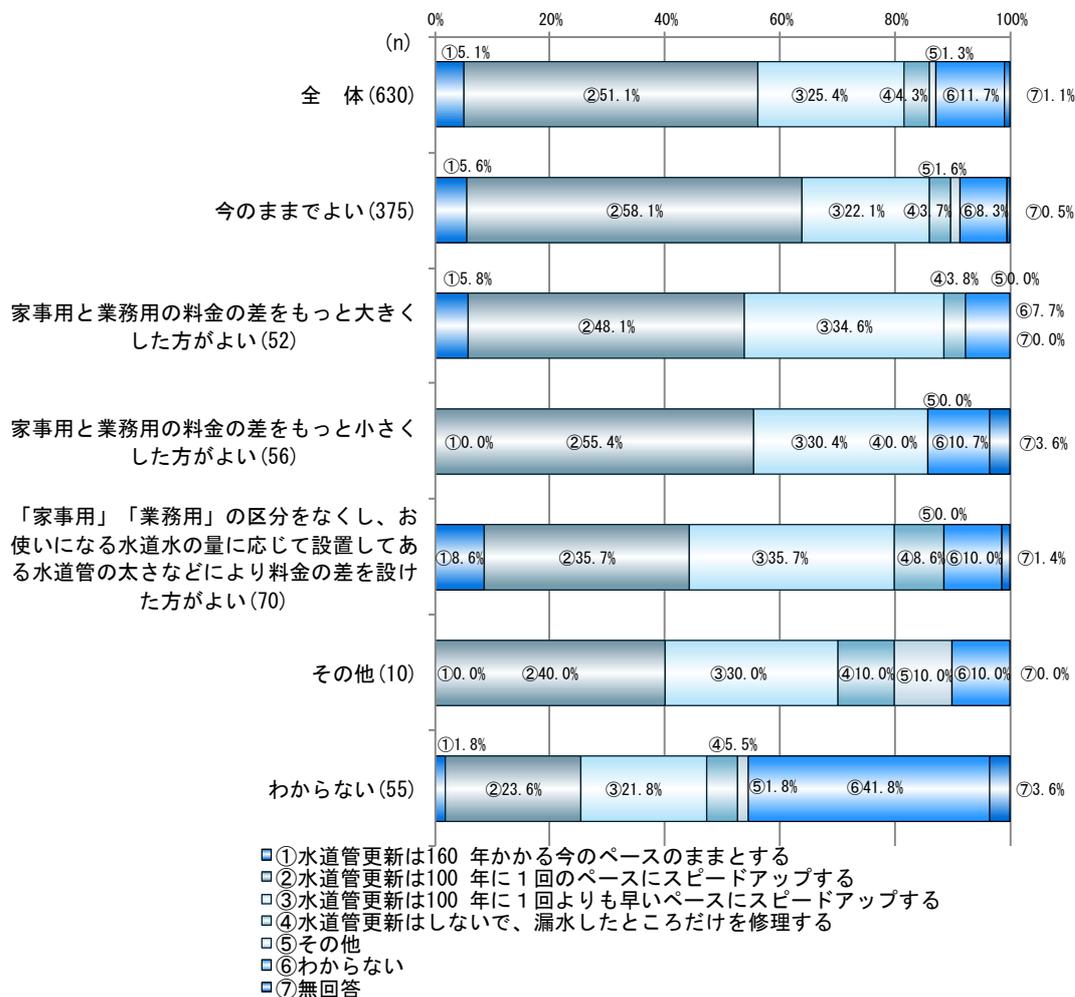


図 55 水道管の更新の取組【用途別料金についての意識（料金体系の考え方）別、単数回答】

用途別料金についての意識（料金体系の考え方）別でみると、「今のままでよい」、「家事用と業務用の料金の差をもっと小さくした方がよい」と回答した事業所に関して「水道管更新は100年に1回のペースにスピードアップする」の回答が5割以上となっている。

(3) 水道施設の更新及び維持管理に必要な水道料金

【問7】 これからの水道施設の更新及び維持管理に必要な水道料金についてお聞きします。
今後の県営水道の水道施設の更新及び維持管理についてどう思いますか。

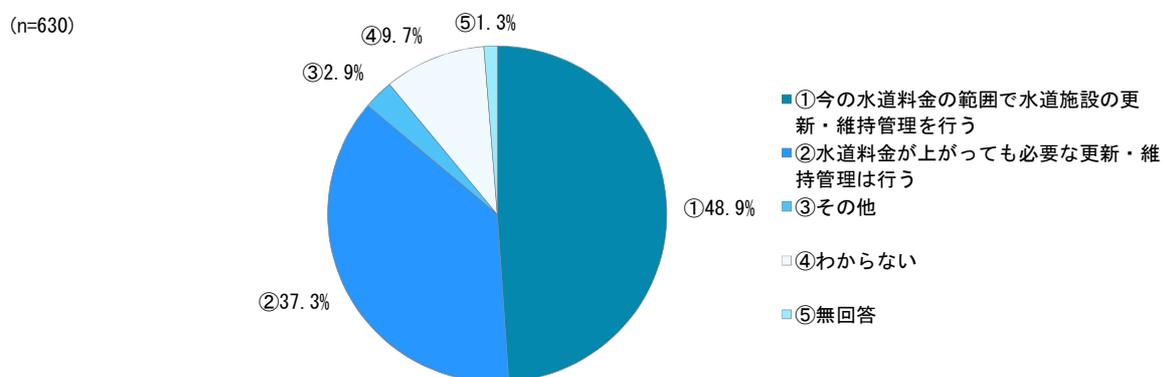


図 56 今後の県営水道の水道施設の更新及び維持管理【単数回答】

今後の水道施設の更新及び維持管理について、「今の水道料金の範囲で水道施設の更新・維持管理を行う」が約5割(48.9%)を占めるが、「水道料金が上がっても必要な更新・維持管理は行う」を回答した事業所が約4割(37.3%)となっている。

表 6 今後の県営水道の水道施設の更新及び維持管理（その他の回答）

費用削減（5件）	<ul style="list-style-type: none"> ・水漏れによるリスクが最も困ることかと思われます。人口の増減に関わらず水道施設及び設備の維持・更新は必要であり、公共性の高いインフラとして認識する一方、「料金を上げて」という発想は地域住民には伝わりにくいと思われます。水道技術の進歩に伴い、コストを抑えながら「できる方法」を検討していただきたいと願います。 ・収入が減少するのであれば、事務コスト等削減を検討する。
水道料金の維持、見直し（3件）	<ul style="list-style-type: none"> ・公平と思える料金負担をお願いします。 ・水道料金を上げずに必要な更新・維持管理を行う。
水道施設の見直し（5件）	<ul style="list-style-type: none"> ・水道料金が減少していくまえに、いまのうちに更新、工事、管理する。 ・使用量に見合った水道施設に統廃合してほしい。
自治体負担（2件）	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体の予算を使用。
その他（2件）	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には②と思うが庁・局の努力は忘れないで頂きたい。

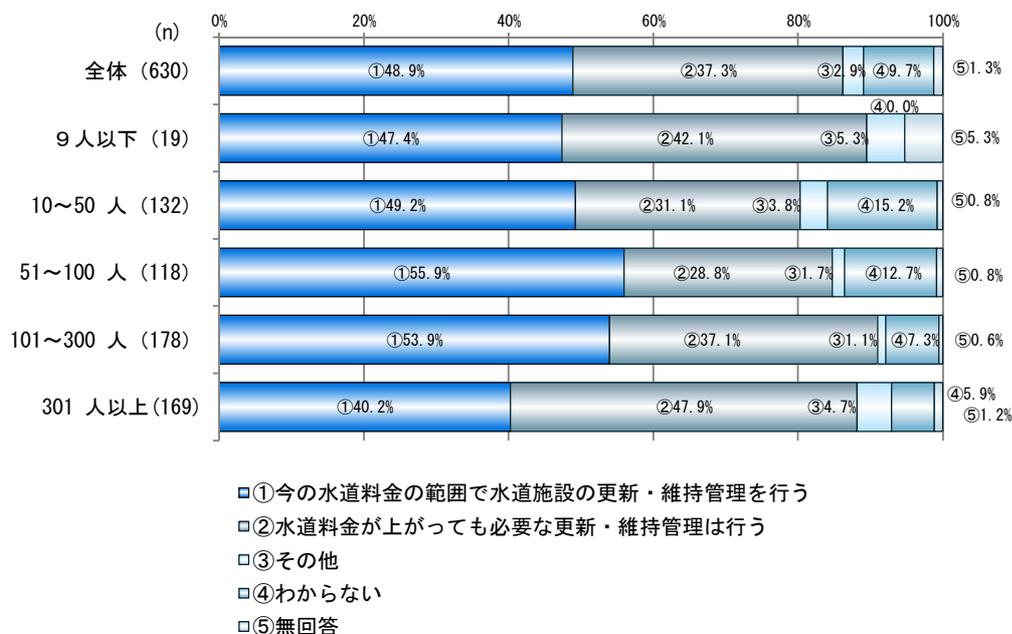


図 57 今後の県営水道の水道施設の更新及び維持管理【従業員別、単数回答】

従業員数別にみると、従業員が301人以上の事業所は「水道料金が上がっても必要な更新・維持管理は行う」（47.9%）と回答した割合が高い。

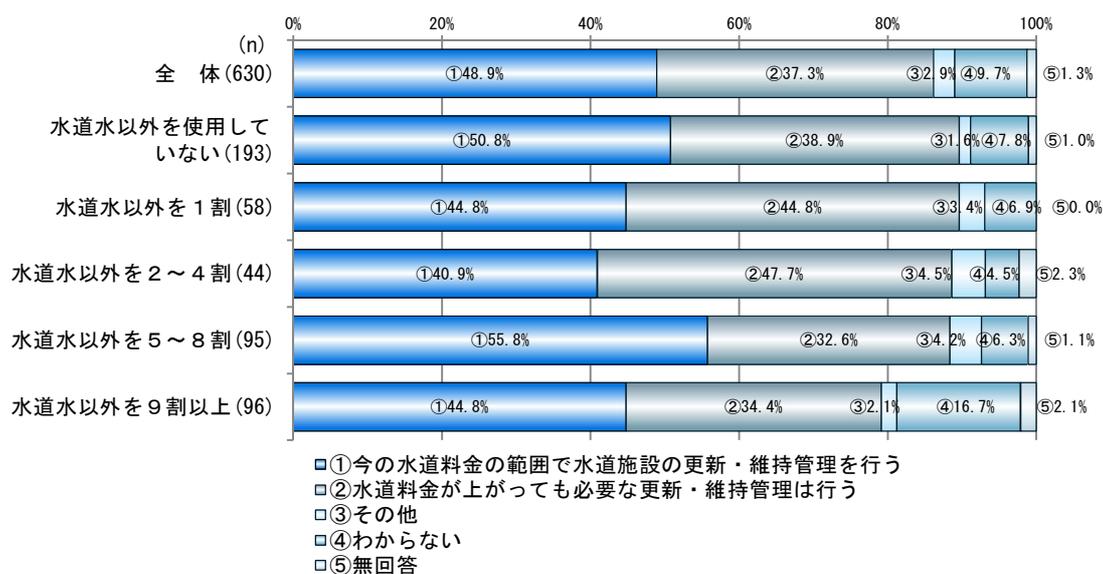


図 58 今後の県営水道の水道施設の更新及び維持管理
【「水道水以外の水」の使用割合別、単数回答】

水道施設の更新・維持管理について、地下水等使用割合別にみると、「水道水以外を5割～8割」と回答した事業所は「今の水道料金の範囲で水道施設の更新・維持管理は行う」(55.8%)と回答している割合が高い。一方、「水道水以外を2～4割」と回答した事業所は「水道料金が上がっても必要な更新・維持管理は行う」(47.7%)と回答している割合が高い。

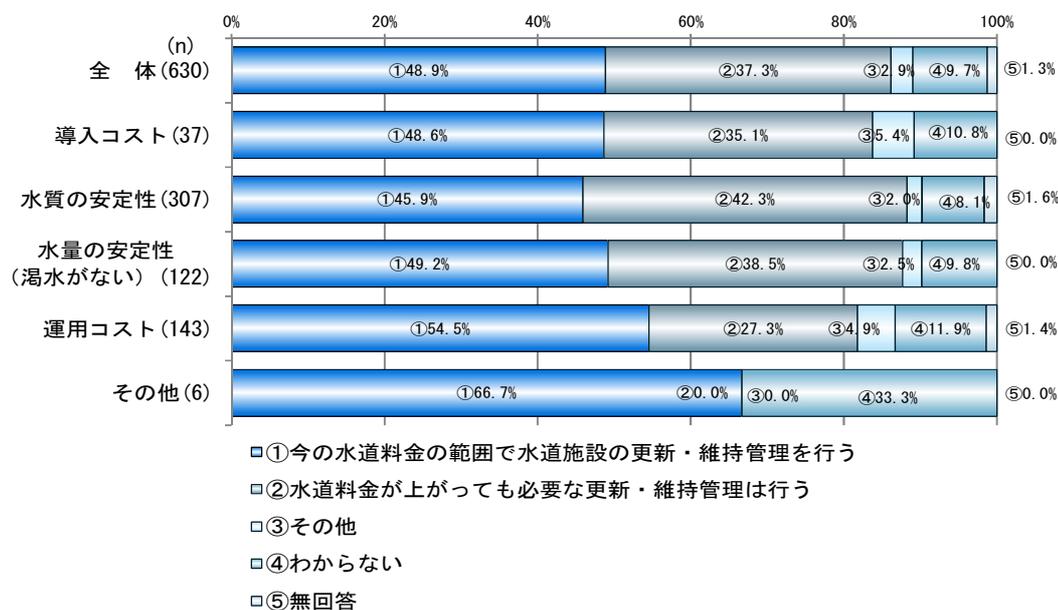


図 59 今後の県営水道の水道施設の更新及び維持管理【一番考慮すること別、単数回答】

一番考慮するポイント別にみると、いずれの項目についても「今の水道料金の範囲で水道施設の更新・維持管理を行う」が最も高い割合となっている。

また、「水質の安定性」を最も考慮する事業所のうち4割強が「水道料金が上がっても必要な更新・維持管理は行う」と回答している。次いで、「水量の安定性」、「導入コスト」を最も考慮する事業所の4割弱が「水道料金が上がっても必要な更新・維持管理は行う」と回答している。

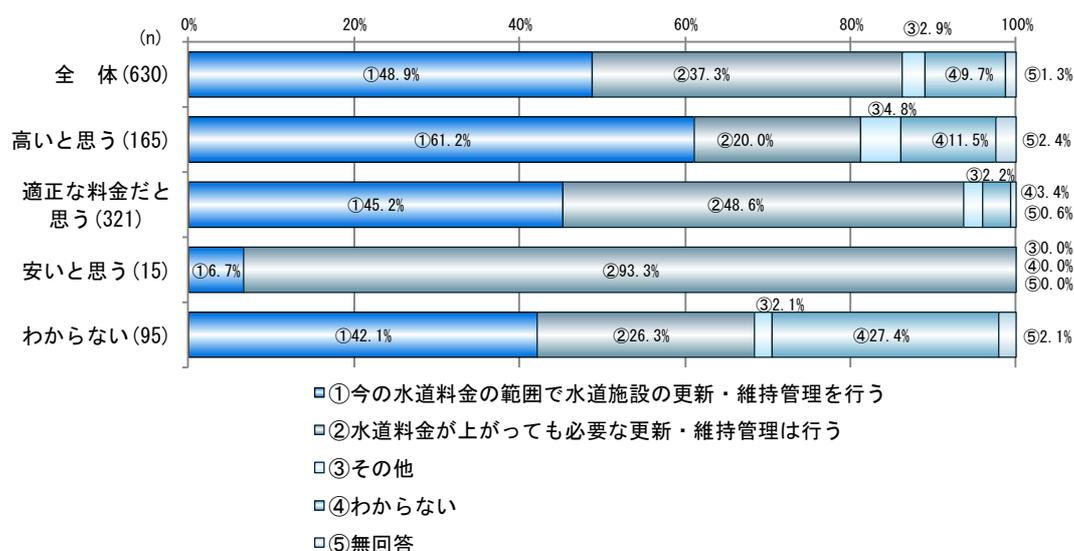


図 60 今後の県営水道の水道施設の更新及び維持管理【水道料金の意識別、単数回答】

水道料金の意識別でみると、「高いと思う」と回答した事業所の6割程度が「今の水道料金の範囲で水道施設の更新・維持管理を行う」と回答している。一方、「安いと思う」と回答した事業所の9割以上が「水道料金が上がっても必要な更新・維持管理は行う」と回答している。

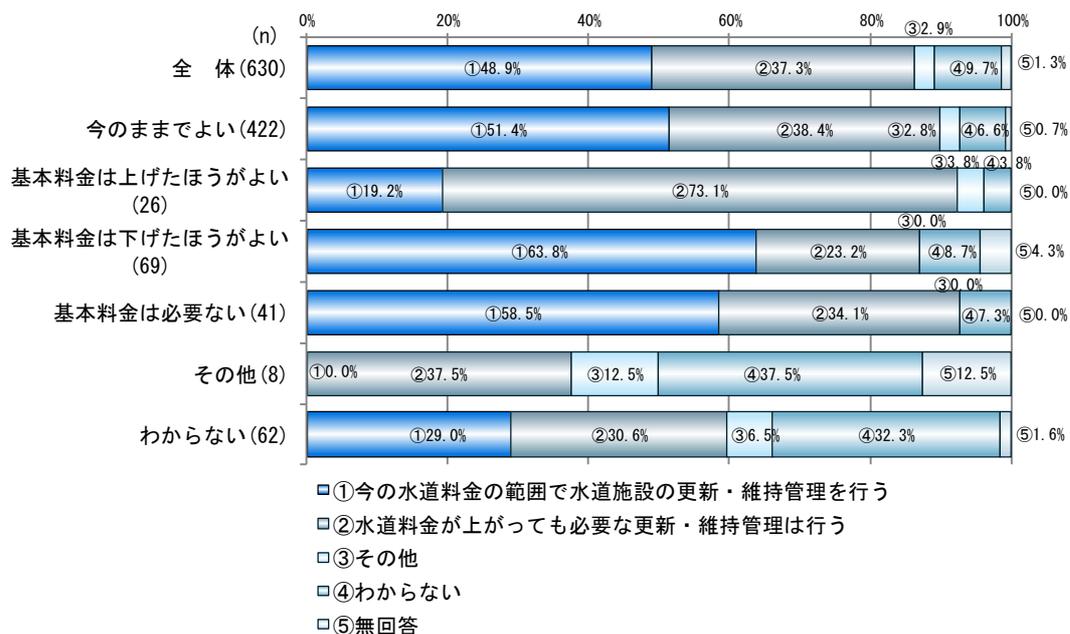


図 61 今後の県営水道の水道施設の更新及び維持管理【基本料金の意識別、単数回答】

基本料金の意識別でみると、「基本料金は上げた方がよい」と回答した事業所は、水道施設の更新及び維持管理について「水道料金が上がっても必要な更新・維持管理は行う」(73.1%)と回答している割合が高い。一方、「基本料金は下げた方がよい」と回答した事業所は、「今の水道料金の範囲で水道施設の更新・維持管理を行う」(63.8%)と回答している割合が高い。

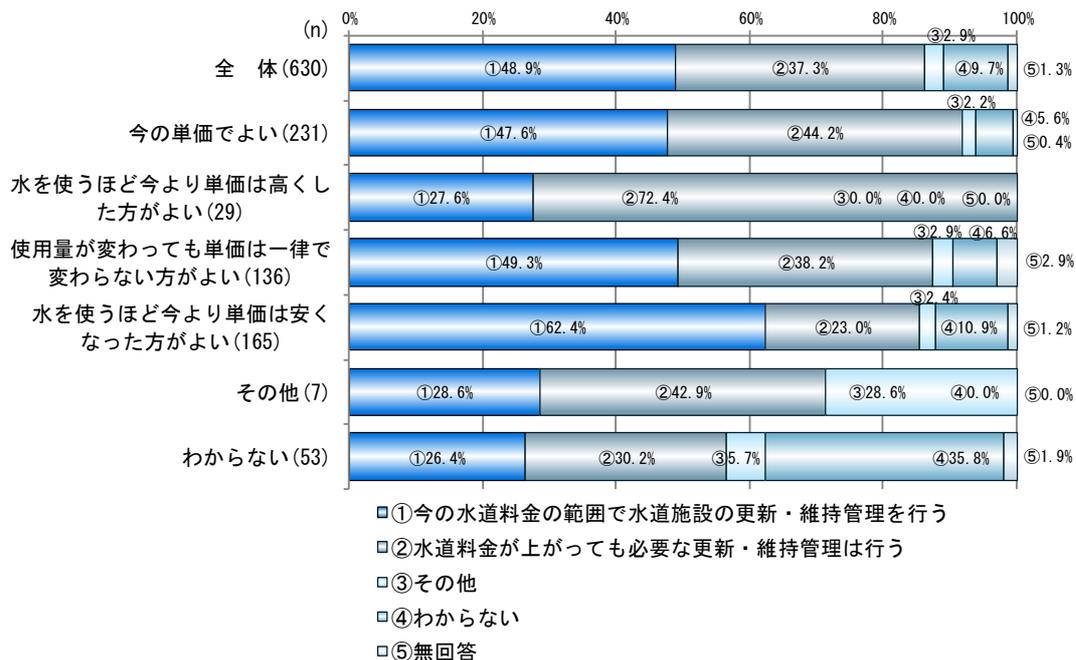


図 62 今後の県営水道の水道施設の更新及び維持管理【従量料金の意識別、単数回答】

従量料金の単価の推移に係る意識別でみると、「水を使うほど今より単価は高くした方がよい」と回答した事業所は、水道施設の更新及び維持管理について「水道料金が上がっても必要な更新・維持管理は行う」(72.4%)と回答している割合が高い。一方、「水を使うほど今より単価は安くなった方がよい」と回答した事業所は、「今の水道料金の範囲で水道施設の更新・維持管理を行う」(62.4%)と回答している割合が高い。

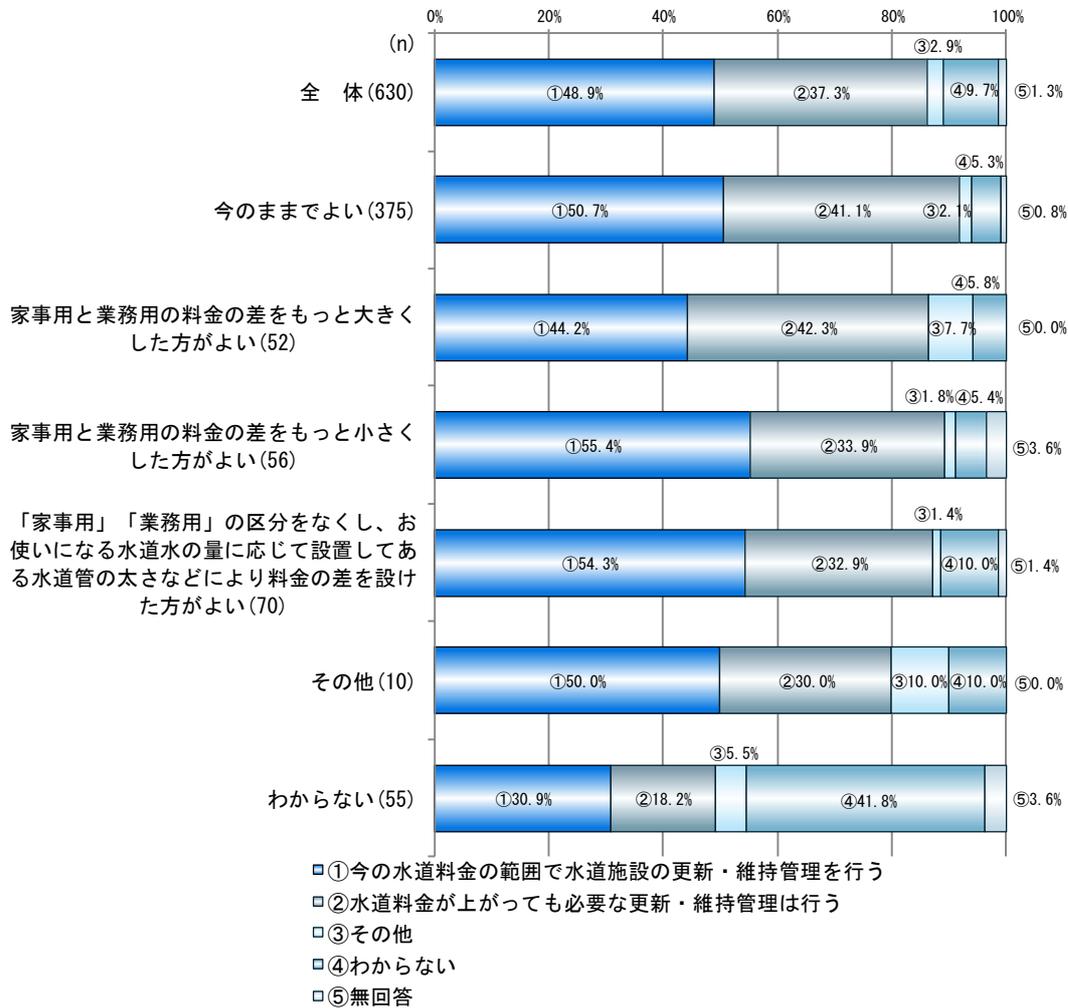


図 63 今後の県営水道の水道施設の更新及び維持管理
【用途別料金についての意識（料金体系の考え方）別、単数回答】

料金体系の考え別でみると、いずれの項目についても「今の水道料金の範囲で水道施設の更新・維持管理を行う」が最も高い割合となっている。

4. 県営水道の上水道料金について

(1) 上水道料金の意識

【問 8】 現在お支払いいただいている上水道料金について、どう思いますか。

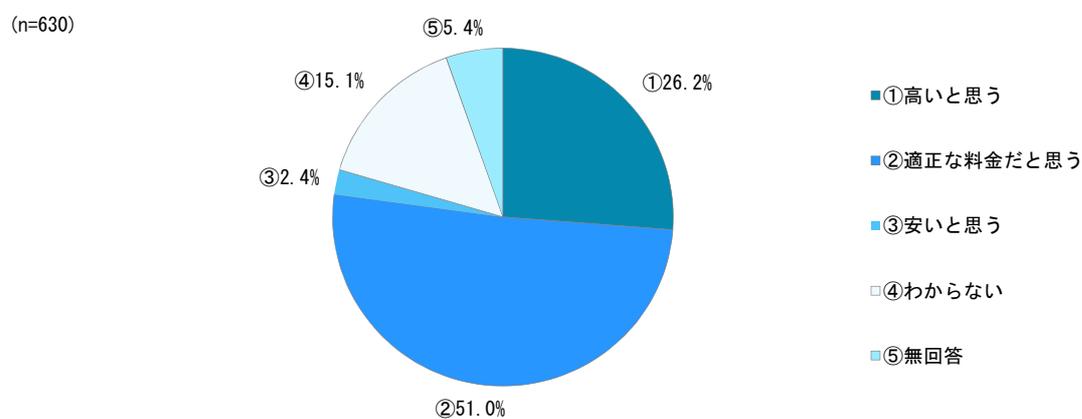
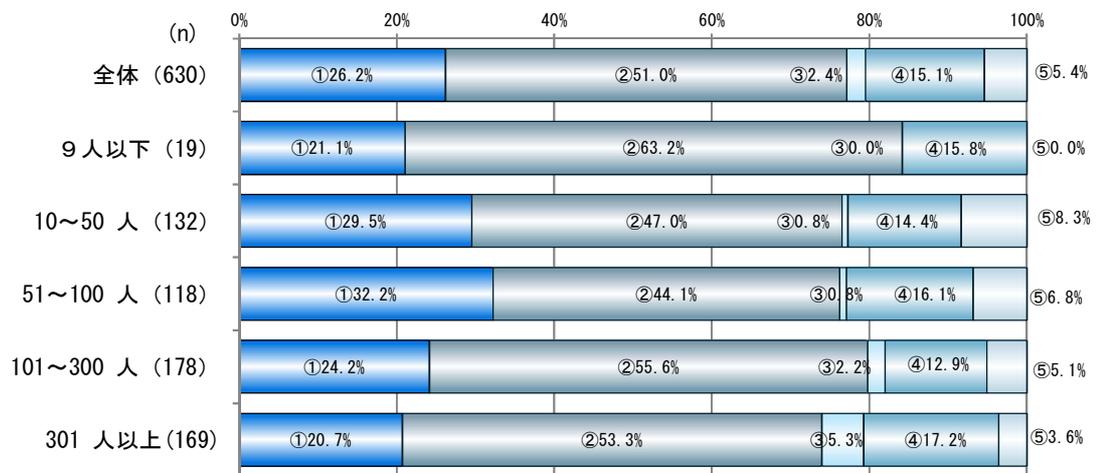


図 64 上水道料金の意識【単数回答】

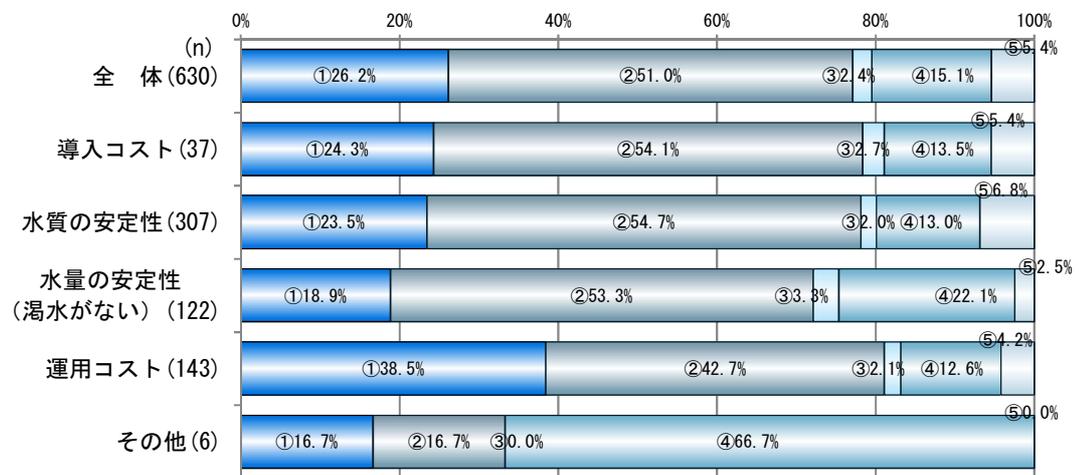
上水道料金の意識については、「適正な料金だと思う」（51.0%）が最も多く、5割以上の事業所において適正な料金だという認識がなされている。



□①高いと思う □②適正な料金だと思う □③安いと思う □④わからない □⑤無回答

図 65 上水道料金の意識【従業員別、単数回答】

従業員数別にみると、従業員が9人以下の事業所は上水道料金について「適正な料金だと思う」(63.2%)と回答した割合が高い。また従業員が301人以上の事業所の一部は「安いと思う」(5.3%)と回答している。



□①高いと思う □②適正な料金だと思う □③安いと思う □④わからない □⑤無回答

図 66 上水道料金の意識【一番考慮すること別、単数回答】

一番考慮するポイント別にみると、運用コストを重視している事業所は、上水道料金について「高いと思う」(38.5%)と回答している割合が高い。

【問9】 上水道料金について、あなたが知っていることはどれですか。

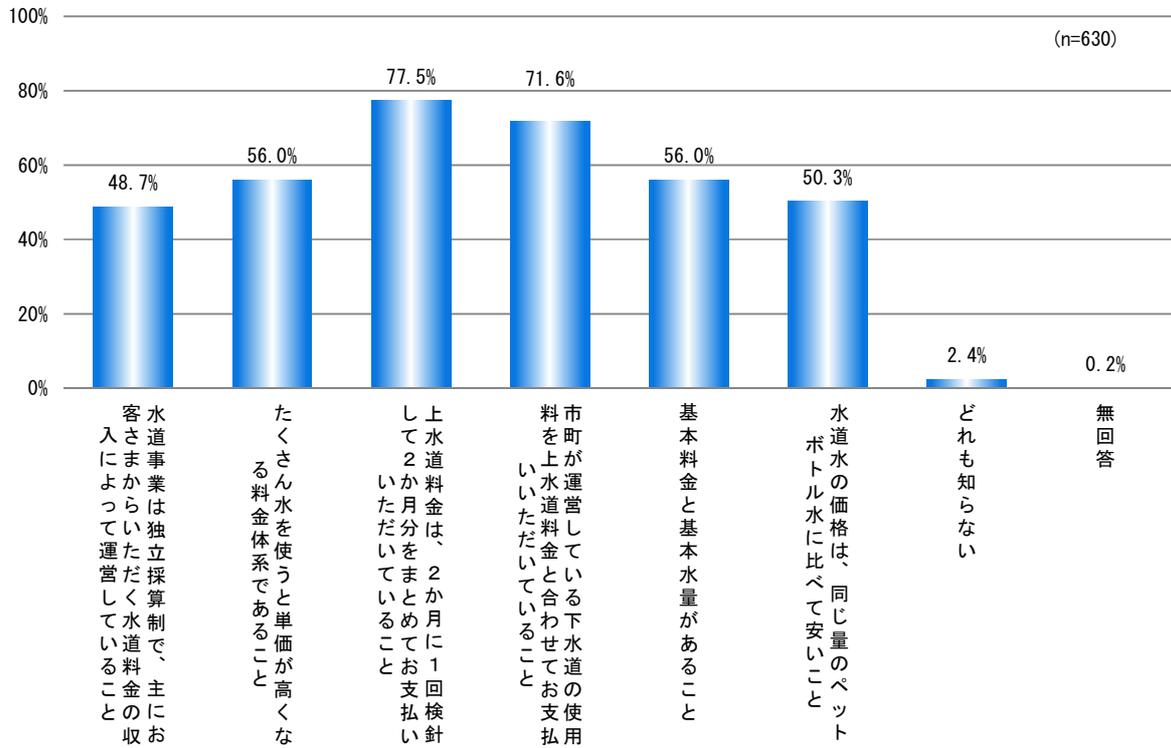


図 67 上水道料金の知識 【複数回答】

水道料金については、6項目すべて、5～8割程度の事業所が知っているという回答した。特に、支払いに関する項目については、約8割の認知度と非常に高かった。

(2) 基本料金についての意識

【問 10】 基本料金についてお聞きします。

県営水道では、水道をお使いいただくための必要な費用をまかなうために、使用量に関係なく基本料金として2か月分で一律 1,420 円（税抜き）をお支払いただいています。この基本料金についてどう思いますか。

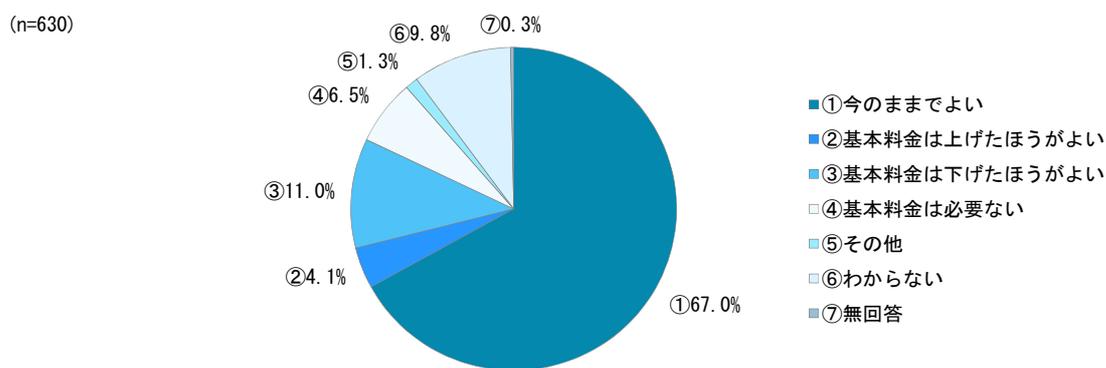


図 68 基本料金についての意識【単数回答】

基本料金については、「今のままでよい」と回答した事業所が約7割（67.0%）を占め、約1割（11.0%）の事業所が「基本料金は下げたほうがよい」と回答している。

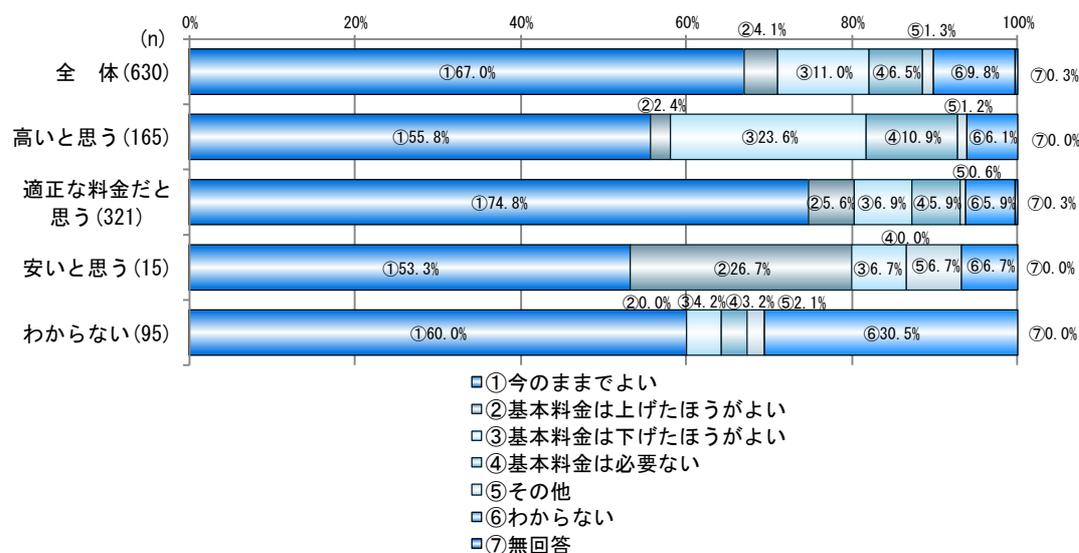


図 69 基本料金についての意識【水道料金の意識別、単数回答】

水道料金の意識別でみると、「適正な料金である」と回答した事業所は、基本料金について「今のままでよい」(74.8%)と回答している割合が高い。一方、「安いと思う」と回答した事業所は、「基本料金は上げたほうがよい」(26.7%)と回答している割合が比較的高い。

(3) 基本水量の意識

【問 11】 基本水量についてお聞きします。

県営水道では、水道使用量が2か月で16 m³ 以下であれば、水道料金が変わらないという基本水量についてどう思いますか。

(n=630)

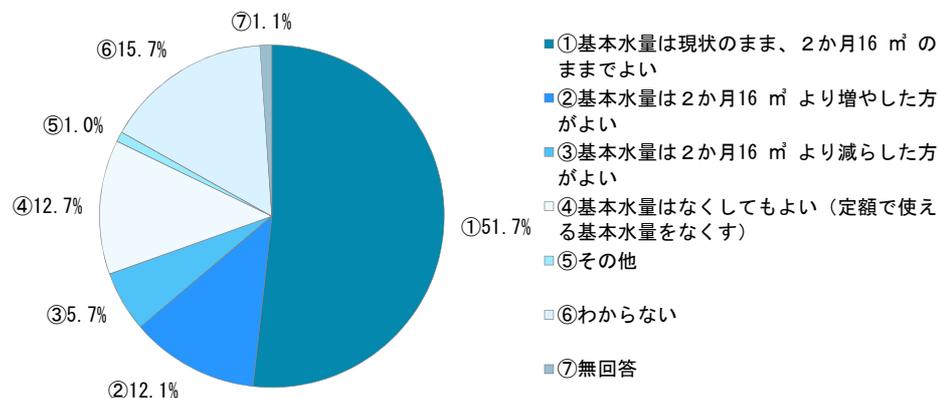


図 70 基本水量の意識【単数回答】

基本水量については、「基本水量は現状のまま、2か月16 m³ のままでよい」と回答した事業所が約5割（51.7%）と最も多くなっており、「わからない」（15.7%）、「基本水量はなくしてもよい（定額で使える基本水量をなくす）」（12.7%）、「基本水量は2か月16 m³ より増やした方がよい」（12.1%）が次いでいる。

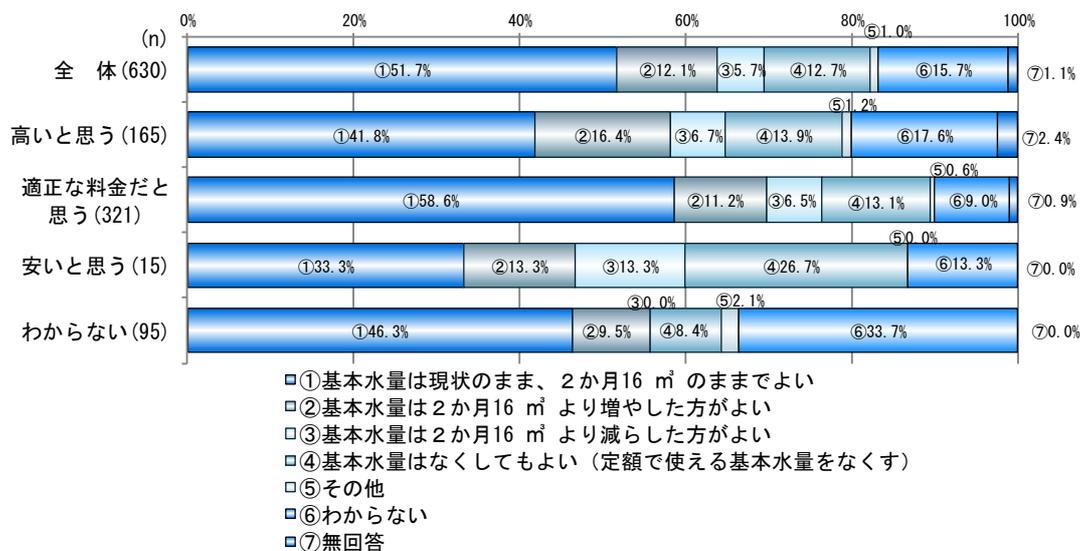


図 71 基本水量の意識【水道料金の意識別、単数回答】

水道料金の意識別でみると、「適正な料金である」と回答した事業所は、基本水量について「基本水量は現状のまま、2か月16 m³のままでよい」(58.6%)と回答している割合が高い。一方、「安いと思う」と回答した事業所は、「基本水量はなくしてもよい」(26.7%)と回答している割合が比較的高い。

(4) 従量料金についての意識

【問 12】 従量料金についてお聞きします。

基本水量の2か月16 m³を超えると、1 m³ごとに料金（従量料金）が加算されます。また、使用する量が多くなるほど1 m³あたりの単価が高くなります。この従量料金についてどう思いますか。

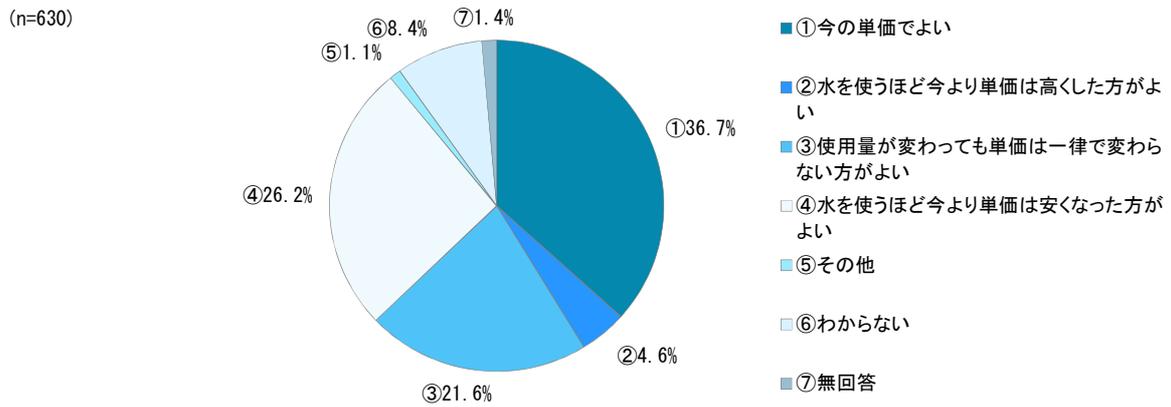


図 72 従量料金についての意識【単数回答】

従量料金については、「今の単価でよい」（36.7%）、「水を使うほど今より単価は安くなった方がよい」（26.2%）がそれぞれ約3割と高くなっている。

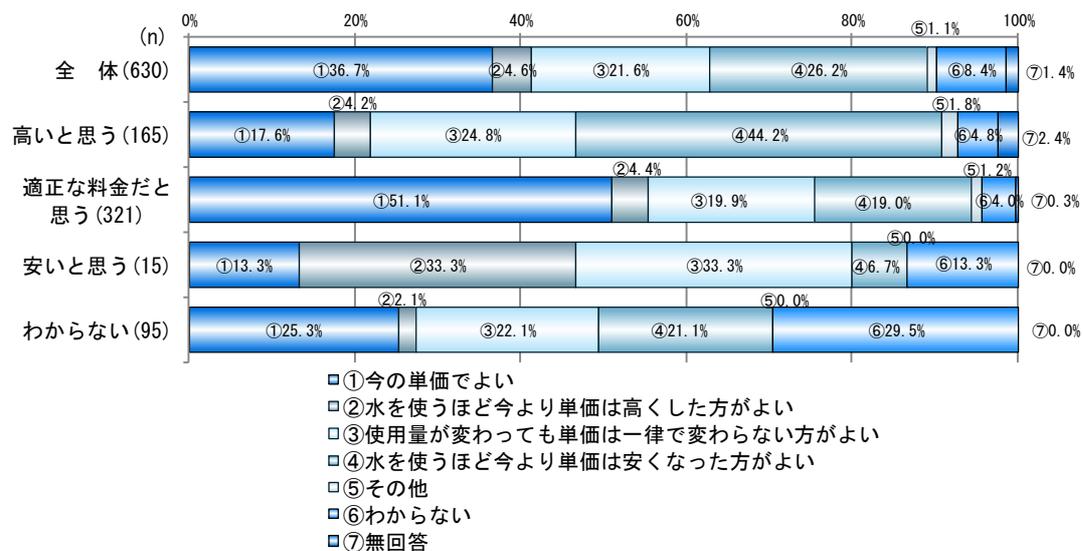


図 73 従量料金についての意識【水道料金の意識別、単数回答】

水道料金の意識別でみると、「適正な料金である」と回答した事業所は、従量料金について「今の単価でよい」(51.1%)と回答している割合が高い。一方、安いと思うと回答した事業所は、「水を使うほど今より単価は高くした方がよい」(33.3%)、「使用量が変わっても単価は一律で変わらない方がよい」(33.3%)と回答している割合がそれぞれ最も高い。

(5) 用途別料金についての意識

【問 13】 用途別料金についてお聞きします。

県営水道の料金は、一般家庭でお使いいただく「家事用」と企業等でお使いいただく「業務用」などの用途により区分しています。上の表のとおり、家事用は業務用よりも安くなっています。用途別料金についてどう思いますか。

(n=630)

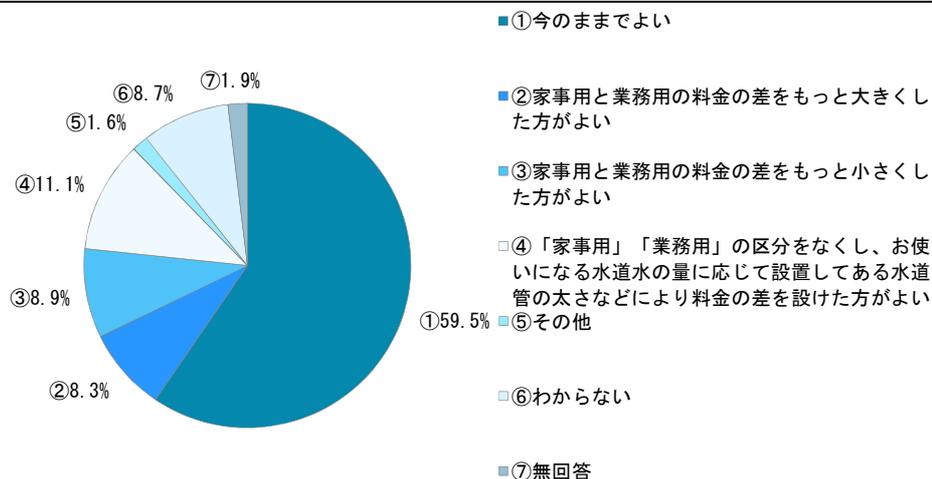


図 74 用途別料金についての意識（料金体系の考え方）【単数回答】

用途別料金についての意識（料金体系の考え方）については、「今のままでよい」が最も多く、約 6 割（59.5%）を占めている。

表 7 用途別料金についての意識（料金体系の考え方）（その他の回答）

業務用を安く設定（3件）	<ul style="list-style-type: none"> ・業務用 100 m³までの単価を、家事用 237 円と同じにする。 ・業務用 101 m³～の単価を家事用 294 円でスタートとし、順次単価アップしていく。 ・業務用水道水は、大量に使用するほど単価を下げたい。
業種別に料金を設定（5件）	<ul style="list-style-type: none"> ・教育・医療にかかる料金を安く。 ・業務用の中でも職種別に料金体系を変えて欲しい。
その他（2件）	<ul style="list-style-type: none"> ・水道管の太さによる基本料金とする。

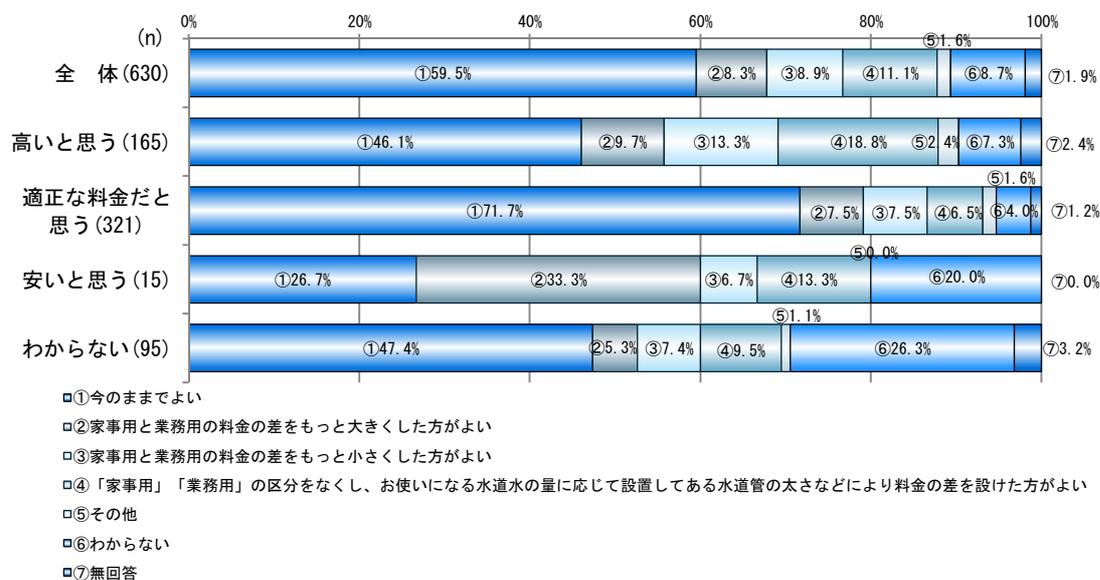


図 75 用途別料金についての意識（料金体系の考え方）【水道料金の意識別、単数回答】

水道料金の意識別でみると、「適正な料金である」と回答した事業所は、用途別料金について「今のままでよい」（71.7%）と回答している割合が高い。一方、「安いと思う」と回答した事業所は、「家事用と業務用の料金の差をもっと小さくした方がよい」（33.3%）と回答している割合が高い。

(6) 「水道利用加入金制度」について

【問 14】「水道利用加入金制度」についてお聞きします。
「水道利用加入金制度」についてご存知ですか。

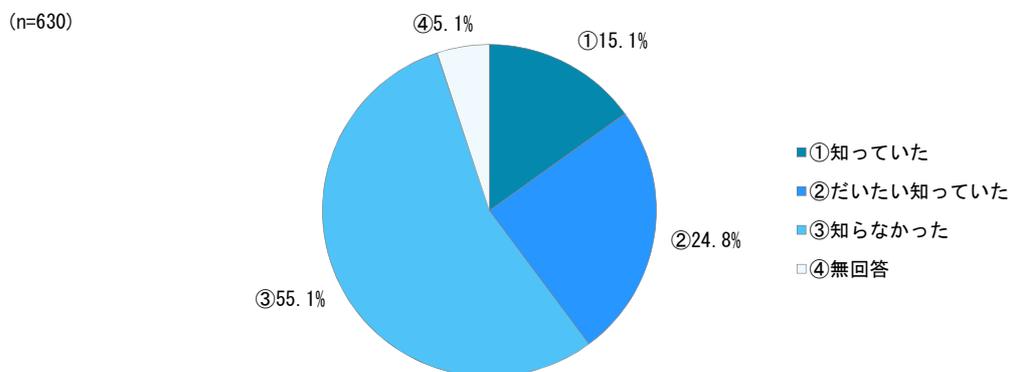


図 76 「水道利用加入金制度」についての認知度【単数回答】

水道利用加入金制度について、「大体知っていた」(24.8%)「知っていた」(15.1%)と回答した事業所が合わせて約4割を占めている。

【問 15】 「水道利用加入金制度」についてどう思いますか。

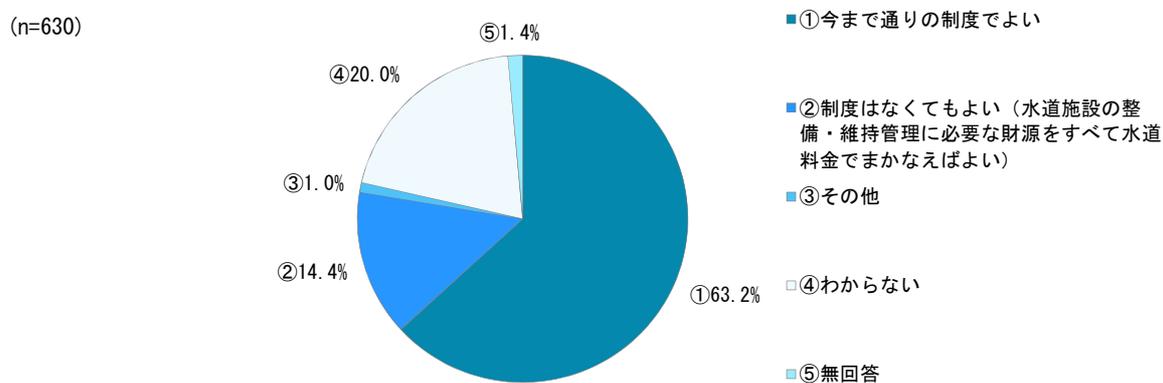


図 77 「水道利用加入金制度」についての意識【単数回答】

水道利用加入金制度について、「今まで通りの制度でよい」(63.2%)が最も多い。

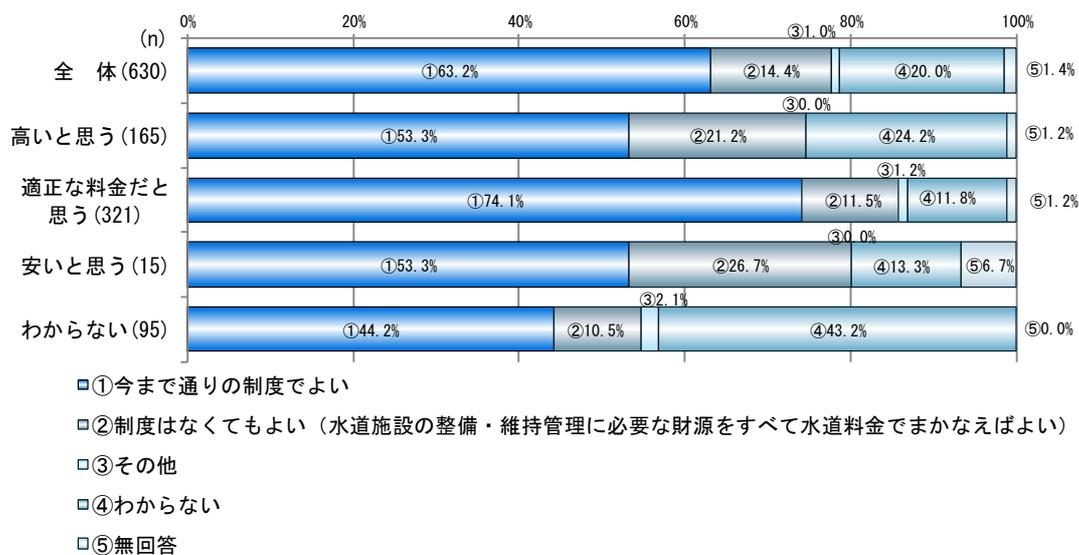


図 78 「水道利用加入金制度」についての意識【水道料金の意識別、単数回答】

水道料金の意識別でみると、適正な料金であると回答した事業所は、水道利用加入制度について「今まで通りの制度でよい」(74.1%)と回答している割合が高い。

(7) 県営水道の広報活動等について

【問 16】あなたが県営水道に関して知りたい情報は次のどれですか。

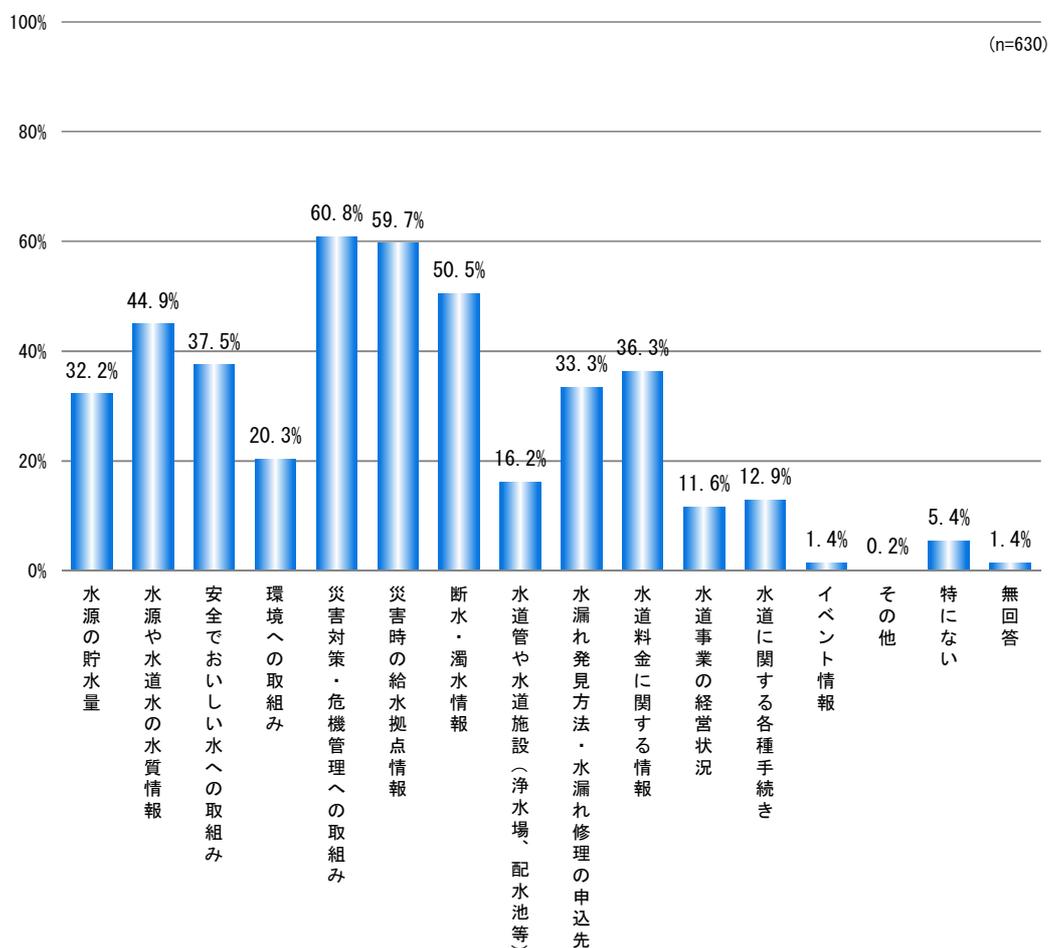


図 79 県営水道の取得したい情報【複数回答】

県営水道について知りたい情報は、「災害対策・危機管理への取組み」（60.8%）と「災害時の給水拠点情報」（59.7%）が多く、災害関連の情報が最も求められている。

【問 17】 あなたが県営水道に関して知りたい情報は次のどれですか。

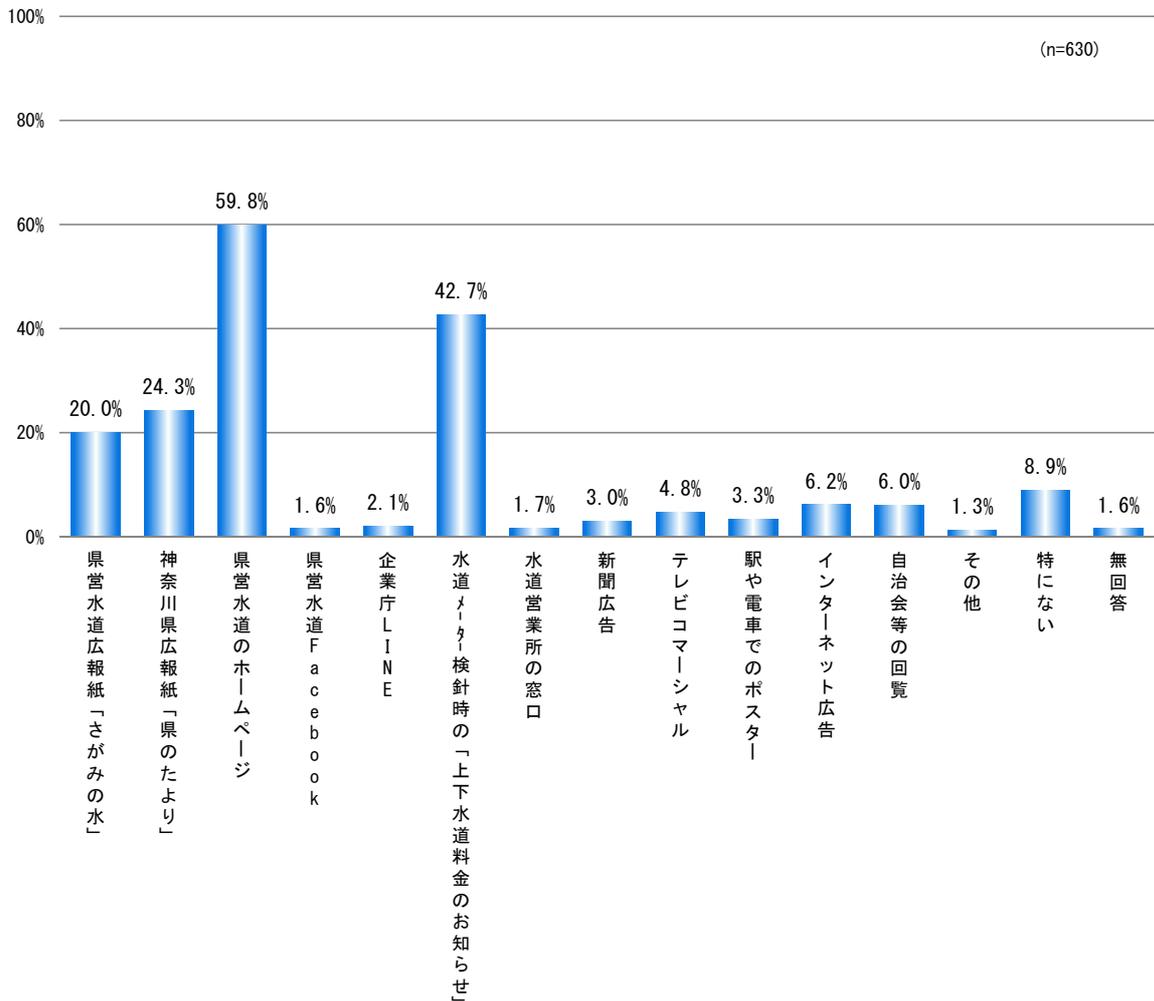


図 80 県営水道の情報を知る手段【複数回答】

県営水道に関する情報を知る手段は、「県営水道のホームページ」(59.8%)が最も多く、「水道メーター検針時の「上下水道料金のお知らせ」(42.7%)が次いでいる。

【問 18】 現在、県営水道が行っている事業等についてどう思いますか。

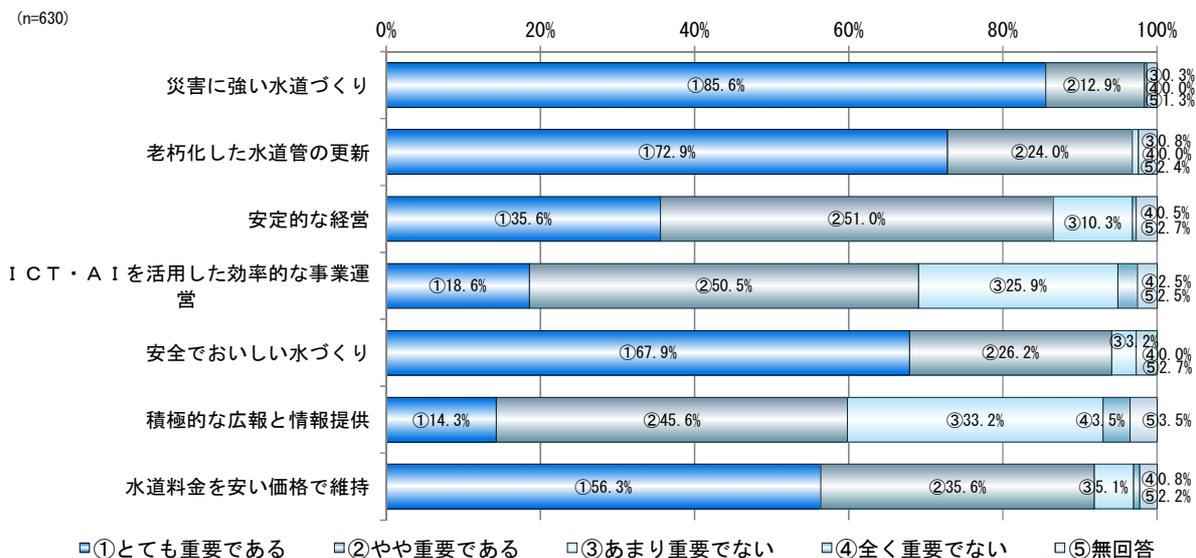


図 81 県営水道が行っている事業【単数回答】

県営水道が行っている事業については、「とても重要である」と「やや重要である」を合わせると、「県営水道の取組についての積極的な広報及び情報提供」以外の全項目について約7割以上の事業所が重要であると認識している。特に、「地震や豪雨などの災害に強い水道づくり」、「老朽化した水道管の更新」と「安全でおいしい水づくり」、「水道料金を安い価格で維持している」については、「とても重要である」と「やや重要である」を合わせると、約9割以上の事業所が重要であると考えている。

5. 自由意見

本調査では、神奈川県営水道事業について 58 件のご意見・ご要望が寄せられた。それらを以下の項目に分類し、代表的なものを抽出し掲載した。なお、1 事業所につき複数の内容 について記述している場合もあり、各件数を足しあげても総件数とは一致しない。

■最後に、神奈川県営水道事業についてのご意見を自由にお書きください。

<表 8 自由意見内訳表>

安定供給	災害対策について	6 件
	老朽化した水道管や水道施設の更新について	3 件
	濁水対策について	1 件
	漏水対策について	1 件
水質・水源	安全安心な水への要望	9 件
	おいしい水への要望	1 件
	おいしい・おいしくなった・水質が良い	2 件
経営	料金や支払方法について	6 件
	水道事業経営について	13 件
広報・広聴、職員対応	広報・広聴について	4 件
その他（感謝、励まし等を含む）	感謝、励まし等	7 件
	その他	23 件

[安定供給（11 件）]

- ・安定した供給及び災害時の早期給水をお願いします。
- ・災害に強い水道づくりというのは非常に重要だと思います。何をするにしても水がなければなりませんし、設備も老朽化していきますので、交換などが必要になってくると思います。ライフラインを支える大事なものなので、費用をかけてでも整備をしていただきたいです。
- ・災害時の対応等、企業も協力し実施していきたい。
- ・水道管の老朽化による破損は、大きな問題となりますので、順次更新を進めて欲しいと思います。

など

[水源・水質 (12 件)]

- ・安心・安定・安全な、水の供給を引き続きお願いします。
- ・事業所としては、水質の安全性を基軸に運営を行ってほしいと考えております。
- ・日々、水の安定供給ありがとうございます。インフラ更新費と莫大な費用がかかることは重々承知しております。用水担当者の視点からすると全額も重要ですが、安定供給の方が重要ですので価格を上げてでもインフラ更新に投資していただきたいと考えております。

など

[経営 (19 件)]

- ・漏水時、修理が終了した際、直近の料金だけでなく水道量が大幅に増えた期間を考慮して頂きたいです。
- ・料金は安い方が良いですが、安全第一と思います。両立出来る様、今後も期待しています。
- ・漏水の可能性が生じた際、助言だけでなく、調査までしていただきたいです。
- ・県営であるからこそ安定した水供給が成り立っていると思います。
- ・行政主導で民営化せずとも、安定した経営が出来るよう望みます。

など

[広報・広聴、職員対応 (4 件)]

- ・水道使用量の減と、施設、設備の老朽化への対応策経営的に厳しくなっていることを聞き及んでいます。今後の経営の継続性と安定を図っていくための取組みを進めて行かれると思いますので、県民への理解を求めて、広報活動は、責務的にお願いしたいと思います。

など

[その他 (感謝、励まし等を含む) (30 件)]

- ・日頃より私達の生活を守ってくださりありがとうございます。安心して飲める水、「安全」という非常に重い責務を担っている現場の従業員の皆さまに心より感謝いたします。今後も、様々な課題に対し柔軟かつ建設的に取組み、住民に分かりやすい事業運営を期待します。
- ・神奈川の安定した水源の保全に感謝しています。
- ・県営水道ホームページにて本調査結果が公表された際には改めて、その旨の案内を是非お願い致します。

など

※ 各ご意見・ご要望の記述については、文意が損なわれないよう、ほぼ原文を掲載している。

資料 1 単純集計結果

■最初に事業所のことについてお伺いします。該当する番号に○をつけてください。

【F 1】 事業所の所在地はどちらですか。

表 1 事業所の所在地

居住地	回答数	構成比
1. 愛川町	10	1.6%
2. 厚木市	66	10.5%
3. 綾瀬市	21	3.3%
4. 伊勢原市	28	4.4%
5. 海老名市	33	5.2%
6. 大磯町	4	0.6%
7. 小田原市	4	0.6%
8. 鎌倉市	33	5.2%
9. 相模原市中央区	43	6.8%
10. 相模原市南区	45	7.1%
11. 相模原市緑区	30	4.8%
12. 寒川町	14	2.2%
13. 逗子市	8	1.3%
14. 茅ヶ崎市	36	5.7%
15. 二宮町	1	0.2%
16. 箱根町	30	4.8%
17. 葉山町	5	0.8%
18. 平塚市	69	11.0%
19. 藤沢市	91	14.4%
20. 大和市	45	7.1%
21. 無回答	14	2.2%
合計	630	100%

【F 2】 事業所の業種は次のどれに該当しますか。

(n=630)

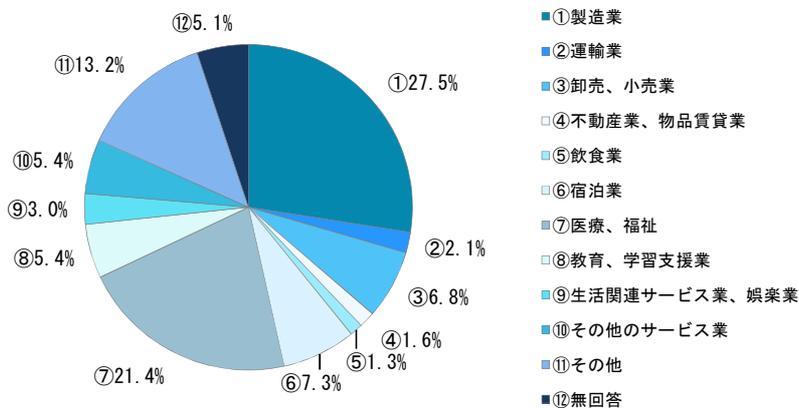


図 1 事業所の業種

【F 3】 事業所の従事者数は何人ですか。

(n=630)

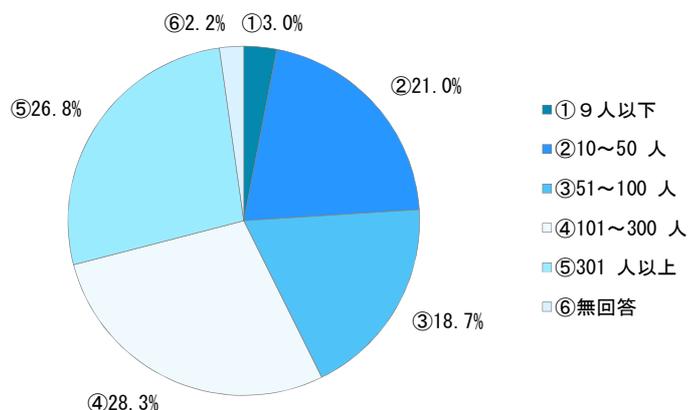


図 2 事業所の従業員数

【問 1】 あなたの事業所では、水道水や水道水以外の水（地下水、再生水等）を使用していますか。（それぞれ1つだけ選び、○をつけてください）

(n=630)

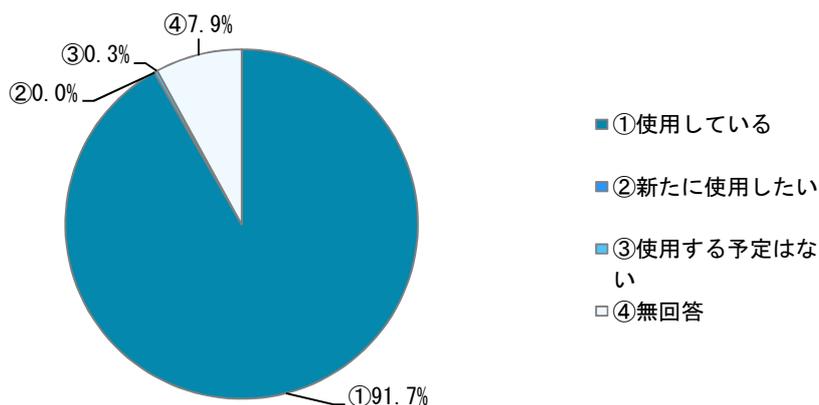


図 3 水道水使用状況【単数回答】

(n=630)

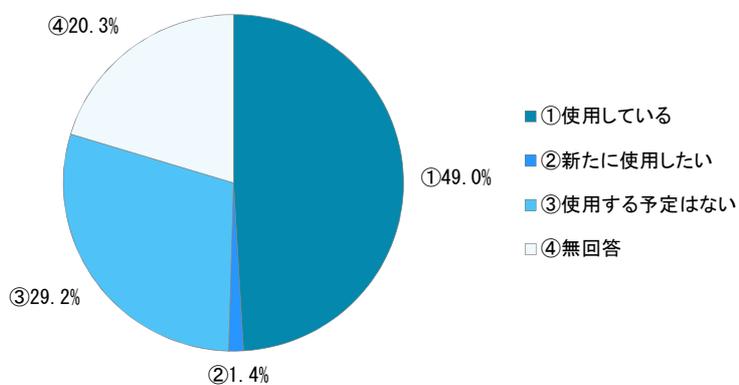


図 4 水道水以外使用状況【単数回答】

【問1-1】この1年間の全使用水量のうち、水道水以外の使用水量は全体の何割くらいですか。
 (数字を記入してください)

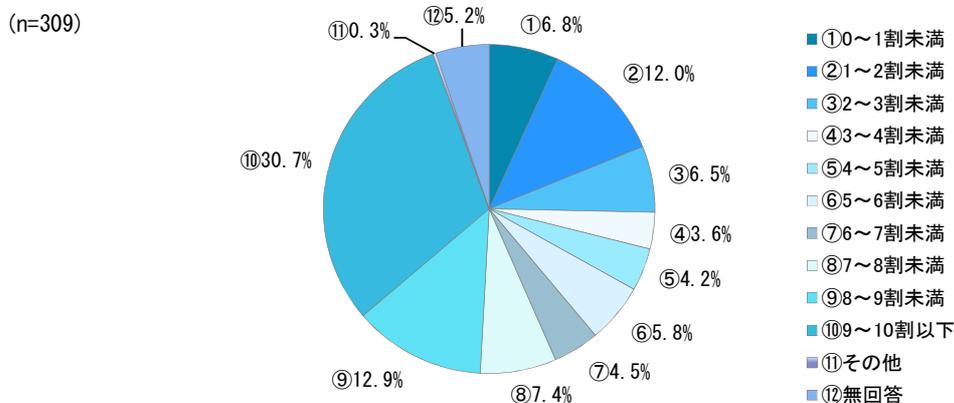


図 5 水道水以外の使用状況の割合【数値記入回答】

【問1-2】水道水以外の水を使用しているのはどうしてですか。
 (1つだけ選び、○をつけてください。)

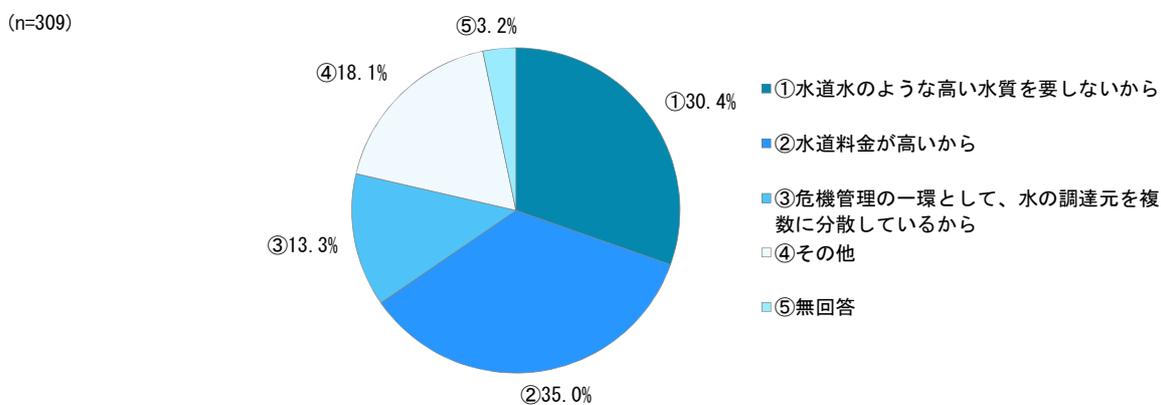


図 6 水道水以外の使用状況の理由【単数回答】

【問1-3】水道料金が下がったら、水道水の使用量を増やしますか。
 (1つだけ選び、○をつけてください。)

(n=108)

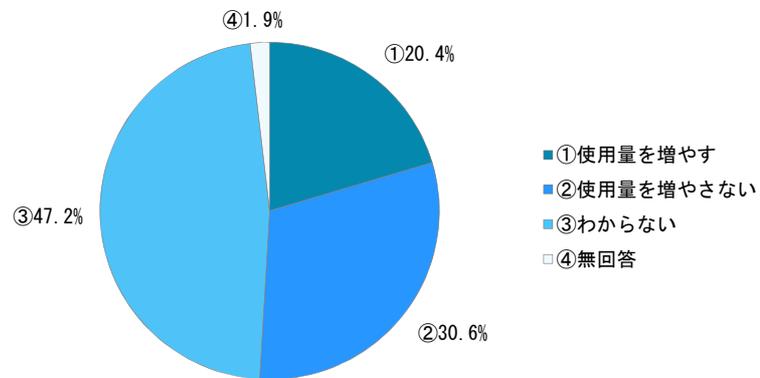


図7 水道料金が下がった際の水道水の使用量増意向【単数回答】

【問2】水を使用するにあたり、一番考慮することは何ですか。

(n=309)

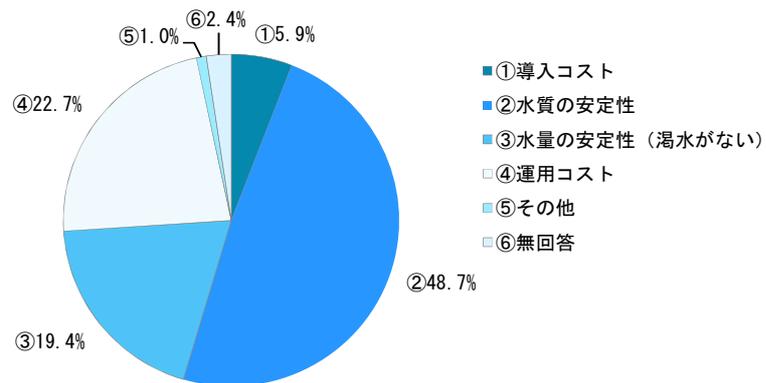


図8 水を使用するにあたり考慮すること【単数回答】

【問3】 水道施設や水道管の維持費などの固定費の負担についてお聞きします。

他の水道事業者の中には、地下水など水道水以外の水を使用している方に、水道施設や水道管の維持に必要な費用を負担していただく制度を設けているところがあります。このような制度があることを知っていますか。上記の制度があることを知っていますか。
(1つだけ選び、○をつけてください。)

(n=630)

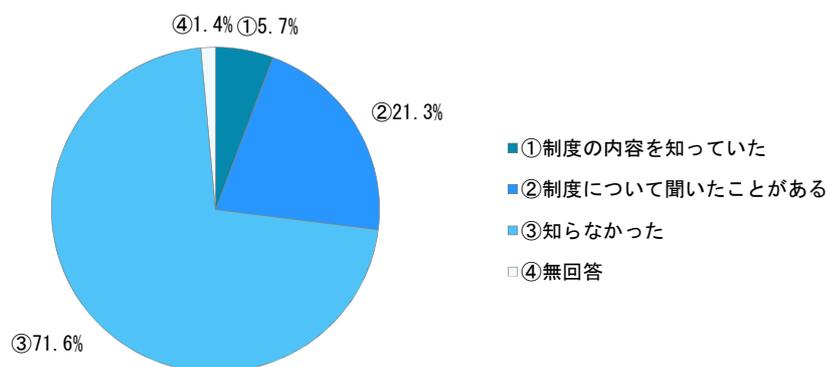


図 9 水道施設や水道管の維持費などの固定費の負担について【単数回答】

【問4】 今後、水道水の使用量の変化について、どのように見込んでいますか。

(n=630)

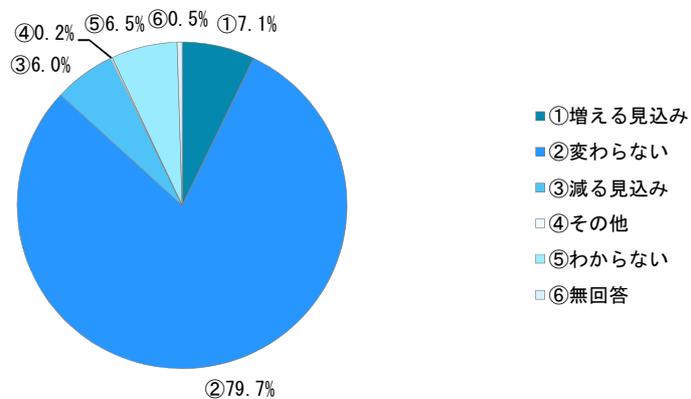


図 10 水道水使用見込み【単数回答】

【問4-1】問4で「1. 増える見込み」に○をつけた場合に、お答えください。

その理由について当てはまるものはどれですか。

(1つだけ選び、○をつけてください。)

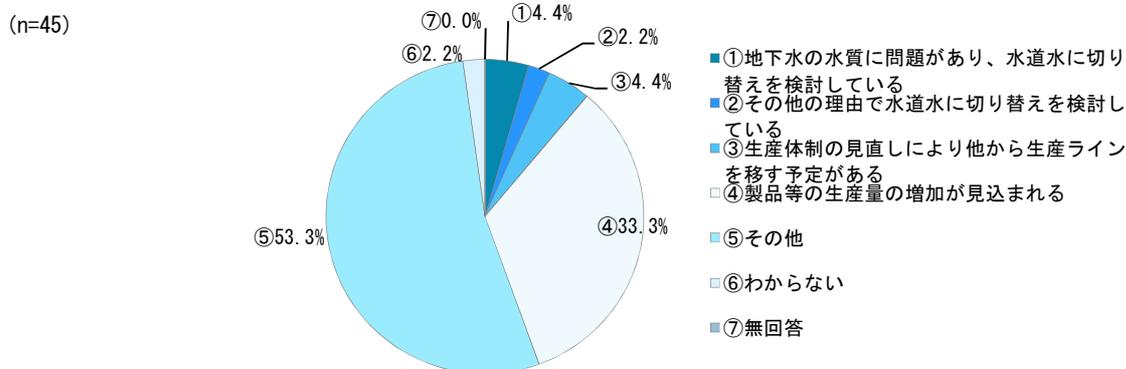


図 11 水道水使用増加見込みの理由【単数回答】

【問4-2】問4で「3. 減る見込み」に○をつけた場合に、お答えください。

その理由について当てはまるものはどれですか。

(1つだけ選び、○をつけてください。)

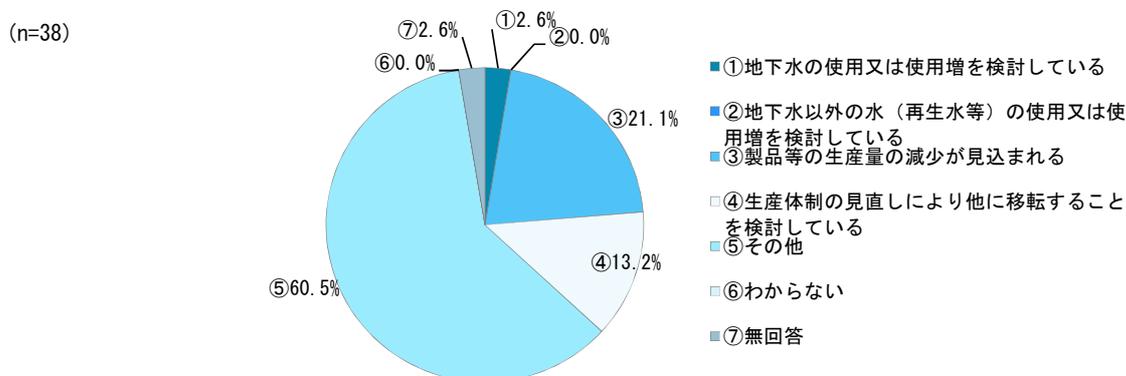


図 12 水道水使用減少見込みの理由【単数回答】

【問5】今後の災害対策の進め方についてどう思いますか。(1つだけ選び、○をつけてください。)

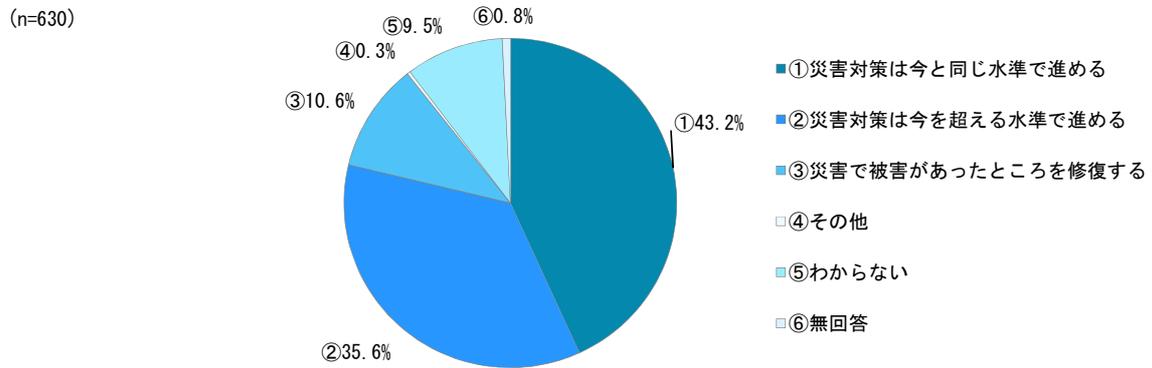


図 13 今後の災害対策【単数回答】

【問6】水道管の更新の取組についてどう思いますか。(1つだけ選び、○をつけてください。)

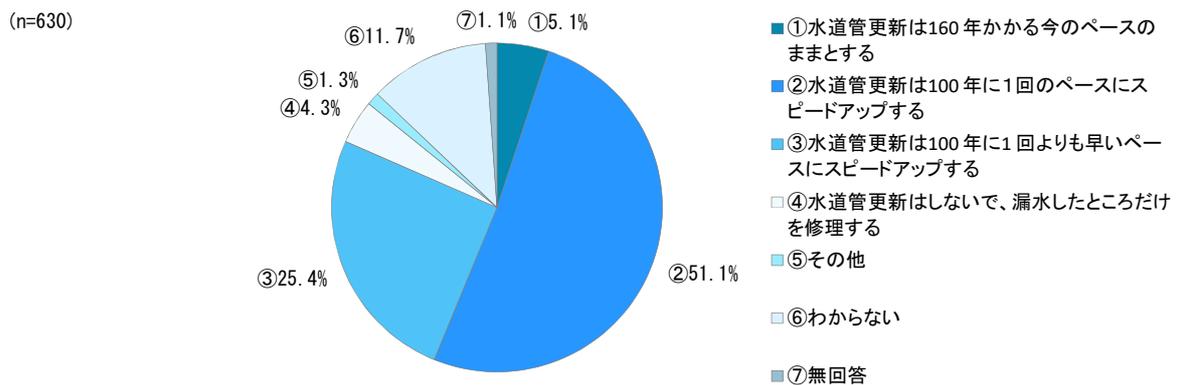


図 14 水道管の更新の取組【単数回答】

【問7】 今後の県営水道の水道施設の更新及び維持管理についてどう思いますか。（1つだけ選び、○をつけてください。）

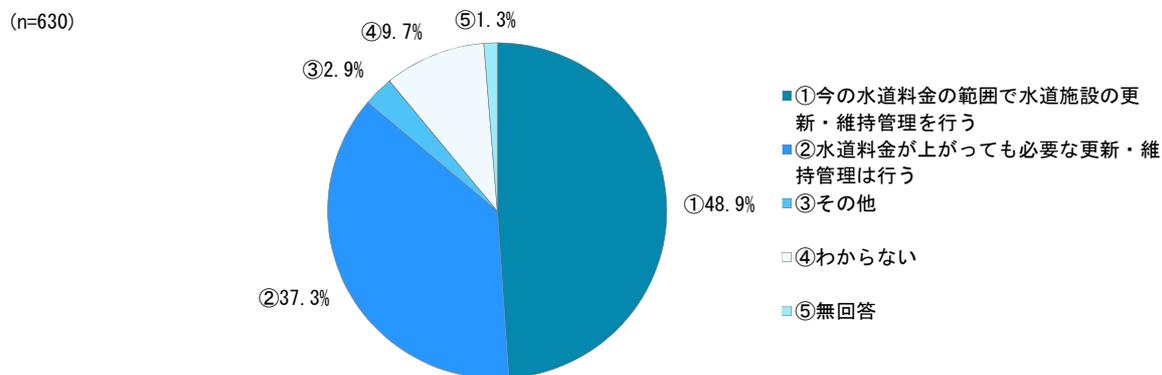


図 15 今後の県営水道の水道施設の更新及び維持管理【単数回答】

【問8】 現在お支払いいただいている上水道料金について、どう思いますか。（あなたの考えに最も近いものを1つだけ選び、○をつけてください。）

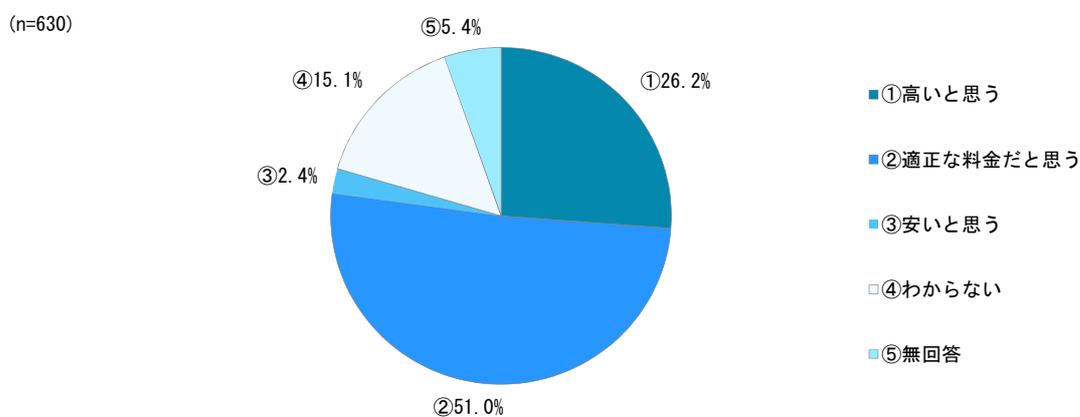


図 16 上水道料金の意識【単数回答】

【問9】上水道料金について、あなたが知っていることはどれですか。

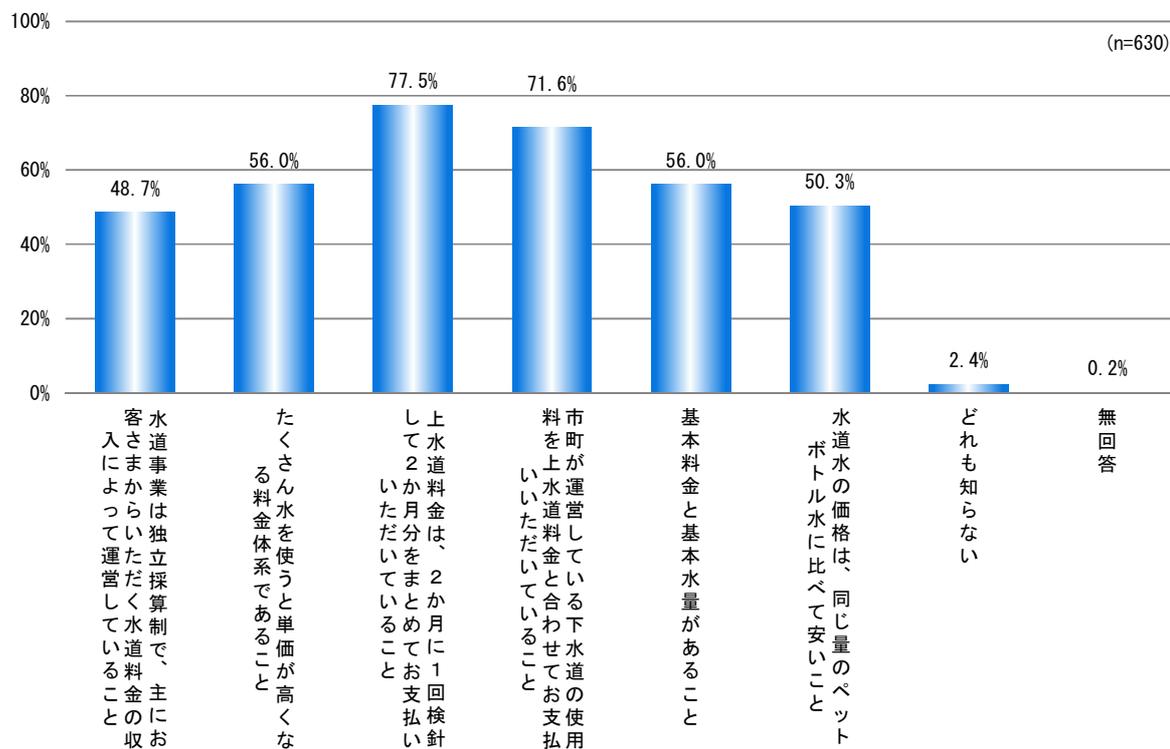


図 17 上水道料金の知識【複数回答】

【問10】基本料金についてお聞きします。県営水道では、水道をお使いいただくための必要な費用をまかなうために、使用量に関係なく基本料金として2か月分で一律1,420円（税抜き）をお支払いいただいています。この基本料金についてどう思いますか。（1つだけ選び、○をつけてください。）

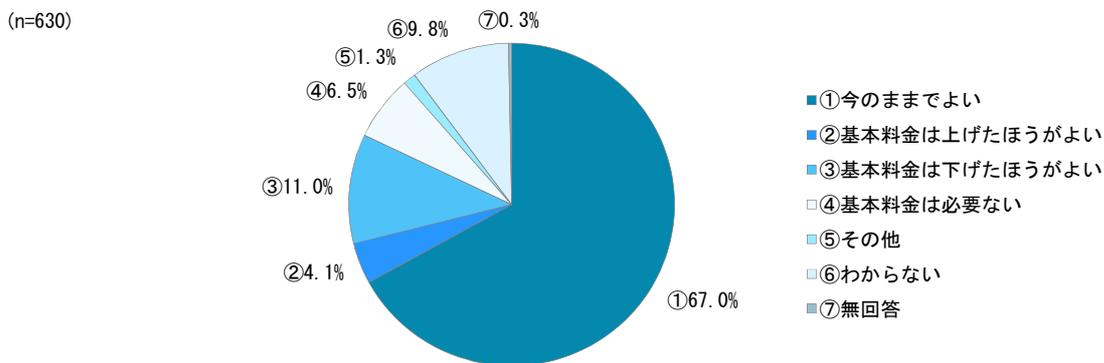


図 18 基本料金についての意識【単数回答】

【問 11】基本水量についてお聞きします。県営水道では、水道使用量が2か月で16 m³ 以下であれば、水道料金が変わらないという基本水量についてどう思いますか。（1つだけ選び、○をつけてください。）

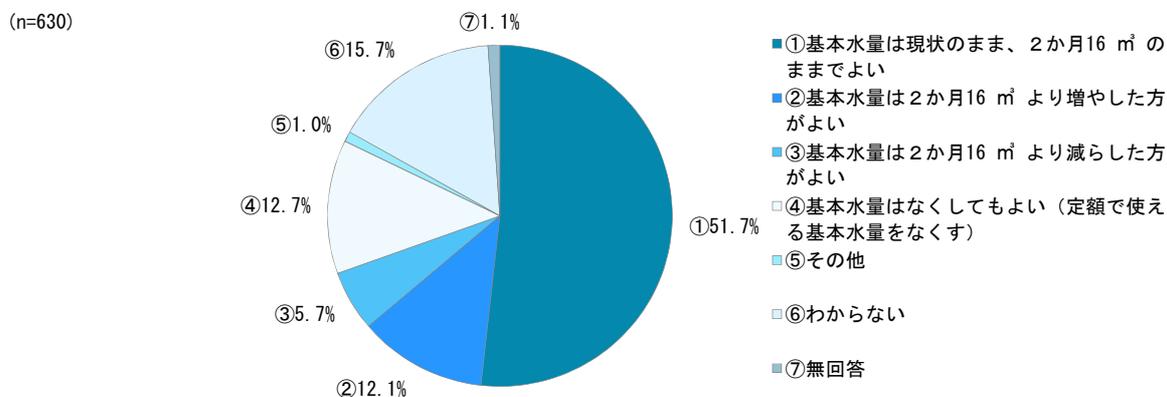


図 19 基本水量についての意識【単数回答】

【問 12】従量料金についてお聞きします。基本水量の2か月16 m³ を超えると、1 m³ ごとに料金（従量料金）が加算されます。また、使用する量が多くなるほど1 m³ あたりの単価が高くなります。この従量料金についてどう思いますか。（1つだけ選び、○をつけてください。）

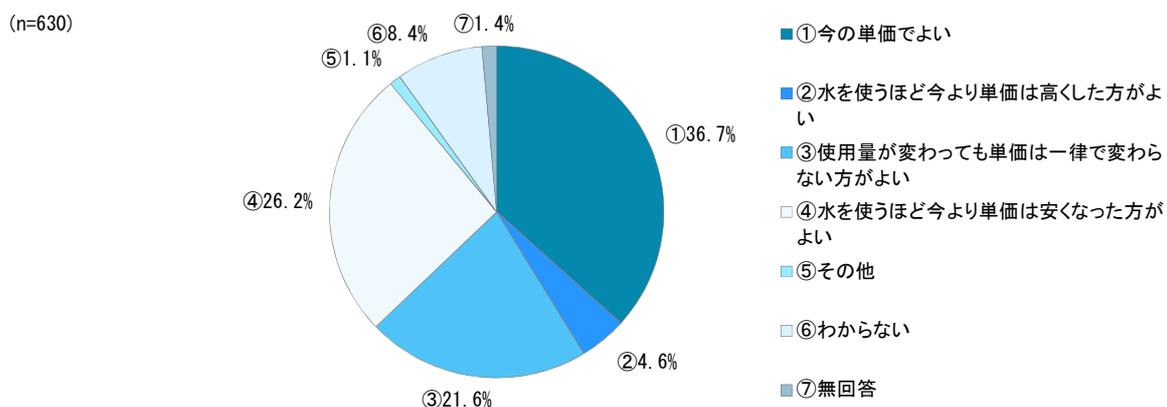


図 20 従量料金についての意識【単数回答】

【問 13】 用途別料金についてお聞きします。県営水道の料金は、一般家庭でお使いいただく「家事用」と企業等でお使いいただく「業務用」などの用途により区分しています。家事用は業務用よりも安くなっています。用途別料金についてどう思いますか。（1つだけ選び、○をつけてください。）

(n=630)

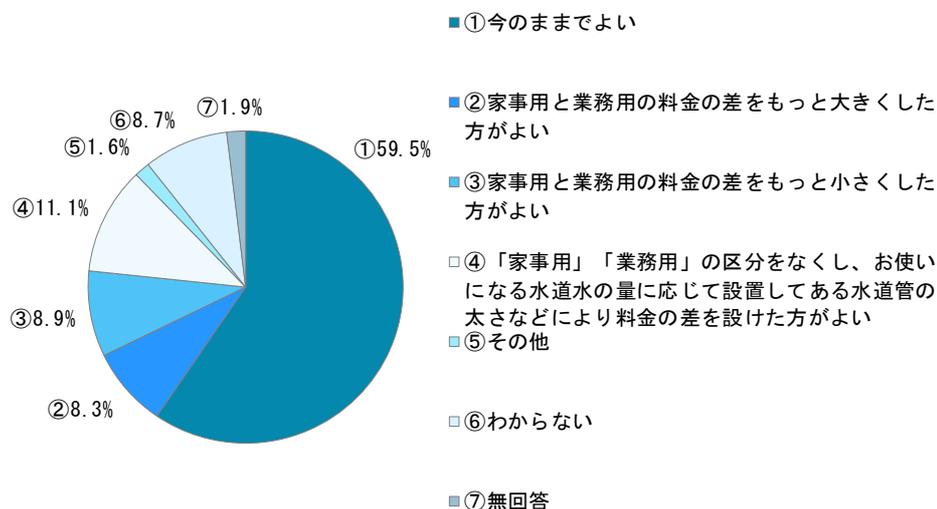


図 21 用途別料金についての意識【単数回答】

【問 14】「水道利用加入金制度」についてご存知でしたか。（1つだけ選び、○をつけてください。）

(n=630)

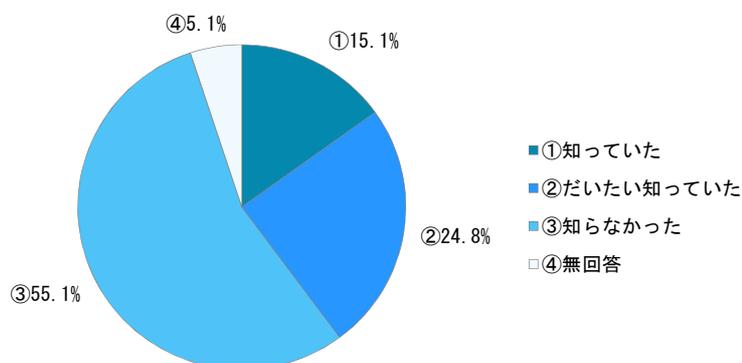


図 22 「水道利用加入金制度」についての認知度【単数回答】

【問 15】「水道利用加入金制度」についてどう思いますか。(1つだけ選び、○をつけてください。)

(n=630)

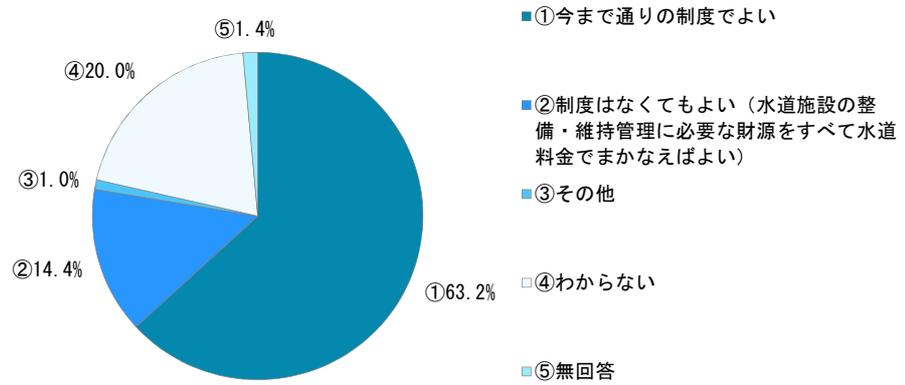


図 23 「水道利用加入金制度」についての意識【単数回答】

【問 16】あなたが県営水道に関して知りたい情報は次のどれですか。(いくつでも選び、○をつけてください。)

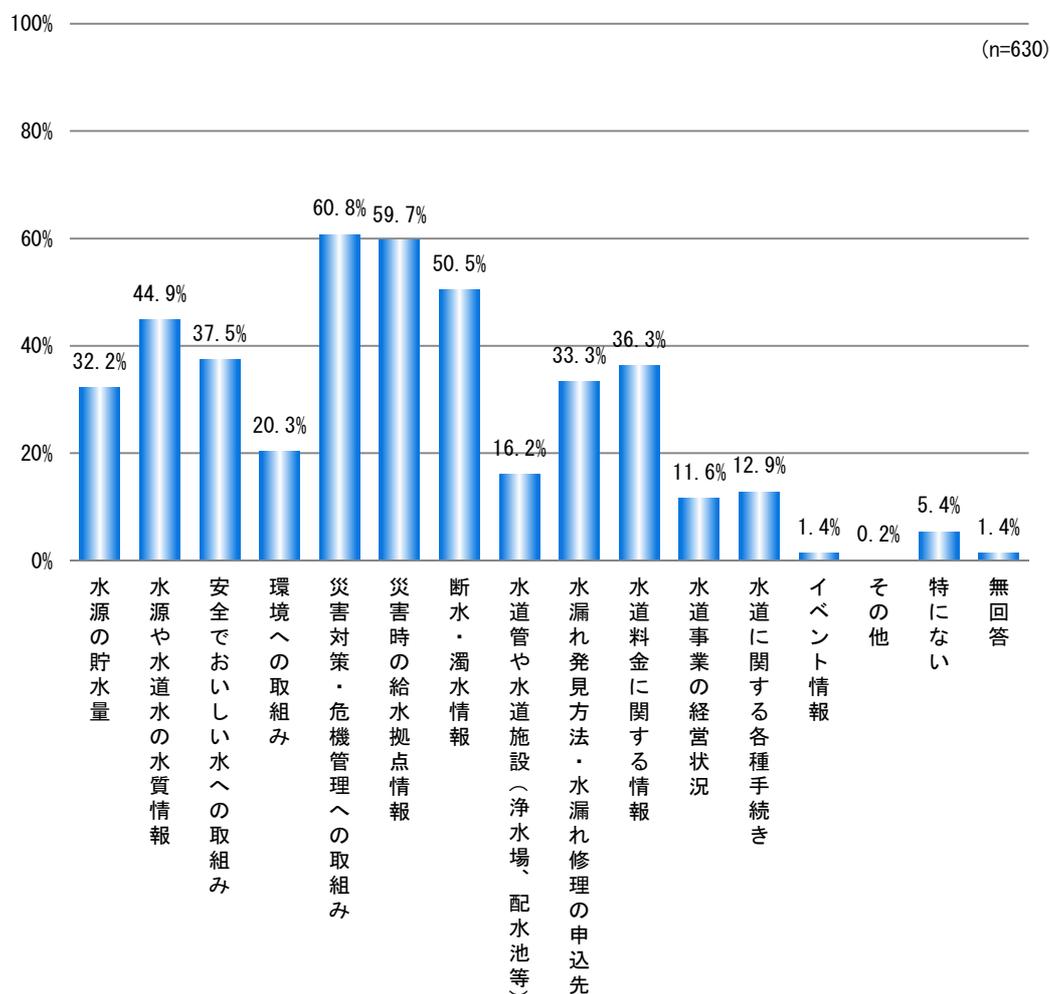


図 24 県営水道の取得したい情報【複数回答】

【問 17】あなたは県営水道に関する情報を何によって知りたいですか。(いくつでも選び、○をつけてください。)

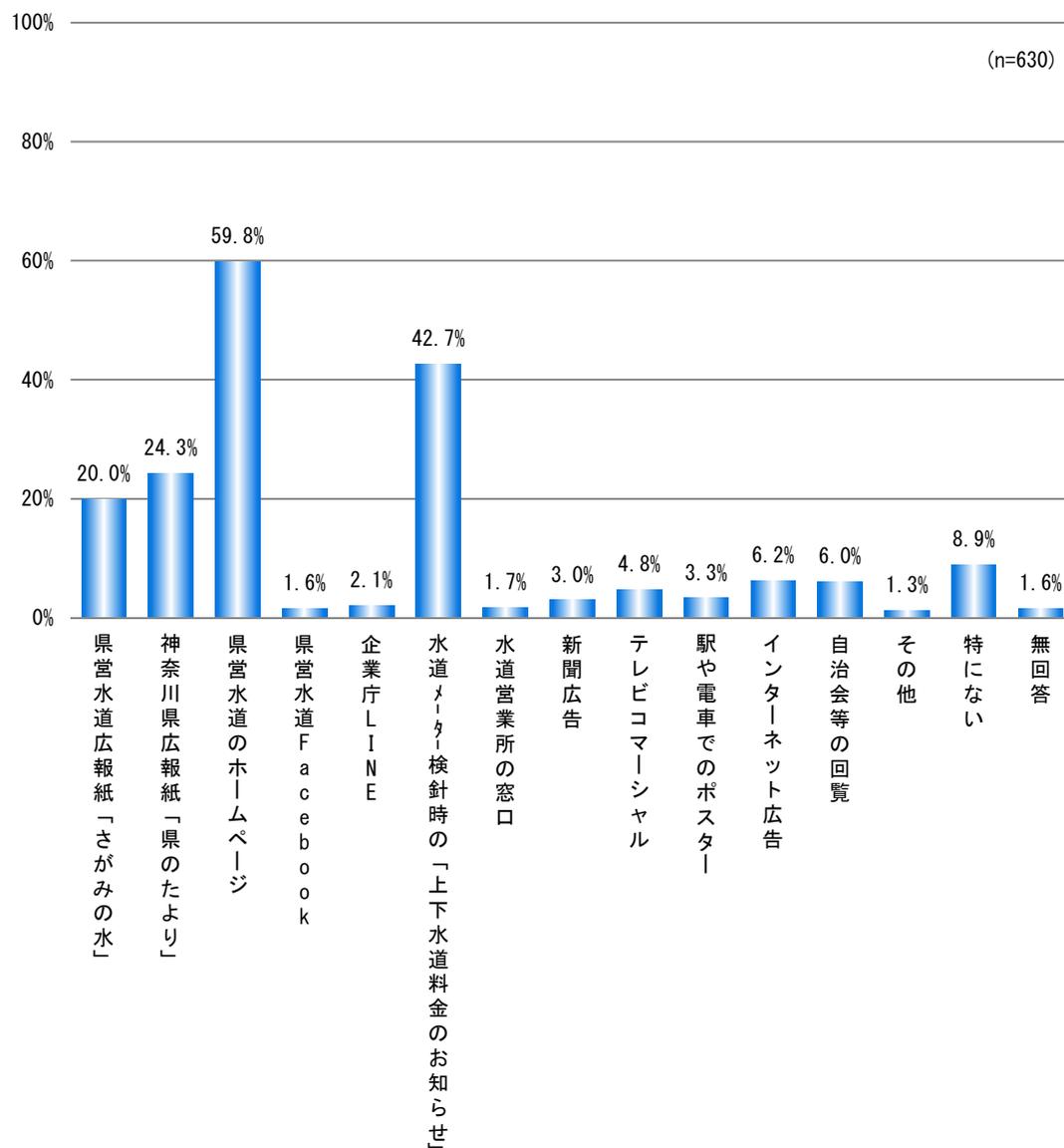


図 25 県営水道の情報を知る手段【複数回答】

【問 18】 現在、県営水道が行っている事業等についてどう思いますか。（あなたのお考えに最も近いものをそれぞれ1つだけ選び、○をつけてください。）

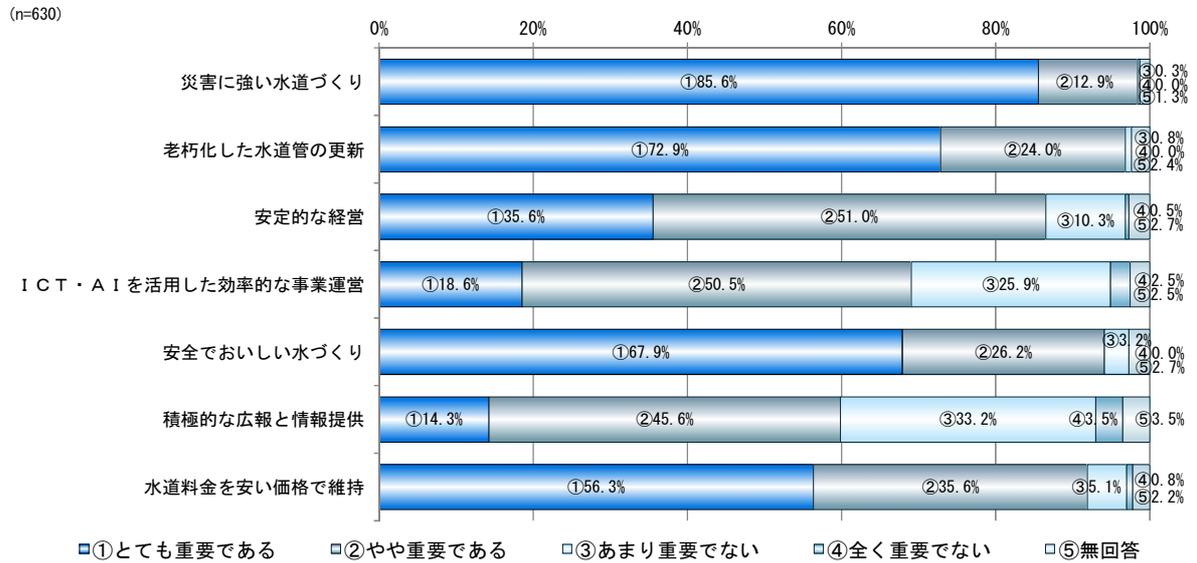


図 26 県営水道が行っている事業【単数回答】

資料 2 調査票

神奈川県営水道についての事業所調査

<調査票>

令和元年11月

この調査票は、事業所の総務ご担当者や水道施設全般を管理している部署等、水道の使用状況を把握している方がご記入していただきますよう、よろしくお願いいたします。

ご記入にあたってのお願い

1. この調査票は、事業所としてのお考えをご回答ください。
2. 選択式の設問には、該当する項目の番号に○印をつけてください。
3. 質問によって、○は（1つだけ）（いくつでも）と回答数を指定していますので、その範囲内で選択してください。
4. ご回答が「その他」に該当する場合は、（ ）内に具体的な内容を記入してください。
5. 筆記用具の種類、色は問いません。

ご回答いただきましたこの調査票は、同封の返信用封筒（切手は不要です。）に入れ、**令和元年12月2日（月）**までにご投函くださいますようお願いいたします。

【お問い合わせ先・調査主体】

神奈川県企業庁企業局水道部経営課 経営企画グループ

〒231-8588 横浜市中区日本大通1

電話 (045)210-7219（平日 8:30~17:15）

URL <http://www.pref.kanagawa.jp/docs/r4a/kensuiosirase/ishiki.html>

※この調査は、神奈川県企業庁が下に記載の機関に委託しています。
株式会社アストジェイ
〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町 3-7-4

■最初に事業所のことについてお伺いします。該当する番号に○をつけてください。

【F1】 事業所の所在地はどちらですか。

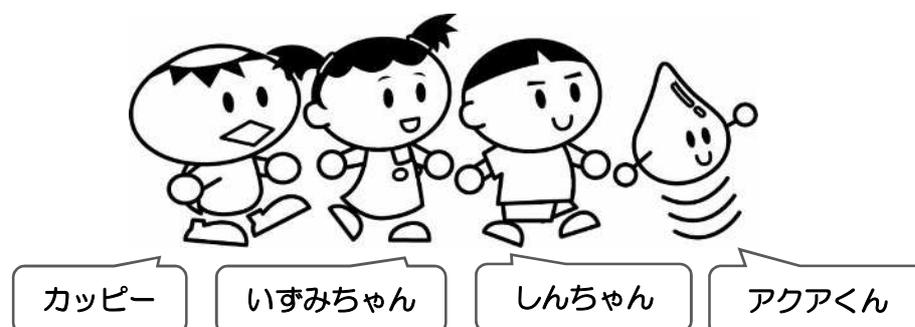
1. 愛川町	2. 厚木市	3. 綾瀬市
4. 伊勢原市	5. 海老名市	6. 大磯町
7. 小田原市	8. 鎌倉市	9. 相模原市中央区
10. 相模原市南区	11. 相模原市緑区	12. 寒川町
13. 逗子市	14. 茅ヶ崎市	15. 二宮町
16. 箱根町	17. 葉山町	18. 平塚市
19. 藤沢市	20. 大和市	

【F2】 事業所の業種は次のどれに該当しますか。

1. 製造業	2. 運輸業
3. 卸売、小売業	4. 不動産業、物品賃貸業
5. 飲食業	6. 宿泊業
7. 医療、福祉	8. 教育、学習支援業
9. 生活関連サービス業、娯楽業	10. その他のサービス業
11. その他（具体的に： _____）	

【F3】 事業所の従事者数は何人ですか。

1. 9人以下	2. 10～50 人
3. 51～100 人	4. 101～300 人
5. 301 人以上	



II. 今後の水道水使用の見込みについてお伺いします。

【問4】 今後、水道水の使用量の変化について、どのように見込んでいますか。
(1つだけ選び、○をつけてください。)

- | | | |
|---------------------|----------|----------|
| 1. 増える見込み | 2. 変わらない | 3. 減る見込み |
| 4. その他(具体的に: _____) | | 5. わからない |

「1.」「3.」以外をご回答の方は【問5】へお進みください。

→ 【問4】で「1. 増える見込み」に○をつけた場合に、お答えください。

【問4-1】 その理由についてあてはまるものはどれですか。

(1つだけ選び、○をつけてください。)

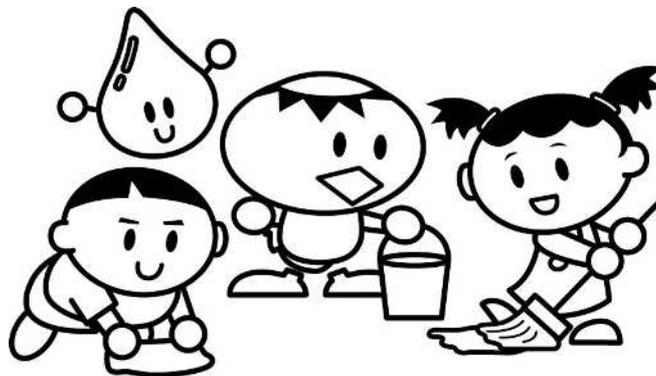
- | | |
|--|---|
| 1. 地下水の水質に問題があり、水道水に切り替えを検討している | |
| 2. その他の理由で水道水に切り替えを検討している
(その他の理由: _____) |) |
| 3. 生産体制の見直しにより他から生産ラインを移す予定がある | |
| 4. 製品等の生産量の増加が見込まれる | |
| 5. その他(具体的に: _____) |) |
| 6. わからない | |

【問4】で「3. 減る見込み」に○をつけた場合に、お答えください。

【問4-2】 その理由についてあてはまるものはどれですか。

(1つだけ選び、○をつけてください。)

- | | |
|---------------------------------|---|
| 1. 地下水の使用又は使用増を検討している | |
| 2. 地下水以外の水(再生水等)の使用又は使用増を検討している | |
| 3. 製品等の生産量の減少が見込まれる | |
| 4. 生産体制の見直しにより他に移転することを検討している | |
| 5. その他(具体的に: _____) |) |
| 6. わからない | |



III. 県営水道の事業について

【問5】 災害対策についてお聞きします。

【県営水道が進めている災害対策】

(参考：神奈川県営水道事業経営計画ホームページ)

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/r4a/sui-keikaku.html>



- ◆ 震度7にも耐えられるとされる地震に強い水道管（耐震継手管）への更新を進める
※震度7：2011年3月の東日本大震災や2016年4月の熊本地震で発生した地震がこのレベルだったが、地震に強い水道管はこれらの地震でも被害はなかった。
地震に強い水道管の割合の向上
・2018年度見込（20%）→ 2023年度目標（24%）

- ◆ 災害用指定配水池等*の耐震化を進める
※災害用指定配水池等とは、給水拠点となる配水池のうち、災害時に水を確保する機能を備えている配水池などで、全部で45箇所あります。
・2018年度見込（14箇所）→ 2023年度目標（26箇所）
⇒ 2023年度には災害用指定配水池が各市町毎に1か所以上耐震化されることとなります。



配水池耐震化工事
配水池内の柱、壁、床をコンクリートで補強

今後の災害対策の進め方についてどう思いますか。

（1つだけ選び、○をつけてください。）

1. 災害対策は今と同じ水準で進める
2. 災害対策は今を超える水準で進める
3. 災害で被害があったところを修復する
4. その他（具体的に： _____）
5. わからない

【問6】 水道管の更新の取組についてお聞きます。

【県営水道が行っている水道管の更新】

(参考：神奈川県営水道事業経営計画ホームページ <http://www.pref.kanagawa.jp/docs/r4a/sui-keikaku.html>)

◆水道管の現状

県営水道は、高度経済成長期の水需要の増大を受け、多くの水道管を急ピッチで整備しました。これらの水道管は順次更新時期を迎えますが、更新時期を超えて使用し続けると、漏水などのリスクが高まります。

近年県営水道で発生した
漏水事故

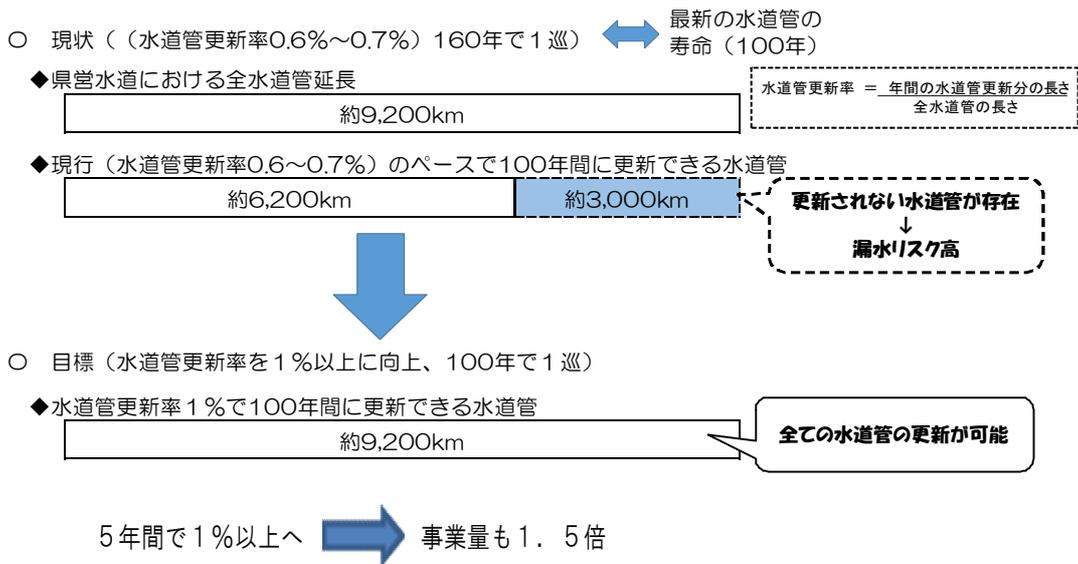


◆更新のペース

県営水道では、毎年すべての水道管のうち0.6～0.7%の水道管を更新してきました。最新の水道管は100年以上の耐久性がありますが、今のペースでは、すべての水道管の更新に160年かかってしまい、老朽化して漏水リスクが高くなります。

このため、県営水道では、今後、100年に1回交換するペースにスピードアップをしていく取組をしています。

※県営水道の水道管更新の取組



上記の水道管の更新の取組についてどう思いますか。

（1つだけ選び、○をつけてください。）

1. 水道管更新は160年かかる今のペースのままとする
2. 水道管更新は100年に1回のペースにスピードアップする
3. 水道管更新は100年に1回よりも早いペースにスピードアップする
4. 水道管更新はしないで、漏水したところだけを修理する
5. その他（具体的に： _____)
6. わからない

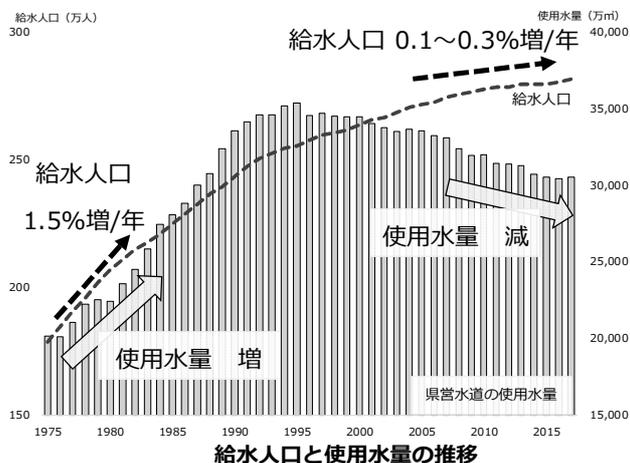
【問7】 これからの水道施設の更新及び維持管理に必要な水道料金についてお聞きします。

【県営水道における今後の使用水量と人口の予測】

(参考：神奈川県営水道事業経営計画ホームページ <http://www.pref.kanagawa.jp/docs/r4a/sui-keikaku.html>)

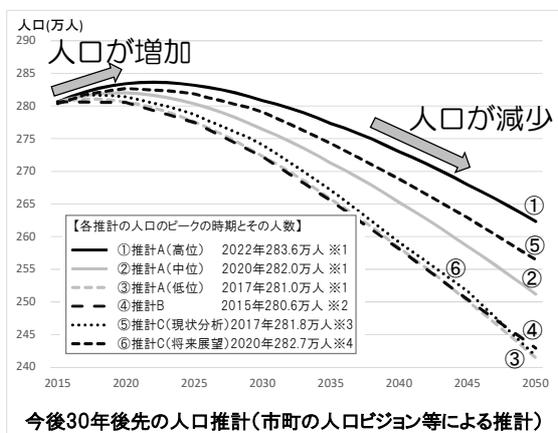
◆ 使用水量の減少

県営水道の使用水量は1995年度をピークに減少して、2017年度はピーク時に比べて14%も減少しています。1970年代は給水人口が年1.5%増えていましたが、近年は0.1~0.3%の増にとどまっています。



◆ 人口減少社会の予測

国等の推計では、今後、県営水道の給水人口の減少が見込まれ、その影響で使用水量が減少し、水道料金収入もさらに減少すると予想されます。そのため、たくさんある水道施設の更新・維持管理を続けることが難しくなると考えられます。



今後、数年のうちに給水人口は減少に転ずる

人口減少社会の中、水需要の減少傾向が強まるというかつてない厳しい時代に入

給水人口は、2020年頃をピークに減少に転じる。30年後には、現在から約30万人減少の見込

※1 県企業庁が給水区域内人口を高位・中位・低位に分けて試算
 ※2 『日本の地域別将来推計人口(2018年推計)』をもとに県企業庁が給水区域内人口を試算
 ※3 地域人口ビジョン等で施策効果を反映する前の市町の推計人口をもとに県企業庁が給水区域内人口を試算
 ※4 地域人口ビジョン等で施策効果を反映した後の市町の推計人口をもとに県企業庁が給水区域内人口を試算

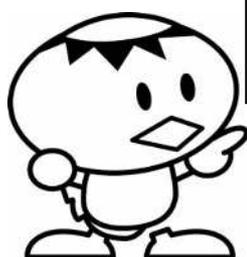
上記の状況が予測されていますが、今後の県営水道の水道施設の更新及び維持管理についてどう思いますか。

(1つだけ選び、○をつけてください。)

1. 今の水道料金の範囲で水道施設の更新・維持管理を行う
2. 水道料金が上がっても必要な更新・維持管理は行う
3. その他(具体的に： _____)
4. わからない

IV. 県営水道の上水道料金について

上水道料金は、
2か月分の使用量について
市町が運営している下水道の
使用料を合わせて
お支払いいただいています。



上下水道使用量のお知らせ

神奈川 太郎 様

999 号室

お客様番号 232-012345-601
(使用者番号 23201 23456 01499)

令和元年度 使用年月分：元年 8月～元年 9月分

今回指針 326 m³ 令和元年 9月 3日点検
 前回指針 306 m³ 令和元年 7月 3日点検
 旧メータ使用量 0 m³
 使用水量 20 m³ 排水量 20 m³

上下水道料金 4,334 円

【上下水道料金内訳】

水道 2,086 円 (154 円)
 下水道 2,248 円 (166 円)

()内の額が含まれています。

【問8】 現在お支払いいただいている上水道料金について、どう思いますか。

(あなたの考えに最も近いものを1つだけ選び、○をつけてください。)

- | | | |
|----------|--------------|----------|
| 1. 高いと思う | 2. 適正な料金だと思う | 3. 安いと思う |
| 4. わからない | | |

【問9】 上水道料金について、あなたが知っていることはどれですか。

(いくつでも選び、○をつけてください。)

- | |
|--|
| 1. 水道事業は独立採算制で、主にお客さまからいただく水道料金の収入によって運営していること |
| 2. たくさん水を使うと単価が高くなる料金体系であること |
| 3. 上水道料金は、2か月に1回検針して2か月分をまとめてお支払いいただいていること |
| 4. 市町が運営している下水道の使用料を上水道料金と合わせてお支払いいただいていること |
| 5. 基本料金と基本水量があること |
| 6. 水道水の価格は、同じ量のペットボトル水に比べて安いこと |
| 7. どれも知らない |

【県営水道の料金の仕組み】

基本料金とは：水を使う量に関係なく、定額でお支払いいただく料金で、2か月で1,420円（税抜き）です。

基本水量とは：2か月16㎡まではいくら使っても水道料金が変わらない制度です。

従量料金とは：水を使う量が2か月で16㎡を超えると、超えた水量に応じた料金をお支払いいただきます。これが従量料金です。

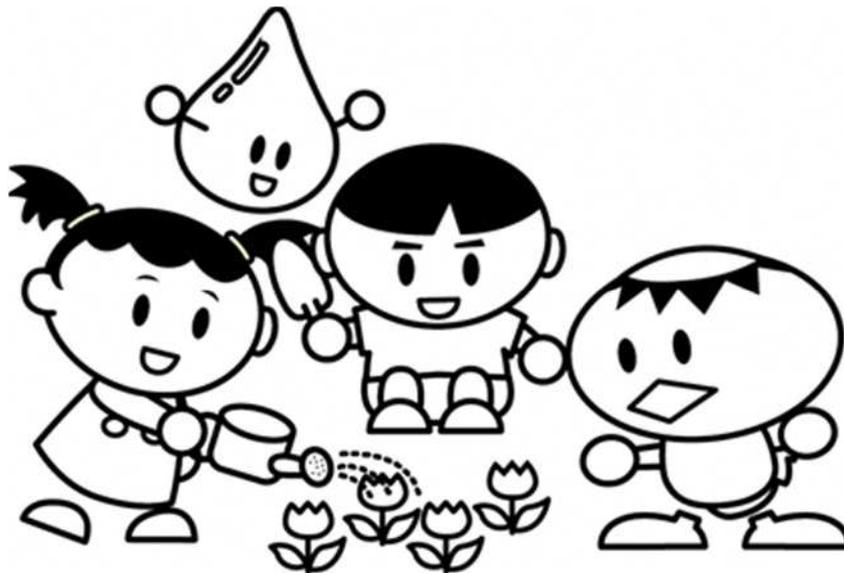
「家事用」料金・「業務用」料金の区分：料金は一般家庭の「家事用」料金と企業等の「業務用」料金に区別されており、「家事用」の従量料金は安くなっています。

【問10】 基本料金についてお聞きします。

県営水道では、水道をお使いいただくための必要な費用をまかなうために、使用量に関係なく基本料金として2か月分で一律1,420円（税抜き）をお支払いいただいています。この基本料金についてどう思いますか。

（1つだけ選び、○をつけてください。）

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 今のままでよい | 2. 基本料金は上げたほうがよい |
| 3. 基本料金は下げたほうがよい | 4. 基本料金は必要ない |
| 5. その他（具体的に： | ） |
| 6. わからない | |



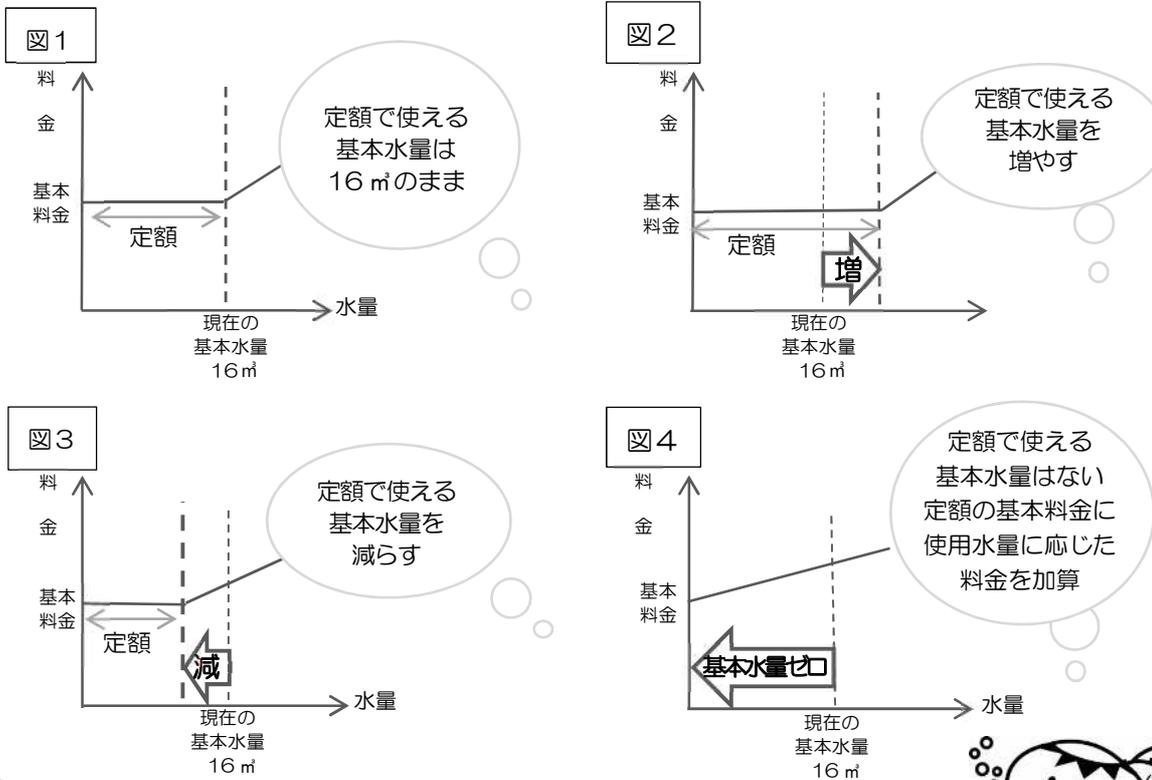
【問11】 基本水量についてお聞きします。

県営水道では、水道使用量が2か月で 16 m³以下であれば、水道料金が変わらないという基本水量についてどう思いますか。

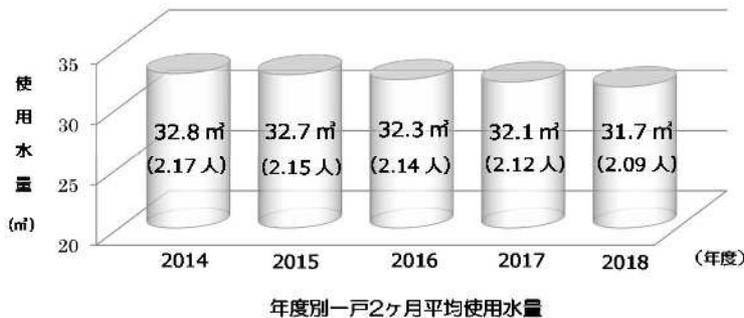
(1つだけ選び、○をつけてください。)

1. 基本水量は現状のまま、2か月16 m³のままでよい (図1 参照)
2. 基本水量は2か月16 m³より増やした方がよい (図2 参照)
3. 基本水量は2か月16 m³より減らした方がよい (図3 参照)
4. 基本水量はなくてもよい (定額で使える基本水量をなくす) (図4 参照)
5. その他 (具体的に：)
6. わからない

基本水量の考え方…選択肢1. 2. 3. 4. について



< 1世帯あたり2か月間の平均使用水量と平均人数 (県営水道) >
(30年度は1世帯あたり31.7 m³で1世帯当たりの人数は2.09人になります)



※ ○ は一戸あたりの平均人数

【問12】 従量料金についてお聞きします。

下の表のとおり、基本水量の2か月16㎡を超えると、1㎡ごとに料金（従量料金）が加算されます。また、使用する量が多くなるほど1㎡あたりの単価が高くなります。この従量料金についてどう思いますか。

（1つだけ選び、○をつけてください。）

1. 今の単価でよい	
2. 水を使うほど今より単価は高くした方がよい	
3. 使用量が変わっても単価は一律で変わらない方がよい	
4. 水を使うほど今より単価は安くなった方がよい	
5. その他（具体的に：	）
6. わからない	

< 県営水道の料金（2か月分・税抜額） >

使用水量	基本料金	従量料金 単価（円/㎡）								
		0～16㎡	17～30㎡	31～40㎡	41～60㎡	61～100㎡	101～200㎡	201～600㎡	601～2,000㎡	2,001㎡～20,000㎡
家事用	1,420	128円	135円	172円	237円	294円				
業務用	円	201円			221円	280円	337円	394円	436円	

【問13】 用途別料金についてお聞きします。

県営水道の料金は、一般家庭でお使いいただく「家事用」と企業等でお使いいただく「業務用」などの用途により区分しています。上の表のとおり、家事用は業務用よりも安くなっています。用途別料金についてどう思いますか。

（1つだけ選び、○をつけてください。）

1. 今のままでよい	
2. 家事用と業務用の料金の差をもっと大きくした方がよい	
3. 家事用と業務用の料金の差をもっと小さくした方がよい	
4. 「家事用」「業務用」の区分をなくし、お使いになる水道水の量に応じて設置してある水道管の太さなどにより料金の差を設けた方がよい	
5. その他（具体的に：	）
6. わからない	

【問17】 あなたは県営水道に関する情報を何によって知りたいですか。

(いくつでも選び、○をつけてください。)

1. 県営水道広報紙「さがみの水」	2. 神奈川県広報紙「県のたより」
3. 県営水道のホームページ	4. 県営水道Facebook
5. 企業庁LINE※	6. 水道メーター検針時の「上下水道料金のお知らせ」
7. 水道営業所の窓口	8. 新聞広告
9. テレビコマーシャル	10. 駅や電車でのポスター
11. インターネット広告	12. 自治会等の回覧
13. その他 (具体的に： _____)	
14. 特になし	

※企業庁LINE： <http://www.pref.kanagawa.jp/docs/yt7/linejyouhou.html> →



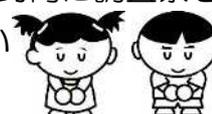
【問18】 現在、県営水道が行っている事業等についてどう思いますか。

(あなたのお考えに最も近いものをそれぞれ1つだけ選び、○をつけてください。)

	とても重要である	やや重要である	あまり重要でない	全く重要でない
1. 地震や豪雨などの災害に強い水道づくり	1	2	3	4
2. 老朽化した水道管の更新	1	2	3	4
3. 人口減少など大きな環境変化に対応した安定的な経営	1	2	3	4
4. 情報通信技術 (ICT) や人工知能 (AI) などの新しい技術を活用した効率的な事業運営	1	2	3	4
5. 安全でおいしい水づくり	1	2	3	4
6. 県営水道の取組についての積極的な広報及び情報提供	1	2	3	4
7. 水道料金を安い価格で維持している	1	2	3	4

■最後に、神奈川県営水道事業についてのご意見を自由にお書きください。

以上で終了となります。ご協力ありがとうございました。同封の封筒に調査票を入れ、**令和元年12月2日(月)まで**にご投函ください



令和元年度
神奈川県営水道についての事業所調査報告書

令和2年3月発行

神奈川県企業庁企業局水道部経営課

横浜市中区日本大通1 〒231-8588

電話 045-210-1111 (内線 7219~7220)

直通 045-210-7219

調査委託：株式会社アストジェイ